

2020年度 事業計画書

(2020年4月1日～2021年3月31日)

社会福祉法人
聖隷福祉事業団

2020年度 事業計画書 目次

2020年度事業計画にあたって	… 5
聖隷福祉事業団 理念～目標体系	… 7
聖隷三方原病院	… 9
聖隷おおぞら療育センター	… 13
三方原ベテルホーム	… 15
聖隷浜松病院	… 17
聖隷淡路病院	… 20
聖隷横浜病院	… 22
聖隷佐倉市民病院	… 24
浜松市リハビリテーション病院	… 27
聖隷袋井市民病院	… 29
保健事業部	… 31
聖隷健康診断センター	… 33
聖隷予防検診センター	… 35
聖隷健康サポートセンターShizuoka	… 37
地域・企業健診センター	… 39
在宅・福祉サービス事業部	… 41
<和合せいれの里> 特別養護老人ホーム和合愛光園 和合愛光園和合サテライト 生活支援ハウスやまぶき 障害者支援施設みるとす 聖隷トライサポート和合 和合愛光園デイサービスセンター 聖隷放課後クラブはなえみ和合 … 44 聖隷チャレンジ工房和合 障害者相談支援事業所くすのき 浜松市中障がい者相談支援センター 聖隷ヘルパーセンター 聖隷ケアプランセンター和 地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉	
聖隷めぐみ保育園	… 49
<聖隷ケアセンター初生> 和合愛光園初生サテライト … 51 聖隷デイサービスセンター初生	
<聖隷ケアセンター高丘> 訪問看護ステーション高丘 地域包括支援センター高丘 … 53 聖隷リハビリプラザIN高丘 聖隷ケアプランセンター浜松	
訪問看護ステーション住吉第二	… 55
聖隷コミュニティケアセンター	… 56
浜松市生活自立相談支援センターつながり	… 57
<聖隷厚生園信生> 聖隷厚生園信生寮 聖隷厚生園まじわりの家 … 58 訪問看護ステーション細江 聖隷ケアプランセンター細江 聖隷ヘルパーセンター浜松北	
<聖隷厚生園讃栄> 聖隷厚生園讃栄寮 生活訓練事業所ナルド … 61 地域活動支援センターナルド 障害者相談支援事業所ナルド 福祉共同住宅ファーストステップ	

2020年度 事業計画書 目次

聖隷厚生園ナルド工房	… 63
＜浜松学園＞ 障害者支援施設静岡県立浜松学園 聖隷チャレンジ工房浜松学園	… 65
もくせいの里	… 67
＜いなさ愛光園＞ 特別養護老人ホームいなさ愛光園 いなさ愛光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンターいなさ いなさ愛光園在宅介護支援センター いなさ愛光園ヘルパーステーション ほのぼのガーデン	… 69
＜聖隷ケアセンターいなさ＞ 地域包括支援センター細江 聖隷ケアプランセンターいなさ南部 聖隷リハビリプラザいなさ	… 72
＜聖隷ケアセンター三方原＞ 訪問看護ステーション三方原 聖隷ケアプランセンター三方原 聖隷デイサービスセンター三方原	… 74
＜浜北愛光園＞ 特別養護老人ホーム浜北愛光園 浜北愛光園デイサービスセンター 障害者相談支援事業所浜松東 聖隷ケアプランセンター浜北 地域包括支援センター北浜 訪問看護ステーション貴布祢 聖隷チャレンジ工房浜北 生活介護事業所きらめき	… 76
＜森町愛光園＞ 特別養護老人ホーム森町愛光園 森町愛光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンター森町 森町愛光園ホームヘルパーステーション 森町愛光園天宮サテライト 聖隷相談支援事業所森町 聖隷放課後クラブはなえみ森町	… 79
＜聖隷びゅあセンター磐田＞ 聖隷こども発達支援センターかるみあ 聖隷放課後クラブはなえみ磐田 相談支援事業所磐田みなみ 聖隷チャレンジ工房磐田 磐田市発達支援センターはあと 磐田市子育て支援総合センターのびのび 磐田市南部地域包括支援センター 磐田市南部障害者相談支援センター	… 82
＜浅田地区在宅複合事業＞ 訪問看護ステーション浅田 聖隷ケアプランセンター浅田	… 85
＜浦安市高洲高齢者福祉施設及び 猫実高齢者デイサービスセンター＞ 浦安市特別養護老人ホーム 浦安市高洲高齢者デイサービスセンター 浦安市高洲地域包括支援センター 浦安市ケアハウス 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター	… 86

2020年度 事業計画書 目次

浦安愛光園	…	89
浦安ベテルホーム	…	91
浦安せいれいクリニック	…	93
聖隷ケアプランセンター浦安	…	94
聖隷訪問看護ステーション浦安	…	95
＜松戸愛光園＞		
特別養護老人ホーム松戸愛光園		
松戸愛光園デイサービス	…	96
松戸愛光園ケアプランセンター		
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ松戸		
＜横須賀愛光園＞		
特別養護老人ホーム横須賀愛光園		
横須賀愛光園デイサービスセンター		
西第二地域包括支援センター	…	99
聖隷ヘルパーステーション横須賀		
聖隷訪問看護ステーション横須賀		
聖隷ケアプランセンター横須賀		
＜宝塚せいれいの里＞		
特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園	…	102
宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター		
聖隷ケアプランセンターすみれ		
ケアハウス宝塚	…	104
結いホーム宝塚	…	106
宝塚栄光園	…	108
＜聖隷ケアセンター宝塚＞		
聖隷ヘルパーステーション宝塚		
聖隷逆瀬川デイサービスセンター		
聖隷ケアプランセンター宝塚	…	110
訪問看護ステーション宝塚		
逆瀬川地域包括支援センター		
聖隷逆瀬台デイサービスセンター	…	112
聖隷デイサービスセンターあゆむ	…	113
聖隷デイサービスセンター結い	…	114
聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	…	114
＜花屋敷せいれいの里＞		
特別養護老人ホーム花屋敷栄光園		
花屋敷デイサービスセンター		
花屋敷地域包括支援センター	…	115
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷		
聖隷訪問看護ステーション山本		
聖隷ケアプランセンター花屋敷		
ケアハウス花屋敷	…	118
聖隷訪問看護ステーション北神戸	…	120
聖隷ケアプランセンター北神戸	…	120
＜聖隷カーネーションホーム＞		
特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム		
聖隷カーネーションホームデイサービスセンター	…	121
聖隷在宅介護支援センター淡路		
聖隷ケアプランセンター淡路		
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ		
＜淡路栄光園＞		
特別養護老人ホーム淡路栄光園	…	123
淡路栄光園デイサービスセンター		
＜聖隷ケアセンター津名＞		
聖隷訪問看護ステーション淡路		
聖隷ケアプランセンター淡路第二	…	125
聖隷ヘルパーステーション淡路		
聖隷ライフサポート津名		
聖隷こども園夢舞台	…	127

2020年度 事業計画書 目次

＜奄美佳南園＞	
特別養護老人ホーム奄美佳南園	
奄美佳南園デイサービスセンター	
奄美佳南園在宅介護支援センター	… 129
奄美佳南園ホームヘルプ事業所	
奄美佳南園訪問入浴事業所	
奄美佳南園春日デイサービスセンター	
聖隷チャレンジ工房カナン	
春日保育園	… 131
のぞみ園	… 133
聖隷かがやき	… 135
＜聖隷ケアセンター沖縄＞	
聖隷訪問看護ステーションゆい	
聖隷居宅介護支援センターゆい	… 137
聖隷デイサービスセンターゆい	
聖隷こども園わかば	… 139
聖隷こども園桜ヶ丘	… 141
聖隷こども園ひかりの子	… 143
聖隷こども園めぐみ	… 145
聖隷浜松病院ひばり保育園	… 147
聖隷のあ保育園	… 149
こうのとり保育園	151
聖隷こども園こうのとり東	… 153
聖隷こども園こうのとり豊田	… 155
＜聖隷こうのとり富丘＞	
聖隷こども園こうのとり富丘	
聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘	157
聖隷訪問看護ステーション富丘	
野上あゆみ保育園	… 159
野上児童館	… 161
逆瀬川あゆみ保育園	… 162
御殿山あゆみ保育園	… 164
御殿山児童館	… 166
高齢者公益事業部	… 167
浜名湖エデンの園	… 169
宝塚エデンの園	… 171
松山エデンの園	… 173
油壺エデンの園	… 175
浦安エデンの園	… 177
横浜エデンの園	… 179
＜聖隷藤沢ウェルフェアタウン＞	
藤沢エデンの園一番館	
藤沢エデンの園二番館	
藤沢愛光園	
聖隷デイサービスセンター藤沢	… 181
聖隷ケアプランセンター藤沢	
聖隷ヘルパーステーション藤沢	
聖隷訪問看護ステーション藤沢	
奈良ニッセイエデンの園	… 185
松戸ニッセイエデンの園	… 189
明日見らいふ南大沢	… 193
法人本部	… 195

2020年 事業計画 未来に向けた組織づくりへの挑戦

理事長 山本敏博

1. 多様な人材確保・育成と柔軟な働き方への対応
2. 社会福祉法人の使命の追求と地域共生社会の実現
3. 先駆的な取り組みと最高のサービスの提供
4. 経営の安定化と将来を見据えた組織改革

はじめに

2040年には高齢者人口全体の伸びは落ち着くものの、後期高齢者は増え、現役世代が減少することが見込まれている。国は少ない人手でも安定した医療・福祉サービスを持続させる為、「①ロボットやAI（人工知能）・ICT（情報通信技術）などの実用化推進とデータヘルス改革」、「②タスクシフティング（他職種への業務移管）、シニア人材の活用推進」、「③組織マネジメント改革」、「④経営の大規模化・協働化」に取り組むとされている。

聖隷福祉事業団（以下、聖隷）としても、将来の社会を想定し、持続可能な法人のあり方、他法人・他団体との連携の形を検討していかなければならない。引き続き、地域共生社会の実現に向けて、多様な人材の確保と柔軟な働き方、経営の一層の安定化に取り組み、AIやICTなどの活用、次世代ヘルスケアへの対応を準備していく。

1. 多様な人材確保・育成と柔軟な働き方への対応

働きやすい環境を整備し、優秀な人材を確保していくことは質の高い医療福祉サービスを提供するうえで極めて重要であり、聖隷としてもさらなる「人材の確保と育成」が必要である。シニア世代や外国人、障がい者、子育て・介護・病気の治療などと仕事を両立する職員など多様な人材が活躍し、長く働き続けられる環境を整備していく。また、女性の更なる活躍推進に向けた取り組み・研修、将来の管理者の育成などを含め、聖隷の事業の根幹である人づくりを継続する。2019年の働き方改革関連法に沿って、長時間労働の是正に取り組み、タスクシフティング等、医師の負担軽減につながる体制整備も検討する。

2. 社会福祉法人の使命の追求と地域共生社会の実現

社会福祉法人として誰もが住み慣れた場所で安心して暮らし続けられる地域を守っていくため地域公益的活動にも積極的に取り組む。それぞれの地域で困っていること、制度の狭間のニーズに行政や制度では対応できないこと、高齢者や障がい者、子どもなど、地域のセーフティネットとしての機能を高めていく。また、地震や台風など大規模な災害時に各施設・事業に期待される役割を明確にし、非常時に地域に貢献できるよう整備していく。

3. 先駆的な取り組みと最高のサービスの提供

医療・介護記録の電子化などに取り組み、健診データなどとともに多くの情報が蓄積できるようになった。国のデータヘルス改革の進展をにらみ、医療・介護のビッグデータ活用やゲノム情

報の分析など、行政や研究機関等と連携して蓄積されたデータの活用について研究を進める。遠隔診療、見守りセンサーなどの導入やさらには AI やロボットなどの情報技術を活用することで、利便性の向上、業務の効率化、生産性の向上をめざす。また、医療や介護の先進国における取り組みを学び、聖隷のサービス・技術を世界水準のものとして、海外へ提供することを検討していく。

政府の骨太の方針においても健康づくりや疾病・介護予防の推進が明記されている。特定健診等のさらなる普及や介護予防等を推進するとともに、*¹健康経営に取り組む。*²社会健康医学や医工連携などの事業に参画することで、医療・福祉を通じた地域づくり、産業発展にも貢献していく。

4. 経営の安定化と将来を見据えた組織改革

2019 年は病院・施設などの新設・増改築といった大規模な投資を行い、2020 年は浜名湖エデンの園増築新 1・2 号館が竣工する。これにより税引前当期活動増減差額は縮小するが、これらを新たな資産として活用するとともに、診療報酬改定への対応など様々に増収を図り、各所の生産性を高めることで経営の早期安定化に努めていく。

聖隷のガバナンス体制は社会福祉法改正を先取りしたものだが、今後も現場が活力とスピード感をもって事業を推進するため、従来の事業部制や執行役員体制への評価、社会福祉連携推進法人制度の研究など経営組織の在り方についても検討をしていく。

90 周年の節目の年度として

2020 年は聖隷創立 90 周年を迎える。聖隷の事業を支えていただいたすべての方々に感謝するとともに、変わる事のない理念を体現した 5 つの「聖隷の使命」に立ち返り、聖隷の存在意義の再確認を行いたい。90 周年を機に次期中期事業計画の策定、グローバル化やダイバーシティ、*³SDGs などを取り入れ、未来に向けた組織づくりに挑戦していく。

*¹「健康経営」（出典：経済産業省）

従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践すること。従業員等への健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織の活性化をもたらし、結果的に業績向上につながる。

*²「社会健康医学」（出典：静岡県）

健康寿命の更なる延伸に向け、病気を予防、または病気にならないような地域・環境を研究する医学。

*³「SDGs」（出典：外務省）

2015 年 9 月の国連サミットで採択された 2016 年から 2030 年までの国際目標 (Sustainable Development Goals)。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成される。

基本理念

キリスト教精神に基づく
「隣人愛」

使命

- ・いのちと尊厳のために
- ・利用される人々のために
- ・地域社会とともに
- ・未来を築く
- ・最高のものを

ビジョン2020

人・地域・社会・時代が必要とする
ヒューマンサービスを追求し、
新たな価値を創造する

中期事業計画

事業部中期事業計画

事業団年度目標

事業部年度目標

職員行動指針

わたしたちは、
ひとりひとりの
命と尊厳を守ります

わたしたちは、
サービスを求める
すべての人々に、
誠実かつ献身的に仕え、
その自立を支援します

わたしたちは、
「保健・医療・福祉・介護」
サービスを通して
社会に貢献し、
地域の人々との
強い絆を育みます

わたしたちは、
先駆的・開拓的精神で
新たなニーズの発見に努め、
常に課題に挑戦します

わたしたちは、
ひとりひとりが専門職としての
倫理と誇りを持ち、
最高の技術を提供します

次ページへ

【用語の定義】

○使命：職員は何を大切に考えて仕事をするか ○ビジョン2020：2020年にどのような組織であるべきか

ビジョン2020
人・地域・社会・時代が必要とする
ヒューマンサービスを追求し、
新たな価値を創造する

1. 最高の質を追求し提供する
2. 社会福祉法人としての使命を追求する
3. 職員は高い専門性と経営的視点を持ち、能力を発揮する
4. 多様な能力、価値観を持った人材や女性の活躍を推進する
5. 社会のニーズに応える先駆的な事業・サービスを創造する
6. 地域包括ケアシステムを構築し、シームレス^{※1}なサービスを提供する
7. 事業を継続し発展するためにサービス活動収益 年2.5%^{※2}成長を維持する

2016年度

2017年度

2018年度

2019年度

2020年度

最終年度です

1. 最高の質を追求し提供する	6. 地域包括ケアシステムを構築し、シームレス^{※1}なサービスを提供する
①利用者視点に立った良質なサービス提供の実践	①地域枠での聖隷独自の事業展開と事業部の融合
②人口動態の変化に伴うサービスの変革	②聖隷と他法人の連携による地域包括ケアシステムの構築
③最新医療・介護技術、システムの導入・構築	③地域包括ケアシステムにおける連携の仕組み作り
2. 社会福祉法人としての使命を追求する	7. 事業を継続し発展するためにサービス活動収益 年2.5%^{※2}成長を維持する
①社会福祉法人としての公益活動の推進・情報発信	<2020年度到達目標>
②新たな組織体制の追求	①サービス活動収益 対2015年度比 112.5%以上
3. 職員は高い専門性と経営的視点を持ち、能力を発揮する	②経常増減差額率 5か年累計平均 3.0%以上
①サービスの質を意識し、専門職としての知識・技術・価値の追求	③職員一人あたりサービス活動収益 対2015年度比 107.0%以上
②経営を担う人材、新たな価値を創造する人材の育成	④職員一人あたり経常増減差額 対2015年度比 112.0%以上
③中期事業計画を理解し、自ら考えて行動する人材の育成	⑤実質資金増加額 5か年累計 60億円以上
4. 多様な能力、価値観を持った人材や女性の活躍を推進する	⑥純資産比率(自己資本比率) 40.0%以上
①多様な働き方の創出	⑦人件費率 58.0%以内
②女性の活躍を推進するためのキャリア形成支援	⑧有利子負債比率(対サービス活動収益) 30.0%以内
5. 社会のニーズに応える先駆的な事業・サービスを創造する	※1 シームレス：地域において保健・医療・福祉・介護サービスを事業団内、他法人との連携により継ぎ目なく受けられること。
①効果的な投資による経営資源の最大活用	※2 成長率 年2.5%：新たな事業展開、医療・福祉人材の確保等を行う中で、安定的な経営を行うために年2.5%以上の成長が必要である。
②社会環境の変化を先取りした事業の展開	2020年度終了時、サービス活動収益対2015年度比112.5%以上
③地域に求められるサービスの提供	

(2015.11.27 理事会承認)

医療保護施設 総合病院 聖隷三方原病院

勤務医を取り巻く環境は激動期にある。2024年4月に施行される「医師の働き方改革」に向けた取り組みは、すでに動き出す必要に迫られている。医師1人1人の細やかな労働実態にまで病院長の管理が要求され、時間外の在院に対して業務か自己研鑽かを書面で残さなければならなくなる。診療科ごとに業務を見直し、無駄を省き効率よく働く改革を行いたい。また、看護特定行為の研修施設として本格稼働を目指しており、中長期的な目的は医師労働環境の改善と思っている。新専門医制度も発足3年目にしてやっと当院にそのまま残ってくれる医師が増えてきた。この流れは大切にしたい。一部診療科で大学医局派遣医師の減少により、現場の医師の負担が増加している。これから進める「働き方改革」には全く逆行しているが、やはりこのような事態に備え、病院独自で医師を養成する必要性を痛感する。今後超過勤務時間の上限が設定されると、医師数の増加なくして病院の医療提供サービスを維持できない。その具体的な対策と、もしもその対策が達成できない場合の業務縮小方法などまで検討する段階にきている。

屋上常駐ヘリポートが完成して11年経過するが、格納庫がないため、台風など悪天候時にはヘリが名古屋に退避していた。格納庫建築の用地を探していたが、ようやく病院近郊に見つけることが出来た。2020年度中に格納庫を完成させ、長年の夢をかなえたい。

また2019年度に完成した「地域障がい者総合リハビリテーションセンター」の運用もより充実したものとしたい。併設アリーナの建築目的の1つでもあった、障がい者スポーツ団体の練習の場として、夜や日曜祝日などリハビリに使用していない時のアリーナの貸し出しも軌道に乗せたい。

地域医療構想については、5年後の実現に向け調整会議で活発な話し合いが進められる事になるが、当院としてどうすることが地域への貢献となるかという視点で協力したいと考える。

【理念】

キリスト教精神に基づく「隣人愛」

【経営方針】

この地域にしっかりと根ざし、住民に信頼される病院づくり

【中期的な目標】

1. 安全で質の高い医療の提供
2. 働き方改革と人づくり文化の継承
3. 地域完結型医療実現への取り組み
4. 地域より求められる病院機能の整備
5. 安定した経営基盤の確保

【事業・運営計画】

- 1 安全で質の高い医療の提供
 - (ア)安全な医療の提供
 - ①医療安全管理体制の評価と充実
 - ②感染管理体制の評価と充実
 - (イ)質の高い医療の提供
 - ①各部門の専門特化した医療体制の確立
 - ②専門・認定・特定行為実践看護師の育成と活用
 - (ウ)新たな病院機能の提供
 - ①各種センター設立に向けた検討
 - ②地域障がい者総合リハビリテーションセンター安定稼働
 - ③手術室機能の更なる促進
 - ④外来・画像診断部門の再構築
 - ⑤診療における ICT の推進 (※1)
- 2 働き方改革と人づくり文化の継承
 - (ア)働き方改革の推進
 - ①医師の働き方改革への対応
 - ②勤務環境改善への取り組み
 - (イ)医師・看護師・介護職の人材確保と定着
 - ①専門医・専攻医採用の強化
 - ②看護師の安定した確保
 - ③介護職・看護助手採用の強化
 - ④新専門医制度への対応 (基幹プログラムの追加)
 - ⑤臨床研究支援の検討と構築
 - (ウ)職員教育の充実
 - ①指導者育成の推進
 - ②キャリア形成への支援
 - ③OJT の強力な推進
 - ④看護師特定行為研修の開始
 - (エ)多様な雇用形態の促進
 - ①障がい者雇用の維持
 - ②エルダー職の活用
 - ③両立支援が必要な人達の雇用 (※2)
- 3 地域完結型医療実現への取り組み
 - (ア)地域医療構想への対応
 - ①病床機能の検討

(イ)地域包括ケアシステムの推進

- ①入退院支援の質向上
- ②福祉・介護施設との連携推進
- ③アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の推進（※3）

4 地域より求められる病院機能の整備

(ア)各種認定施設としての機能の充実

- ①高度救命救急センター
 - a 重症救急患者の受け入れ体制の充実
 - b ドクターヘリ格納庫・ヘリポートの整備
- ②基幹型認知症疾患医療センター
 - a 他医療機関との連携システムの整備
 - b 地域包括支援センター、福祉・介護施設との連携
 - c 相談支援体制の充実
- ③精神科病棟
 - a 精神科・身体合併症ユニットの体制充実
 - b 西部精神科救急指定病院の体制充実
- ④災害拠点病院
 - a 大規模災害に向けた地域連携
 - b 防災対策の強化（BCP含む）
- ⑤地域がん診療連携拠点病院
 - a がんサポートセンターの継続的な運営
 - b がん地域連携クリニカルパスの活用推進
 - c がんゲノム医療連携の体制充実
- ⑥地域医療支援病院
 - a 病診・病病連携の強化
 - b 地域連携クリニカルパスの推進
- ⑦基幹型臨床研修病院
 - a 臨床研修医の確保
 - b 指導體制・プログラムの充実
- ⑧聖隷おおぞら療育センター
 - a 適切な入所退所の運用
 - b 医療体制の確立

(イ)利用者サービスの向上

- ①病院情報公開の強化
- ②利用者満足度の向上

(ウ)病院ボランティアの充実

(エ)医療保護施設としての活動

(オ)環境保全のための省エネ活動の継続

5 安定した経営基盤の確保

(ア) 診療報酬改定への対応

(イ) 施設基準の精度管理

(ウ) 職員の経営参画意識の向上

① 生産性向上への取り組み強化

② コストパフォーマンスの向上

(※1) ICT：通信技術を活用したコミュニケーション。情報処理だけではなくインターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称

(※2) 両立支援：子育て、介護、病気の治療などの環境におかれている人

(※3) ACP：患者本人と家族が医療者や介護提供者などと一緒に、現在の病気だけでなく、意思決定能力が低下する場合に備えて、あらかじめ終末期を含めた今後の医療や介護について話し合うこと

【数値指標】

総収益	22,430 百万円	職員数	1,577 人
外来患者数	1,000 人	外来単価	19,200 円
入院患者数	全体 635 人 ＜一般 566 人・精神 63 人・結核 6 人＞		
入院単価	全体 64,900 円 ＜一般 69,400 円・精神 27,000 円・結核 39,000 円＞		
病床利用率	全体 83.1%＜一般 88.4%・精神 60.6%・結核 30.0%＞		
紹介率	70.0%	逆紹介率	100.0%

《医療保護施設・無料低額事業》

当院は、医療を必要とする要保護者に対して医療の給付を行うことを目的とする施設であり、また、経済的理由により適切な医療を受けられない人に対し、無料または低額で診療をおこなう事業を展開している施設でもある。2020 年度も引き続きこのような方々に対して、積極的に手を差し延べ相談に乗り、必要な医療を受けやすい環境を整えていく。

《助産施設 聖隷三方原病院併設助産所》

助産事業は、シングルマザー等への経済的、精神的援助という観点においても意義のある制度である。2020 年度も引き続き「みどりの通信」「院外ホームページ」等による地域への広報を図り、当制度対象者の利用しやすい環境を整えていく。

総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター

聖隷おおぞら療育センター〈医療型障害児入所施設／療養介護（重症心身障害児施設）・短期入所（ショートステイ）〉

施設サービスの質の管理に重点を置き、病院機能との連携を強化して地域のニーズに対応できる利用体制の充実を図る。また、利用者に提供する日常活動やケア内容を安全で質の高いものとするために、組織体制と業務分掌の見直しを検討し、職員教育の充実、介護・看護職員の人材確保、利用者の生活の安全確保に向けた防犯体制強化に取り組み続ける。

ショートステイについても、安全で質の高いサービスの確保に努め、在宅の重症心身障害児者が安心して地域生活が継続できるように支援していく。

既存広報誌「おおぞら」の編集を見直し、地域に開かれた施設情報の発信を目指す。

あさひ〈生活介護〉

利用者に対する医療的ケアの必要性が高まり、高度な看護・介護技術が必要となっている。また、生活支援の質をさらに高めるため、職員体制の充実や職員教育を積極的に行っていく。在宅重症心身障害者の生活を支える重要な役割を果たしていくために、安定的な運営を行っていく。

児童発達支援センターひかりの子〈児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・障害児相談支援・特定相談支援〉

在宅の重症心身障害児を支える事業として通所利用の障害児への支援だけでなく、地域で生活する重症心身障害児支援を積極的に行っていく。地域の中核的な療育支援施設としての役割を果たしていくために、センター全ての事業が安全で質の高いサービスの提供に努め、安定的な運営を行っていく。

【経営方針】

聖隷おおぞら療育センターは、施設利用者に対し、障害に即した医療を提供するとともに、個の尊厳を護り、質の高い生活を提供します。

【事業・運営計画】

1. 安全で質の高い障害児者支援の実践
2. 全診療科協力のもとでの専門医療の提供
3. 職員教育の充実
4. 業務改革の更なる推進

【数値指標】

	入所	短期入所	ひかりの子	あさひ
サービス活動収益	2,067,600 千円	173,400 千円	80,500 千円	124,000 千円
職員数	203 人		13 人	21 人
入院患者・利用者数	140 人	—	—	—
入院単価（医療）	29,500 円	—	—	—
外来患者・利用者数	53 人	—	20 人	40 人
外来単価（医療）	4,900 円	—	—	—
単価（福祉）	8,980 円	29,680 円	14,440 円	12,550 円

聖隷三方原病院併設 介護老人保健施設 三方原ベテルホーム

2019年度は超強化型の施設として在宅復帰・在宅生活支援の推進だけでなく医療依存度の高い方、終末期の方、緊急入所、緊急ショートステイの受入れなど、地域包括ケアシステムの中核を担う老人保健施設としての役割を果たすことができた。特に上半期に入所の稼働率が向上し、安定した事業運営となった。通所リハビリテーションに関しては、大規模Ⅰから通常規模へと区分が変更となった。これによりさらに個別性に対応したサービス提供となり利用者の満足度向上に繋げることができた。

2020年度は、さらなる在宅生活支援、地域ニーズに対する柔軟な受入れを推進し、聖隷三方原病院後方支援施設としてあるべき姿を追求する年としたい。さらに、新規居宅事業としてスタートする訪問リハビリテーションを活用し、シームレスな在宅復帰支援を実現することと、保有する施設、人材を有効に活用し、より地域に貢献できる事業を推進する。また、新規導入した看護・介護記録システムを本稼働することにより、業務の効率化・スリム化による職員の働き方改革の推進や、データ分析によるリスク対策など、利用者寄り添える安心安全なサービスを提供する。無料低額事業については、引き続き生活困難者の経済的支援とともに、自立生活に向けて他の社会サービスと連携した援助を行う。

【施設理念】

キリスト教精神に基づく「隣人愛」

【経営方針】

地域とつながり その人らしい暮らしを支える

【中期目標】

1. 在宅復帰・在宅生活継続支援のさらなる強化
2. 安定した経営基盤構築への取り組み
3. 安全で質の高いケアの提供
4. 次世代を担う人材育成と働く支援
5. 地域社会に期待される施設づくり

【事業・運営計画】

- 1 在宅復帰・在宅生活継続支援のさらなる強化
 - (ア) 訪問リハビリテーションの活用方法の構築
 - (イ) 在宅復帰、在宅生活継続を常に意識したチームケアの提供
 - (ウ) 社会参加を意識できる通所リハビリテーション
 - (エ) ショートステイの満足度向上
 - (オ) 行政、医療、施設、居宅等関係機関との連携強化

- 2 安定した経営基盤構築への取り組み
 - (ア) ベッド稼働率の向上
 - (イ) 新規利用者の獲得
 - (ウ) 聖隷三方原病院後方支援施設としての連携強化
 - (エ) 職員ひとりひとりの経営参画意識の向上
 - (オ) 報酬改定に向けた情報収集
- 3 安全で質の高いケアの提供
 - (ア) 個々の利用者にあった医療・ケアの提供
 - (イ) 各フロアのサービスの統一と協働（ハード・ソフト）
 - (ウ) ACP の正しい理解と活用
 - (エ) リスク分析と対策
 - (オ) DCM を用いたパーソンセンタードケアの推進
- 4 次世代を担う人材育成と働く支援
 - (ア) 理念と経営方針の浸透
 - (イ) 看護・介護システムの安定稼働
 - (ウ) 高い医療ニーズに対応できる人材の育成
 - (エ) 働きやすい職場労働環境づくりの推進
 - (オ) 福祉機器導入と ICT 化の推進
- 5 地域社会に期待される施設づくり
 - (ア) 地域貢献活動の推進
 - (イ) 緊急入所、緊急ショートステイの受け入れ継続
 - (ウ) 無料低額事業（生活困窮者支援）の推進
 - (エ) 防犯対策・BCP（事業継続計画）の強化
 - (オ) ボランティア、学生実習、体験学習の受け入れ推進

《無料又は低額介護老人保健施設利用事業》

当施設は、経済的理由により適切な介護を受けられない人に対し、無料または低額でケアを行う事業を展開している施設である。2020 年度も引き続きこのような方々に対して、積極的に手を差し延べ相談に乗り、必要な介護を受けやすい環境を整えていく。

【数値指標】

	入所（短期入所含む）	通所リハビリテーション	訪問リハビリテーション
利用者数/月	129 人 入所 120 人 短期入所 9 人	30 人 介護保険 29 人 介護予防 1 人	2 人
単価/人	14,570 円	12,200 円	11,000 円
サービス活動収益：		804,000 千円	職員数： 94 人（常勤換算）

総合病院 聖隷浜松病院

2019年度は病床稼働の偏在解消と稼働率向上、そして新規患者の増加を目指してきた。当院の取り組みを地域の皆さまに知っていただけるよう広報を強化し、紹介患者数は増加、病床稼働率も向上した。働き方改革では10月より土曜外来休診やタスクシフトの推進など、医師をはじめとした労働環境の改善と負担軽減に取り組んだ。また、高度専門医療の推進では、ロボット手術として新たに子宮体がん、直腸がんの手術を開始した。災害対策にも力を入れ、ANPICの体制構築を図り、防災訓練や講演会により教育体制を充実させた。

2020年度は外来体制を見直し、駐車場待ち対策にも取り組むことにより、多くの外来患者を受け入れることを目指す。入院においては病床再編成により更なる効率的な病床活用を進めていく。高度先進医療の推進では新規術式を拡大し、当院を必要とされる方々の要望に更に応えていきたい。病院を取り巻く環境はますます厳しい状況に直面しており、現状維持は停滞であるとの考えのもとに、我々は『進化』し続け、今後も地域の中核病院として高度急性期医療を提供していく。

【病院使命】

“人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します”

【病院理念】

“私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ”

【運営方針 2020】

私達は常に信頼される病院であり続けます

■望まれる良質な医療を提供します ■地域とのつながりを大切にします

■良い医療人を育てます ■働きやすい環境を作ります ■健全な経営を継続します

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

1. 利用者満足の向上

(ア) 選ばれ続ける病院

①患者満足度調査結果（LINE）年4回実施

この病院に満足している 90%以上

※その他4項目

職員満足度調査結果（デスクネット）年4回実施

この病院で働くことにして良かった 66%以上

※その他4項目

②新入院患者数 1,790名以上/月

③外来患者数 1,623名以上/月

④院内滞在時間 対前年比10%短縮（初診・再診別）

(イ) 丁寧な説明と対応

①限度額適用認定証提出率 65%以上

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

2. 地域に必要とされる高度・急性期医療の充実

(ア) 断らない医療の提供	①救急車制限時間（重症患者制限）	30 時間以下
	②紹介患者断り率	3%以下
(イ) 効率的な病床活用	①DPCⅡ期退院患者比率	54%以上
	②病床稼働率	93.5%以上
	③病棟別稼働率の差異（7:1 病棟比較）	20%以下
(ウ) 患者家族支援の強化	①入退院支援加算 1, 3 算定率	40%以上
(エ) 地域連携の強化	①紹介患者数	2, 050 人以上/月
	②中東遠地域からの紹介件数	235 人以上/月
(オ) 事業団内連携	①新規患者に対する ID リンク利用率	50%以上
(カ) がん診療の推進	①定位照射件数（サイバーナイフ件数）	10.5 件/月
	②新規がん患者数	130 件以上/月
(キ) 手術室の効率利用	①8:30～19:00 手術室稼働率	63%以上
	②手術室曜日別稼働率の差異	10%以下
(ク) 災害対策	①ANPIC24 時間以内返信率	80%以上

3. 医療の質と安全の保証

(ア) 安全な職場風土の醸成	①医師の IA レポート数	40 件以上/月
	②患者誤認発生率 事象レベル 2 以上	0.04%以下
	③麻薬・ハイアラート薬品関連の IA 発生率 事象レベル 2 以上	0.1%以下
	④転倒・転落による負傷発生率 事象レベル 2 以上	2.5%以下
	⑤手指衛生実施率	医師 35% 看護 74% 医技・事務 35%以上

4. チーム医療推進

(ア) 働き方改革	①超勤時間	医師前年比-10% 看護-0.2% 医技・事務-0.2%
	②有給休暇 5 日取得率	100%

「成長と学習」の視点（人材確保・成長のために）

5. 明日を担う人材育成と活用

(ア) 心身共に健康に働ける職場作り	①目標参画面接実施率	看護部 95% 医技・事務 85%以上
	②暴力発生報告書提出件数	前年度比 10%増
(イ) 新しい技術の資格取得支援	①ダビンチ手術件数	10 件以上/月
	②新規資格取得者数	80 件/年以上

「財務」の視点（経営・運営の安定のために）

6. 目指す医療ができる安定した財務

(ア) 年度予算の達成	①収益（サービス活動収益）	33,507 百万円以上
	②費用（サービス活動費用）	32,555 百万円以下
	③利益（経常増減差額）	1,040 百万円以上

【数値指標】

サービス活動収益	33,507 百万円		職員数	2,100 名	
入院単価	88,500 円	入院患者数	701 名	病床利用率	93.5%
外来単価	20,500 円	外来患者数	1,623 名	平均在院日数	10.6 日
地域医療支援病院紹介率	65.0%		逆紹介率		70.0%

【地域における公益的な取組】

2019 年度は、がん、脳卒中など様々な疾患や治療にまつわる地域住民向けの市民公開講座を開催した。（がん 5 回、脳卒中 1 回、その他 1 回）。治療と仕事の両立支援として、がんを含む長期療養者に対し、ハローワークの担当者や社会保険労務士らとともに相談会を定期開催した。また、事業主向けの「治療と仕事の両立支援セミナー」を開催し、疾病を抱えながらも働き続けられる社会の構築を目指した普及啓発活動をおこなった。

聖隷淡路病院

2019年度は「変革の年」を掲げ、経営改善に加えて組織力の向上を目標に施策を取組んだ年であった。2016年度より続けてきた「目標進捗管理」の仕組みを“職場ごとの目標”2018年度から、“職種、職場を超えたチームの目標”2019年度から“地域に出て行く、院内単価アップ”も設定し、職員一丸となって経営改善に取り組んできた。具体的には高齢化率38%を超える淡路島で利用者が安心して暮らせるように医師と外来看護が訪問診療、リハビリ医師とセラピストが訪問リハビリに取り組み、9月から地域包括ケア入院料1の施設基準を取得した。

産科は10月に当院600人目の赤ちゃんが誕生した。2014年7月から淡路市唯一の分娩医療機関として累計627件の分娩を取り扱ってきたが、常勤医師が確保できず、2019年12月をもって分娩の取り扱いを一時休止にすることとなった。今後は、婦人科診療および、検診を継続し、産後ケアに関する院内外の事業を新展開することで地域貢献していく。

2020年度は「新しい出発」の年と位置付けている。1999年12月に開設し20年が経過した。4月に整形外科医師2名が赴任する。当院の歴史の中で、これほどの医局体制の変化は前例のないことであり、2020年度新しい出発の年へと向かう準備は整った。これまでの取組みに加え、2020年1月より3階病棟の地域包括ケア病床40床を47床に増床した。21年目の新しい出発として淡路島北部の地域包括ケアシステムを支える役割を果し、より経営改善に積極的に取り組む。

【施設理念】

『聖隷精神（隣人愛）を継承し、地域に根ざした医療・福祉に貢献する』

【経営方針】

1. 保健・医療・福祉の連携により地域のニーズに対応し、住民の健康と生命を守る
2. 職員の資質と組織力の向上に努め、安全で質の高い医療サービスを提供する
3. 地域と共に共存・共栄する為の運営を推進する
4. 継続的に運営し続ける健全な経営基盤を確立する
5. 自然環境、防災対策に配慮した運営を進める

【事業・運営計画】

1. 病院機能の強化

- (ア) 一般病床・地域包括ケア病床の安定稼働に向けた取り組みを継続的に実行する
- (イ) 在宅医療や人事交流など淡路地区聖隷施設と連携し、淡路島完結型医療を推進する
- (ウ) 地域に出ていき、近隣開業医・病院・福祉施設と継続的に連携をする
- (エ) 淡路市との連携および院内の産後ケア事業を再構築する
- (オ) 整形外科領域の医療提供拡大に伴う人材育成を強化する
- (カ) 医局・医師個人のネットワーク・紹介会社等、あらゆる手立てを活用し医師招聘を行う
- (キ) 医療機関・施設・住民別に顔の見える広報活動を行い、当院のブランド力の定着を図る

(ク) 地域住民（企業）の健康診断受診率を高め、保健事業の質的充実を図る

2. 質の高いチーム医療の推進と人材の確保と育成

(ア) チーム医療の推進と安心・安全な医療の提供

- ① 各職種の専門性向上と診療部との連携により質の高いチーム医療を実践、評価する
- ② 緊急手術に備えた体制整備と医療安全の管理体制、感染管理を実践する
- ③ 法人本部及び関西地区関連施設との連携を図り防災対策を強化する

(イ) 人材育成の推進

- ① 事業団・病院理念の教育を推進しつつ、淡路に根付いた聖隷人を育成する
- ② 役職者がお互いにマネジメント能力を向上させ、職員一人一人の成長を支援する

(ウ) 地域の医療人材の育成と地域雇用の推進

- ① 実習病院の役割を担い、地域の医療人材の育成を積極的に行う
- ② 魅力ある病院作りを行い、地域雇用の推進に努める

3. 利用者及び職員の満足度向上

(ア) 利用者からの意見を積極的に収集し、改善活動に取り組む

(イ) 職員が働きやすい労働環境を整備する

4. コンプライアンス経営とエコロジーの取り組み

(ア) コンプライアンス経営を実践し、健全な病院運営を行う

(イ) 省エネ、資源循環、社会貢献活動に積極的に取り組む

5. 健全な経営基盤の確立

(ア) 人財、物品、情報、時間管理等を実施し効率的な費用の削減に取り組む

(イ) 平均入院患者数 134 人/日、平均外来患者数 140 人/日達成に向けて取り組む

(ウ) 職員一人一人が仕事を通して経営参画意識を高め、経営改善に取り組む

6. 地域における公益的な取組

(ア) せいい健康フェスタと市民公開講座の継続開催

(イ) 地域広報誌による健康啓発活動の継続実施

【数値指標】

サービス活動収益	2,100 百万円		職 員 数	198.6 名	
入 院 患 者 数	134 人/日	入 院 単 価	31,000 円	病 床 利 用 率	88.2%
外 来 患 者 数	140 人/日	外 来 単 価	9,500 円	平 均 在 院 日 数	21 日
紹 介 率	24%		無 料 又 は 低 額 診 療 事 業 割 合	15%	

《無料又は低額診療事業》

無料又は低額診療事業を行う施設の使命感を持ち、生活困難者の受入を継続する

聖隷横浜病院

2019年度は、地元住民と職員の念願であった新外来棟が完成し、安全で良質な医療を提供するための療養環境を整備することができた。それにより外来をはじめとする診療機能の拡張と集約化が図られ、手術件数、救急搬送件数が飛躍する年となった。一方で、医師の退職に伴う診療体制の縮小により、患者さま、近隣医療機関をはじめ多くの利用者にご迷惑をお掛けする形となった。特に、内科の体制変更は影響が大きく、救急医療における受け入れ体制を横浜市二次救急拠点病院Bから一般輪番病院へ変更せざるを得ない状況となった。

2020年度は、地域完結型医療の構築を目指し、67床の増床計画を実現させる。そのためには病棟改修をはじめとするハード面の整備だけでなく、運用を含めたソフト面の構築にも取り組む。また、増床にあたり多くの職員が増員されるが、常に質の高い医療サービスが提供できる組織体制の構築を図る。特に医師の採用、診療体制の再構築に対し重点的に取り組み、整備された新外来棟の機能を最大限活用し、職員一丸となり地域医療に貢献し続けることのできる病院づくりを目指すとともに、中長期的な病院の目指す方向性を策定し推進していく。

【病院理念】

私たちは、隣人愛の精神のもと、安全で良質な医療を提供し、地域に貢献し続けます

【運営方針】

1. 急性期医療を中心に安全で良質な医療を提供します
2. 地域包括ケアシステムを推進し、在宅まで連続した医療を提供します
3. 職員が参画し、資源を最大限に活用した健全な経営を目指します
4. 病院理念を実践する人材を確保し、育成します
5. 全ての利用者にとって最適な環境づくりをします

【事業・運営計画】

1. 安全で良質な医療の提供

(ア) 救急診療体制の再構築と強化

- ①一般輪番病院としての受け入れ体制の確立
- ②救急車受け入れ件数：年間 3,000 件

(イ) 救急重点診療科の受け入れ体制の強化

- ①「急性心疾患」、「脳血管疾患」、「外傷（整形外科）救急」の受け入れ体制の充実
- ②急性期ケアユニットの病床稼働率向上 80%以上

(ウ) 診療科体制の整備

- ①各科の垣根を越えたチーム医療の推進
- ②診療科の強化による手術件数の向上：年間 1,680 件（手術室実績）
- ③遺伝子カウンセリング開始とゲノム医療の推進

2. 地域包括ケアシステムの構築と推進

(ア) 新たな病床機能の構築 67 床

①回復期リハビリテーション病棟の新規開設 38 床

②緩和ケア病棟の新規開設 20 床

③地域包括ケア病棟の増床 9 床

(イ) 外来機能の充実

①内科診療体制の再構築

②専門看護師・認定看護師・特定行為看護師のフィールド拡大

③訪問看護における提供サービスの質向上

(ウ) 地域連携部門の強化

①診療所からの紹介件数：月間 800 件

②前方連携の強化による新規開設病床への受け入れ体制構築

③患者支援センターの体制強化による入退院支援の強化

3. 資源を最大限に活用した健全な経営の実践

(ア) 適正人員配置による生産性の向上

(イ) 目標人件費率の設定

(ウ) 人員配置に見合った収益確保（人件費率：単月 58%）

(エ) BCP（事業継続計画）に基づく訓練実施と災害対策の強化

4. 多様な人材確保と育成

(ア) 障がい者雇用の推進

(イ) 定年延長への対応

(ウ) 両立支援制度の利用促進

5. 最適な環境づくりの推進

(ア) 旧外来棟、病棟の療養環境の整備

(イ) “働き方改革”の推進と労働生産性の向上

(ウ) 電子カルテシステムを含めたシステム全体の安定稼働

(エ) 省エネルギー活動の実践

【数値指標】

サービス活動収益	8,530,000 千円	職員数	681 名		
外来患者数	550 名	外来単価	14,700 円	救急車受入台数	3,000 台
入院患者数	302 名	入院単価	54,200 円	病床実稼働率	82%
訪問看護介護保険単価	10,300 円	訪問看護介護保険訪問数	9,950 件		
訪問看護医療保険単価	12,000 円	訪問看護医療保険訪問数	2,690 件		

<地域における公益的な取り組み>

1. 生活困窮者の支援を行い、社会福祉法人としての使命を追求

2. 無料低額診療事業の基準 10%以上を堅持

聖隷佐倉市民病院

2019年度は第4期工事の完成により、増床と病床再編成・健診センター拡張・中央配膳化・手術室増室・リハビリテーション室を拡張することで、病院機能の強化を図ることができた。2020年度は、整備の効果を最大限に活かした患者サービスの向上を目指すとともに、経営の安定化に取り組んでいく。

【施設理念】

キリスト教精神に基づく『隣人愛』に立ち、患者本位のより良質な医療を求めて最善を尽くします

【経営方針】

1. 隣人愛の精神の継承と実践
2. 安全かつ迅速で適切な医療・看護の提供
3. 地域医療との連携、地域住民参画の医療
4. 創造的な変革を通し、効率的で安定した健全経営
5. 働きがいのある職場づくり

【事業・運営計画】

1. 利用者ニーズを把握して、地域から選ばれる病院づくり
 - (ア) 患者満足度をあげられる病院づくり
 - ① 病院コンシェルジュ機能の構築（コンシェルジュの配置と患者の不安を和らげるサービスの提供）
 - ② 患者支援センターの機能拡充による、切れ目のないサービスの提供
 - (イ) SAKURA ブランドの明確化と地域への浸透
 - ① 緩和ケア病棟・地域包括ケア病棟の受け入れ体制及び情報発信の強化
 - ② 地域連携強化に向けた医療機器の共同利用推進
 - ③ 地域に知られていない佐倉病院の隠れた魅力の発信（協賛企業とのコラボ企画、広報委員会の設立等）
 - ④ SNS などの新たな手段を活用した多角的かつ能動的な情報発信
 - ⑤ 職業体験（キッザニア SAKURA）の実施による、未来の聖隷人醸成と病院認知度の向上
 - (ウ) 利用者には選ばれる医療者接遇の向上
 - ① 医療人としての倫理感向上を目指した入職後職員研修の実施
 - ② 利用者が納得して治療方針を決定できるわかりやすい医療情報の提示
 - ③ スタッフが大切にされていると感じ安心して長く働き続けられる職場づくり
 - ④ 認知症の方やその家族を職員が支援できるための認知症サポーター養成
 - (エ) 近隣医療機関との連携強化
 - ① 地域医療支援病院を目標とした紹介・逆紹介向上
2. 安心・安全で質の高いサービスの提供
 - (ア) 医療人としての質の向上

- ① 資格取得の推進と取得を応援・表彰する仕組みづくり
- ② ICLS 養成と BLS 講習会の定期開催
- ③ ドクタークラーク業務の拡大と専門性を備えた医療事務スタッフの養成
- ④ コンプライアンス教育の充実

(イ) 利用者が安心して療養できる病院づくり

- ① 高齢者・障がい者などの通院困難者が通院しやすい環境の整備
- ② 新診療科（婦人科など）の開設と高齢社会にあった診療機能の充実
- ③ 利用者ニーズの継続的な把握と改善につなげる取り組み
- ④ 利用者の情報取得など待ち時間の効果的活用のための院内 WiFi 環境の検討
- ⑤ 健診と病院とのスピーディーな連携による利用者利益（治療効果・時間）の向上
- ⑥ 患者サービス向上につながる電子カルテの活用（多職種連携の強化）

(ウ) 良好なコミュニケーションによる医療安全の向上

- ① インシデント・アクシデント事例（発生から発見、対策・効果まで）を他職種でも共有・活用できるシステムづくり
- ② 全職員を対象としたハラスメント教育
- ③ 毎日のあいさつから始まる接遇マナーの向上

3. 多職種協働による病院機能の強化と PR

(ア) 各センター機能の周知と強化

- ① 地域へのセンター機能の積極的な PR 活動
- ② 職員へのセンター機能の周知
- ③ 各センター機能での目標作成と実績評価
- ④ センター機能の活動を通じた専門性の強化

(イ) 多職種・他部門との連携強化と円滑な支援体制の構築

- ① 職種・部門を超えたタスクシフティング・シェアリングの実施
- ② 在宅部門の理解と院内連携体制の構築
- ③ 病院・健診間の効率的な情報共有と連携

(ウ) 次世代リーダーの育成

- ① 係長など次世代を担う職員の発案による、管理会議等への積極的な提案
- ② 次世代がリーダーになりたいと思える魅力ある活動
- ③ 若手医師の職種横断的な研修・会議への積極的な参加の推進

4. この病院で働きたい、働き続けたいと思える環境づくり

(ア) 部門を超えた協力体制の強化

- ① 効果的・効率的なチーム医療の推進（社内ネットワークなどを活用した職場間カンファレンスの共有）
- ② 研究や学術発表を支援する体制づくり（院内外での専門性の高い人材の活用）
- ③ 係長会の活発な活動（他職種が協力する体制づくり）

(イ) 職員満足度を高める取り組み

- ① 多様な視点での職員満足度調査や表彰制度の実施（職員評価の可視化）

- ② 放射線移転後の有効活用とコンビニ・カフェ事業の拡大
- ③ 頑張ってくれているパート職員への処遇改善
- ④ 資格取得などのスキルアップを目指す職員をサポート出来る環境づくり
- ⑤ 子供を持つ職員が安心して働き続けられる院内保育体制の充実(病児保育、夜間保育、延長保育、学童等)

(ウ) 健康経営の推進

- ① 働き方改革への対応(超過勤務軽減、有給休暇取得率向上など)
- ② 健康経営優良法人としての取り組みの実践

5. 成長可能な経営基盤への改革

(ア) 利用者確保・増収策

- ① データを活用した経営戦略の実践と提案
- ② 救急車搬送患者の受け入れ体制強化
- ③ 利用者が受診しやすい環境の整備
- ④ 病床稼働率向上と400床オープンを目指した計画立案と取り組み

(イ) 経営意識の向上

- ① 増加する手術件数への対応・体制の強化
- ② 経営講習会・勉強会の開催
- ③ 費用の見える化とコスト意識の向上

(ウ) 資産・人材の有効活用

- ① 新B・C号館の活用実績の確認と検証
- ② タスクシフティングの活性化による職場活性化と人材育成

6. 地域における公益的な取組

(ア) 生活困窮者の自立促進に向けたケースワーカーによる相談支援

(イ) 域住民の病気予防・健康寿命延伸につなげるための市民公開講座の実施

【数値指標】

サービス活動収益	11,114,000千円	職員数	810.8名	紹介率	65%
外来患者数	878名	外来単価	14,340円	逆紹介率	40%
入院患者数	314名	入院単価	54,040円	病床稼働率	92.9%
健診受診者	186名	健診単価	18,080円	平均在院日数	16.0日
訪問看護年訪問件数	5,760件	介護保険単価	8,200円	医療保険単価	10,500円

せいのけい訪問看護ステーション佐倉／せいのけいケアプランセンター佐倉

2019年度は訪問看護事業において、常勤の理学療法士と作業療法士を配置することで在宅での自立支援強化を図った。また、2019年6月には院内に居宅介護支援事業所を開設し、入院中から早期にケアマネージャーへ相談できる環境を整えた。2020年度は患者支援センターとの連携を強化し、病院から在宅へのスムーズな移行を目指すとともに、行政機関とも情報交換を密に行い地域包括ケアシステムに参画していく。

浜松市リハビリテーション病院

2020年度は、聖隷福祉事業団の指定管理受託13年目である。1999年に浜松市により開設された当院は、2019年12月1日に20周年を迎えたため、周年記念の年でもある。

近年リハビリテーション医学は、再生医療の進歩などと共にニューロリハビリテーションの視点が重要視され、急激な変化が訪れている。これまで労働集約型とされてきたが、効率的かつ効果的な治療法が開発され導入されている。当院はこれまでも、先進的なリハビリテーション機器の導入・活用に取り組んできたが、規模を拡大し、機器を活用できる人材を育成し、引き続き『最新リハビリテーションの追求』をキーワードとし取り組んでいく。時代とともに変革しながら、地域に必要とされるリハビリテーション医療を展開していきたい。

【病院理念】

私達は、地域に根ざし、利用してくださる方々の尊厳と生活の質を尊重した、患者中心主義に基づく医療を提供します

【運営方針】

1. 多職種共働による、安全で科学的な根拠に基づく質の高い医療を提供する
2. 患者・家族のニーズに即し、個別性を重視した関わりを大切にする
3. 地域包括ケアを念頭に置き、幅広い連携体制を構築する
4. 健全な経営基盤を確立する
5. 職員の資質・技能向上に努め、人材確保とその育成に努力する

【回復期リハの基本姿勢】

地域と連携し“その人らしい”社会参加に向けて、個人の病態や生活環境に配慮したリハビリテーション支援を行う

【2020年度事業目標・年度重点施策】

1. 安全で質の高い医療の提供
 - (ア) リハビリテーション医療の質向上
 - ① 先進的機器を活用したリハビリテーションの展開
 - ② 多職種協働による在宅復帰支援の充実
 - ③ 倫理観を持った医療の展開
 - ④ 病院機能評価認定更新を活用した質改善
 - (イ) 医療安全管理・感染制御体制の確立
 - ① 医療安全の確立
 - ② 効果的な感染制御
2. 地域に求められるサービスの充実
 - (ア) 特色ある医療提供体制の充実

- ① 摂食嚥下障害や音声の問題に対する、地域への普及、啓発
 - ② 地域のスポーツ・運動傷害に対する、効果的な治療の継続と発生予防に向けた土台作り
 - ③ 高次脳機能障害に対する就労支援や運転評価の質向上
 - ④ 脊髄損傷医療提供体制の充実
 - (イ) 地域へ繋ぐサービスの提供
 - ① 介護保険事業の充実
 - ② 共通ツールを用いた地域連携の活性化
 - ③ リハビリテーション医療提供施設間の連携強化
3. 人材の育成と労働環境の整備
- (ア) 多様な人材の確保
 - ① ボランティア受け入れ推進と障がい者雇用の拡大
 - ② エルダー職への円滑な移行と新規採用の推進
 - ③ 専攻医、専門医の採用
 - ④ 採用困難職種の確保
 - (イ) 働き続けることができる組織作り
 - ① キャリア支援の充実
 - ② 長時間労働の削減、有給休暇取得促進
 - ③ 職員を守る組織・職場作り
4. 安定した経営基盤の確立
- (ア) 年度予算の達成
 - ① 病床利用率・リハビリ提供単位数の達成
 - (イ) 急性期病院との連携強化
 - ① 円滑な患者受け入れ体制の構築
5. 地域における公益的な取組み
- (ア) 地域包括ケアシステムの主導
 - ① 地域住民への家族介護教室の実施
 - ② いきいきトレーナー養成事業の継続
 - (イ) リハビリテーション資源を活かした災害時医療福祉体制の構築
 - ① 地域と連携した災害対策の強化と JRAT 活動

【数値指標】

サービス活動収益	3,514 百万円		常勤職員数	400 名		
	外来	入院			通所 リハビリテーション	訪問 リハビリテーション
		回復期	一般	合計		
患者数	177 人/日	129 人/日	83 人/日	213 人/日	465 人/月	121 人/月
単価	7,313 円	41,641 円	35,215 円	39,121 円	4,400 円	8,600 円
利用率	—	96.10%	93.10%	94.90%	—	—

聖隷袋井市民病院

近年、地域包括ケアシステムの構築や地域医療構想の実現、医師を始めとした働き方改革等、病床の機能分化と連携に関わる具体的な取り組みの実践が求められている。当院は、中東遠医療圏において後方支援病院としての役割が浸透され、さらに2019年度より訪問リハビリテーション事業を開始し、利用者が自立した在宅生活に復帰できるよう在宅事業を展開し、この地域で果たすべき役割を具体化する体制を整備してきた。

開設8年目を迎える2020年度は、在宅診療開始の検討と多職種が連携したチーム医療の充実など、地域ニーズに即した医療の提供と効率的な運営を目指していく。

【施設理念】

『私たちは、患者と同じ視線を持ち、地域に信頼される病院を目指して歩み続けます』

【経営方針】

1. 地域ニーズに対応した安心・安全で質の高い医療サービスの提供
2. 急性期病院・地域診療所との懸け橋となる連携体制の構築
3. 在宅復帰や療養施設への入所を支援し、地域全体として切れ目のない医療の提供
4. 安定した経営基盤の確立
5. 働きがいのある職場づくりと人材育成

【事業・運営計画】

1. 地域ニーズに対応した質の高い医療サービスの提供
 - (ア) 高齢者人口の増加に伴う回復期・慢性期医療の充実
 - ①許可病床をフルに活用した効率的な病院運営
 - ②終末期医療・認知症ケアの質向上
 - (イ) 安全で質の高い効率的な医療サービスの提供
 - ①医療安全管理体制の充実
 - ②医療事故防止と再発予防策の検討
 - ③電子カルテの安定稼働とデータの二次利用
 - (ウ) チーム医療の推進
 - ①栄養サポートチームの編成
 - ②部門間・職員間連携の強化
 - (エ) リハビリテーション医療機能の充実
 - ①訪問リハビリテーションの拡充
 - ②在院日数短縮とリハビリテーション実績指数の向上
 - (オ) 利用者満足度の向上
2. 働きやすい職場環境と人材確保・育成
 - (ア) 医療需要の増加に対応する人材の確保

- ①常勤医師の採用
- ②看護師、看護補助者の採用と定着
- (イ) 多様な人的資源の活用
 - ①病院ボランティアの活用
 - ②障害者雇用の推進
- (ウ) 専門職としての人材育成と質の向上
 - ①キャリア開発と教育体制の整備
 - ②指導者育成の推進
- (エ) 職員の働きやすい職場環境づくり
 - ①業務効率化の推進と労働環境の整備
 - ②職員のやりがい向上

3. 地域包括ケアシステムの推進と連携体制の強化

- (ア) 地域完結型医療を目指した連携機能の充実
 - ①入退院支援センターの設置
- (イ) 袋井市長寿しあわせ計画への取り組み
 - ①在宅診療開始の検討
 - ②健康と生きがいづくりの推進

4. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 更なる経営改善の取り組み
 - ①病床稼働数の目標達成
 - ②収益増と費用削減対策
- (イ) 病院情報発信力の強化

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 袋井市総合健康センターとの共働と発展
 - ①認知症初期集中支援活動への看護師、リハビリ専門職、医療相談員等多職種チームの派遣
 - ②袋井市総合事業へのリハビリ専門職派遣

【数値指標】

サービス活動収益	1,610,000 千円	職員数	185 名
	患者数	単価	病床利用率
外来	64 人／日	6,700 円	-
入院	132 人／日	27,100 円	88%
再掲 (一般)	44 人／日	23,900 円	88%
(療養)	44 人／日	23,000 円	88%
(回復期)	44 人／日	34,700 円	88%

保健事業部

2019年度保健事業部は、「利用者様が安心して選び続ける保健事業部」「職員一人ひとりがやりがいや誇りを持って働く保健事業部」を経営方針として、さまざまな事業計画に真摯に取り組んだ結果、経営上は予算どおりに推移できている。しかし、2020年4月に稼働予定であった次期健診システムの導入延期と再検討、11月には個人情報流失事故が発生し、リスク管理の重要性を再認識する年となった。

2020年度は、厚生労働省健康局の方針も「人生100年時代を見据え、健康寿命の延伸を図り、国民一人ひとりができるだけ長く、元気に暮らすことができるよう、健康づくり、疾病の予防や重症化予防、健康危機管理」を掲げている。具体的には、フレイル対策、PHR(パーソナルヘルスレコード)の医療・介護現場で役立つ仕組みの構築、がん検診の受診率向上、がんゲノム医療提供体制の強化等に取り組む、となっている。また、血液でがんが発見できる検査や遺伝子診断等の革新的な検査の開発やAIによる業務支援等の技術的な革新が進む中、保健事業も大きな改革が必要になってくる。このような中、保健事業部は、多方面からの情報収集や外部機関との連携も積極的に進めていく必要がある。そして、業務の改善にも今まで以上に積極的に取り組み、利用者、利用団体と新たな関係作りも重要となる。一例として、がん検診の精度管理の取り組みについて2020年4月から問診票変更や確認票の利用を開始する。事業部内においては、組織の再編、業務の集約・効率化を引き続き進める。

利用者に保健事業部(各センター)を選び続けてもらうこと、そして職員一人一人がやりがいや誇りを持って業務に取り組むことが大切であり、各自がご利用者の目線で、経営に参画している組織を目指し、以下計画に取り組んでいく。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【経営方針】

1. ご利用者様が安心して選び続ける保健事業部
2. 職員一人ひとりがやりがいや誇りを持って働く保健事業部

【事業・運営計画】

1. 利用者様の目線に立った質の高いサービスの提供
 - (ア) 年間50万件を超える健診データと蓄積された膨大なデータを利用し、検証する
(先駆的な検査、新しい健診コース、臨床研究)
 - (イ) 予約の取りやすさ・待ち時間削減など、快適な受診環境を整える
 - (ウ) IAレポートの分析と再発防止、災害対策への取り組みを行なう
 - (エ) 長期的な健康増進活動を目指し、子供から高齢者(フレイル対策)まで年代に応じた健康診断や健康支援活動の検討と健康増進のための啓発活動の推進

2. 経営基盤強化のための取り組み

(ア) 業務の集約化と効率化を進め、先進的な組織改革を実施する

①精度管理センター（仮称）を稼働し、精密検査受診率 80%以上を目指す。

②各センターの業務の標準化を進める

(イ) 企業等の健康経営を支援できる産業保健体制を積極的に展開する

(ウ) 健康応援プログラム（重症化予防）を定期的を開催する

(オ) シンクタンク機能の強化。企画開発センター（仮称）を検討する。

3. 人材の育成・確保と働き方改革への対応

(ア) 医師等人材確保に向けて積極的に情報発信を事業部全体で実施する

(イ) 自ら課題解決できる人材とマネジャーの育成に取り組む

(ウ) 保健事業部、各センターの強みを明確にし、職員一人ひとりに浸透させる

(エ) 事業部内で行っている教育プログラムや研修制度を顧客団体や健診機関へ提供する

4. 健康経営の実践と発信

(ア) 「健康経営」を実践し、他企業へ「健康経営」の仕組み作りを提案していく

(イ) 働きやすい風土の醸成

5. データヘルス計画に向けて

(ア) 利用者個人に対し、健康情報発信 Web サービスの展開を強化、継続した健康管理サービスを展開するとともに、利用者増を図る

(イ) 医療保険者、自治体等と連携し、保健事業部保有データを積極的に活用し、必要とされる分析データを提供する

6. 連携の強化

(ア) 関連団体・関連行政との連携を積極的に進める（国や学会などへの研究協力等）

(イ) 各自治体や企業、医療保険者と連携を積極的に進める

(ウ) 事業団・グループ内事業部、施設との連携を進める

(エ) 他業種企業との共同事業の検討（社員食堂の監修・商品開発）

7. 社会福祉法人の使命として地域共生社会の実現

(ア) 健診施設へのアクセスが困難な地域での健診実施や送迎を行う

(イ) 地域に密着した健康イベントなどの開催

【数値指標】

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
65,546 名	235 名	509,555 名	13,054 名	88,834 名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	職員数
49,391 名	38,759 名	765,374 名	8,623,400 千円	784 名

聖隷健康診断センター

2019 年度も 2018 年度と同様に、自治体や医療保険者からの重症化予防の要望に応えるべく、特定保健指導や精密検査受診率向上に注力した。その結果、特定保健指導の利用者数は上半期で対 2018 年 119.4%の 2,821 人と大幅に伸びた。今後も、より利用者の生活習慣に寄り添い、自身で健康づくりが継続するように支援を行う。また、顧客サービス課に地域連携係を設け、看護職が在籍する体制へと変更した。精密検査の受診勧奨や代行予約、精密検査未把握率を低くする仕組みづくりをした。一方、施設は飽和状態であり、コンシェルジュを活用した検査順路の組替えや工夫、採血ブースの増設を行い、待ち時間軽減を図った。滞在時間の減少については随時見直し、改善していく。午後の有効活用として実施している“午後ドック”については、団体との契約拡大にあわせ、継続して利用を促していきたい。

2020 年度は、「サービスの質の向上」「人材（人材）育成」「経営基盤の安定」に拘り活動したい。職員が心身の健康を保ち、自身に余裕や自信をもって働くことを支援し、生産性や効率性を高められる環境づくりの整備を図る。指標として「職員満足度の向上」に注目し、職員が「やりがい」を感じる職場風土づくりをする。また、新しい検査として注目される「リキッドバイオプシー」等の情報収集も注力し、時代に遅れないよう対応する。

地域で選ばれ続ける健診施設として、接遇の強化はもちろんのこと、利用者と『相互に利益を感じられる』事業を今後も展開したい。質の高い利用者目線のサービスの提供、及び保健指導・栄養指導・運動指導の更なる強化と連携を図り、利用者が健康を実現できるよう最適な健康支援を行う。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【経営方針】

1. ご利用者様が安心して選び続ける保健事業部
2. 職員一人ひとりがやりがいや誇りを持って働く保健事業部

【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスの提供
 - (ア) ホスピタリティ向上を目指し、全ての利用者が安心して受診できる環境をつくる
 - (イ) 施設を有効活用したサービスの提供を目指す
 - (ウ) 接遇力の強化や待ち時間の軽減等、CS を向上させる運用の構築
 - (エ) 精密検査受診率を向上させる
 - (オ) IA レポートを活用し、リスクマネジメントを強化する

2. 人材（人財）の確保と育成

- (ア) 適正人員の追求と不足人員の確保
- (イ) 自信を持って働くことのできる仕組みづくり
- (ウ) 階層に応じた育成の促進
- (エ) バランスト・スコアカード(BSC)を活用した組織目標達成への取り組み
- (オ) 労働衛生機関の職員として必要な資格取得を推進し、活躍の場を広げる

3. 経営基盤強化のための取り組み

- (ア) 予算達成を目標に、現場状況に即した予約枠管理の実施
- (イ) 新しい検査の情報収集と対応
- (ウ) 利用者ニーズに沿った商品の検討と見直し
- (エ) 外部リソースを活用した事業展開の推進

4. 健康経営への取り組み

- (ア) 働き方改革推進による労働時間の適正化
- (イ) 職員のワークライフバランスを考慮した勤務体制の検討
- (ウ) システムを活用した業務効率化の推進
- (エ) 職員スペースの環境整備を充実させ、働きやすい環境づくりに取り組む

5. 連携強化

- (ア) 事業部内組織改定
- (イ) 組織内にて横断的な業務連携、及び強みの強化
- (ウ) 「GENKI」の有効利用の推進

6. 地域における公益的な活動

- (ア) 地域住民・団体等を対象とした健康啓発活動の実施
- (イ) 地域共生社会への対応として、保健サービスを軸とした事業部内外における連携強化

【数値指標】

ドック	P E T健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
27,176名	235名	55,002名	5,970名	23,195名
特殊健診	外 来	合 計	サービス活動収益	職員数
2,670名	17,598名	131,846名	2,572,970千円	215名

聖隷予防検診センター

2019年度は、事業の「選択と集中」をコンセプトとして2018年に続きニーズの高い事業への注力を行いながら、利用者の要望に合わせサービス強化に努めた1年であった。利用者の声に真摯に向き合い、1日人間ドックを中心に要望の高い婦人科検診や、重症化予防の視点から労災二次健康診断等についても受入体制を整備、前年以上の実績を上げることが出来た。特に婦人科はレディースフロア改装とともに問診機能を大幅に強化、利用者に応じた適切な検査の提供を行った。また、待ち時間短縮に向けてスピードドックの増枠と結果説明体制を整備、人間ドック利用者の滞在時間を約30分縮めることが出来た。地域に向けた公益的な取組みとしては、近隣児童を対象とした「なつげん探検隊」や、聖隷クリストファー大学との連携による婦人科検診を中心としたがん検診等の積極的な啓発活動を実施、メディアにも多く取り上げられた。

事業の選択の視点では、宿泊室を用いた宿泊ドックについて、2019年度をもって終了することとした。ただし、サービスダウンでは無く、宿泊ドックでのみ利用可能であったオプション検査を1日人間ドックに開放するなど、今まで以上のサービス向上につながる施策とした。このような利用者視点に立った取組みが速やかに実施出来ることが、医師を含めた全ての職種が課題に対して一致協力し、迅速に対応する当センターの最大の強みである。

昨今、遺伝学的検査やAIを用いた診断等、先端技術の実用化に対する話題が多く取り上げられている。技術革新に対して積極的に情報を入手し、導入に向けた検討も重要であるが、利用者の方々に永続的に選び続けて頂くためには、サービスの本質である「人が提供する温かみや優しさ」を疎かにしてはならない。そのためには、職員エンゲージメントを向上させる取組みを行い、職員がワクワクしながら生き活きと活躍できる環境提供が必須である。

2020年、事業団は創立90周年を迎える。聖隷予防検診センターは改めて創業の原点である「隣人愛」を職員と共有しながら、引き続き「職員も利用者も『また来たくなる』予検センター」を目指す。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【事業・運営計画】

1. 全ての職員が生き活きと働くことができる職場づくりの実践（健「幸」経営）
 - (ア) 業務負荷軽減と効率化による生産性向上
 - (イ) 職員エンゲージメントサーベイの実施
 - (ウ) ストレスチェックの組織集団分析に基づく事後措置の実施
 - (エ) 職場環境の改善による職員定着率の向上
 - (オ) 定期健康診断後の再検査受診率の向上
2. 良質な予防医療を永続的に提供するための安定した経営基盤の確立
 - (ア) 事業・運営計画に合わせた適正な職員数の配置

- (イ) 地域・企業健診センターとのプラスの融合
- (ウ) 原価計算に基づく利用者ニーズにあった充実したサービスの提供
 - ① 提供コース毎の原価計算の実施
 - ② 人間ドックを中心とした新規顧客獲得
 - ③ 初回利用者リピート率の向上
- (エ) 職員一人ひとりの経営参画意識の醸成
- (オ) 経営指標、臨床指標等の実績の可視化と検証
- (カ) 効率的な保健事業部内の業務応援体制の構築

3. 利用者目線に立った質の高いサービスの提供

- (ア) 利用者満足度の向上（ワンランク上の「おもてなし」を目指して）
 - ① 利用者の滞在時間短縮
 - ② 人間ドック・健康診断の予約を取りやすい環境整備
 - ③ 女性利用者のリピート率向上
 - ④ CS アンケートで顕在化した課題への対応
- (イ) 利用者、企業、行政等、全てのステークホルダーの課題を解決
 - ① 契約に基づいた適切な検査項目の案内と推進
 - ② がん検診、特定健診未受診者の開拓
 - ③ 重症化予防対策の実施
 - ④ 地域連携機能の構築と強化
 - ⑤ 聖隷施設（他事業部・事業部内）との有機的連携
 病院・高齢者施設等の利用者情報を活用した「医保」「介保」連携の推進
 ※「医保」…「医⇌病院」、「保＝保健事業部」 「介保」…「介⇌高齢者施設」、「保＝保健事業部」

4. 次世代を担う人財の育成

- (ア) ボトムアップの仕組みづくり
- (イ) 適正なフィードバックと評価による効果的なOJTの実践
- (ウ) 新規提案、改善プロジェクトに対する中堅職員の参画
- (エ) スタッフ習熟度の見える化

5. 地域における公益的な活動

- (ア) 地域住民・団体等を対象とした健康啓発活動の実施

【数値資料】

ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診	特殊健診
20,910名	32,470名	3,350名	16,440名	1,680名
外 来	合 計	外来収益＋保健予防活動収益		職員数
11,420名	86,270名	1,548,000千円		343名

聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*

聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*は、2020年4月に設立10年目を迎え、当初の単独事業から、2013年に聖隷静岡健診クリニックの統合、2015年に巡回健診の開始など、事業を拡張展開しながら、『経営基盤の強化』『質の向上』を重点課題とし運営を行ってきた。

2019年度は、まず上部消化管内視鏡検査枠の拡大(5枠増/週)を図った。利用者ニーズに応え、利用者数は2018年度対比101.8%となり、経営基盤の改善にもつながった。次に、人間ドックの食事の見直しを実施した。地元老舗料亭とのコラボレーションによる「健康体験食」を提供し、他施設との差別化を実現した。また、静岡市においては少子高齢化が進展しており、高齢化率30%に迫る状況である。そのため、地域共生社会の実現に向けて、年齢層(定年退職者など)のニーズに応えるべく「聖隷健康サポートの会」を発足し、継続的な予防医療の提供に努めた。しかしながら、下半期において、個人情報の流出という事故が発生した。今後、医療情報サービス業としての信頼を取り戻すべく内部運用の見直し・コンプライアンスの徹底に努めていく。

現在、外的要因としてリキッドバイオプシーなどの遺伝学的検査の技術が急激に進んでいる。聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*は、情報をいち早く収集し対応できるよう準備を行い、選ばれ続ける総合保健施設として、静岡地区で最高の質の医療サービスを提供できるよう“職員一人ひとりが自ら気づき考え行動する自立した組織”を目指していく。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【事業・運営計画】

1. 質の向上と情報発信力の強化

(ア) 利用者ニーズに合ったサービスの提供

- ①顧客満足度調査の実施継続と問題解決
- ②上部消化管内視鏡検査・婦人科検査などのニーズの高い検査枠の調整
- ③先駆的な新規オプションの導入(遺伝学的検査などの情報収集・検討)
- ④Webサービスの積極的な運用
- ⑤IAレポートの分析の徹底ならびに迅速な改善

(イ) 質を維持するための設備投資

- ①計画的な医療機器設備更新
- ②遠隔読影システムの活用
- ③立地条件を強みとする聖隷静岡健診クリニックへの定期的な設備投資

(ウ) ストレスチェックの検証・フォローまで含めた包括的なサービスの提案・提供を行う

(エ) 地域企業等依頼の講演会・取材への積極的な協力体制の構築

2. 経営基盤強化と新たなサービスの創造

(ア) 効率性を高めた巡回健診の実施

- ①精度の高い積算ツールの作成・契約事業所のABC分析など原価管理計画の検討・実施
 - ②特定保健指導実施率向上のため、遠隔面談運用体制整備
 - ③巡回健診支援システム導入検討
 - ④労働安全衛生法の検査項目を省略している企業に対する、コンプライアンス遵守の案内
- (イ) より多くの利用者を受け入れるためのサービスの向上
- ①予約体制の調整
 - ②リアルタイムドックの効率性の追求
 - ③利用者閑散期ドック受診への誘導

3. 人材育成・確保

- (ア) 次世代を担うリーダーとなりうる人材の育成
- (イ) 専門職としてのスキル向上にむけた学会発表・認定取得への支援体制
- (ウ) 職員確保体制の強化

4. 健康経営の実現

- (ア) 職員一人ひとりが働きやすく、魅力を感じる施設づくりを目指す
- (イ) 職員満足度調査の分析ならびに職員定着率の向上
- (ウ) 職員超過勤務時間削減
- (エ) 衛生委員会を中心に、職員の健康意識を向上する
 - ①職員ドックにおける結果説明受診率100%とする
 - ②職場別ストレスチェック分析、並びに職場環境改善の提案・実施

5. 連携の可視化

- (ア) 静岡県立大学・厚生労働省等への研究協力を継続し、地域公益活動の実績を作る
- (イ) 医師会・浜松医科大学・地元総合病院・行政との連携強化

6. 地域における公益的な取組

- (ア) 自治会の地域のイベントに継続して参加し、地域との繋がりをより密にする
- (イ) 過疎地域における健康診断の実施継続

【数値指標】 聖隷健康サポートセンターShizuoka

1日ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診	特殊健診
17,460名	92,333名	3,439名	16,449名	7,041名
外来	合計		サービス活動収益	職員数
9,741名	146,463名		1,905,530千円	162名

医療事業収益内訳	聖隷健康サポートセンターShizuoka	1,226,170千円
	巡回健診事業	333,840千円
	聖隷静岡健診クリニック	290,440千円

地域・企業健診センター

2019年度は、「新規受託健診の円滑実施」「風しん第5期抗体検査・定期摂取の実施」「ESの向上に向けた職員の適正配置」の3点を重点目標に事業を行った。

新規受託健診の円滑実施については、聖隷の健康診断の高い評価を聞いた企業等の健診担当者からの新規健診委託打診の増加、近隣同業者の巡回健診撤廃も追い風となり、その結果、多くの団体と新規に契約を結ぶことができた。渉外スタッフはじめ各課の協力の元、現在まで大きなトラブルも無く順調に運営ができています。

風しん第5期抗体検査の対応については、巡回健診実施顧客に対し健康診断と同時実施できる体制を構築することにより、多くの事業所からの要望に応えることができた。

ES向上に向けた職員の適正配置については、課長会や次月会議にて出動車両台数・出勤人員・時間の見直し等積極的に行ってはいる。しかし、新規拡大し続けている巡回健診に対し、運営管理課はじめ、コメディカル部門も増員や運用変更の管理体制が追いつかず、45時間を越える超過勤務が発生する事態となった。これに対し、改めて検証を進め対策を取った結果、改善している。

新規検診車3台製作し、胸部専用車両(1台)として7月配備、エコーや心電図が3部屋実施可能な多目的検診車* (1台)2月配備、車内での健診が可能な巡回胸部車は3月納車予定である。

※多目的検診車：日本宝くじ協会様の社会貢献広報事業の助成事業にて製作。

2020年度は、新規契約による巡回健診事業拡大に伴い、組織として戦略的な「選択と集中」を図る。これにより、経営基盤の安定、ES向上を目指した管理体制の整備、「働き方改革」を意識した職場づくりの推進に尽力していく。加えて、検診車駐車場の拡張、iPadを用いた巡回健診支援システムの導入、静岡地区との傾斜配置等、地域・企業健診センターの業務の効率化を図り、生産性を高めながら、利用者サービスの質を向上させ、職員が働きやすい組織づくりに取り組む。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【事業・運営計画】

1. 利用者様の目線に立った質の高いサービスの提供
 - (ア) 顧客ニーズに合わせた健診事業の提供
 - (イ) 巡回健診支援システムを導入し精度向上と業務改善を図る
 - (ウ) 職域がん検診の受診率と精度管理の向上
 - (エ) 災害時（地震・津波・台風等）対策の取り組みを推進
 - (オ) IAレポートの情報共有とISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)の継続的な推進
2. 経営基盤安定のための取り組み
 - (ア) 戦略的事業拡大「選択と集中」
 - ①健康診断コース実施について適正評価する仕組みを構築
 - ②大口既存住民検診の継続

- ③行政が推進する事業への積極的関与
- ④被扶養者健診・ファミリー健診の拡大
- (イ) 事業・運営計画に合わせた適正な職員数の配置
 - ①巡回健診枠の整備
 - ②静岡地区巡回部門との人・物等の傾斜配置
- (ウ) 聖隷予防検診センターとのプラスの融合
 - ①施設間医師の連携強化による巡回健診医師派遣費用の適正化
 - ②効率的な事業部内の業務応援体制の構築
 - ③未受診者、風疹予防接種対象者等の施設内への誘導
 - ④特定保健指導の当日実施及びミニ保健指導の拡充
- (エ) 労働安全衛生法にかかる一般健康診断省略検査項目への対応
- (オ) 事業所ニーズに合わせた産業保健活動の推進

3. 人材の育成と確保

- (ア) 営業ツールの活用・評価
- (イ) 職員の継続的なモチベーション・キャリア支援
- (ウ) 施設内研修を開催して地域・産業保健活動の実践報告、渉外能力の向上を図る
- (エ) 他健診機関、他団体との情報交流による意識改革の推進

4. 健康経営の実践と発信

- (ア) ES 向上：働き方改革の推進
- (イ) 職場環境改善のための外部移転の検討
- (ウ) ストレスチェック高ストレス者の削減

5. 地域における公益的な活動

- (ア) 各地域の健康フェスティバルや各種イベントへの参画

【数値指標】

一般健診	婦人科健診	特殊健診	特定保健指導	合計
329,750名	32,750名	38,000名	295名	400,795名
保健予防活動収益		職員数		
2,477,850千円		187名		

在宅・福祉サービス事業部

福祉現場の人員不足に歯止めがかからない。2020年度はこの現実を直視することから始める。近年、福祉現場の労働力不足が解決する糸口が見えないまま、福祉的支援を必要とされる方の数は増加の一途を辿っている。マンツーマンの事業体制で行う在宅サービス事業においては事業閉鎖や地域への事業撤退が加速しており、事業部においても再編が行われ決して例外ではない。

2019年、政府は「骨太の方針2019」の中で情報社会を超えた society5.0 時代を掲げ、潜在成長力の引き上げと社会的課題の解決を両立すべく「成長戦略実行計画」を策定した。これを受けて福祉分野では「介護現場革新プラン」が出され、この中で「福祉の生産性向上」が謳われた。これは限られた人材を如何に活用するかだけでなく、職員各々が何かを創り出すために時間を削り出し、利用者に向けた価値を生産していくこと、仕組みづくりを行おうとするものであることとして組み取りたい。

事業団では2020年に90周年を迎え、2021年～2025年に向けて新中期事業計画を策定する。次の時代(society5.0)に向けて、現場の革新(フィールドイノベーション)に取り組むことを2020年度の重点目標とする。そして2025年に達成すべき目標は「私たちの全ての業務が自動化される」ことにある。IoT、AIなどの先端技術はあらゆる産業や社会生活に取り入れられていく中で、福祉現場で諦めていたことに挑戦し、当たり前の業務を見直し、やりたい仕事に向けて時間を創っていくための準備を進めていく年度としたい。福祉の将来展望が2040年問題に向けられる中で、次の時代にレガシーとして残していくものは何か、組織として個人として考えることが2020年の取り組みとなる。介護施設の多くが20年を経過し、建築物、設備、器具備品が老朽化している。しかし、熟練した多くの職員が現場の一線で活躍していることを資産とし、現場視点で改革していく機会は豊富にある。老朽化に対する単なる修理や交換を行うのではなく、更新を通して新たな事業価値を生み出していくと共に、熟練した職員が活躍できるための仕事の仕組みを変える機会として捉えたい。現在のピンチをチャンスに変えていく視点の切り替えが2020年度に課せられたテーマとなる。

【中期事業計画における事業部理念】

地域への感謝と貢献

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【2020年事業目標】

現場改革

私たちは2025年に向けて変えねばならない何かを見つけていく

(2020年中期事業計画最終年度、2021～2025年新中期事業計画策定年度)

【2020年重点目標】

1. 仕事の仕組みを変える

利用者と職員にとって価値ある業務改善・業務省力を実行し、検証する

- ① 今、何が最大の課題であるか施設、事業毎に取り組み領域を決定する
- ② 課題に対し原因を追究し、ICT、介護ロボットを問わず改善策を仮説化する。
- ③ 実行した効果を検証し、他の施設・事業と共有化を図る
- ④ 生じた価値、利益の意味を横断的仕組みで判断し、5カ年計画に反映させる

2. 組織体制を整える

地域において他事業・他施設・他法人と共同した取り組みを行う

- ① 単体の事業の取り組みから複数の事業主体と共同で行うことに取り組む
- ② 高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉を拠点毎に複合化した取り組みを計画する
- ③ 地域の社会資源との結び付きを個人レベルから組織レベルに変換し可視化する
- ④ 情報の再現性、互換性を前提にあらゆる情報をデーター化し、システム化する

3. 現場支援体制を整える

支援機能となる本部・事業部・拠点施設・事業所の役割を整理し、効率化する

- ① 現場の最前線たる事業所の支援機能が果たせるよう間接部門の業務整理を行う
- ② 事業所が必要とする人的資源、物的資源、情報資源が提供出来る体制を構築する
- ③ 事業の成果、効果、価値を可視化出来るよう情報化し、共有化する
- ④ エリア体制を変更し、地域ごとに真に必要な取り組みや事業を見出す
- ⑤ 事業別統括支援体制を強化し、横断的な意思決定が出来る組織づくりを行う

4. 職員自身が変わる

与えられた仕事からやりたい仕事へ働き方を変える

- ① 各種ラダーによる評価、目標参画による自己目標達成を支援する
- ② 仕事の内容に応じて補助的職員枠を採用し、専門職の生産性を上げる
- ③ パート職員の待遇改善等に取り組み、確保する
- ④ 採用困難な専門職に対する採用方法についてあらゆる方法を実験する
- ⑤ 処遇改善加算を原資に職員の努力や成果に見合う給与水準を確保する

5. 地域（エリア）毎に主体性を持った事業を実践する

（静岡第1・2・3エリア）（浜松・磐田保育エリア）

- ① 聖隷三方原病院、聖隷浜松病院、浜松市リハビリテーション病院等の連携を深め、医療介護が連携できる方法を見出し取り組む
- ② 障害者支援、発達障害児支援に関わる事業について重点的に取り組む
- ③ 新規こども園開設と保育定員増に対し保育の質にこだわった運営に取り組む
- ④ 生活困窮者支援、学習支援の中で発見した新たな課題に向けて取り組んでいく

（関東第1・2エリア）

- ① 介護保険施設運営を堅持しつつ、在宅事業の充実に向けて重点的に取り組む
- ② 浦安市との指定管理における将来的展望について協議を継続する
- ③ 松戸愛光園における障害者支援と受入れ機能を見直し、これに取り組む

- ④ 職員採用困難地域である横須賀における事業継続のためにハード・ソフト両面からの抜本的な見直しと解決策を講じる

(宝塚第1・2エリア) (宝塚保育エリア)

- ① エリアにおける在宅拠点の見直しと再編成を行い、障害福祉サービスを含む地域拠点の充実に取り組む
- ② 聖隷ケアセンター宝塚第2廃止後、新たな方法での在宅支援、拠点を生み出す
- ③ 逆瀬川あゆみ保育園の賃貸建物の老朽化に伴う保育事業、児童館の再編について宝塚市との協議を進めていく

(淡路エリア)

- ① 津名地区で聖隷ライフサポート津名を新規開設し、リハビリ強化型デイサービスに取り組む
- ② 元岩屋認定こども園跡地を利用し、岩屋地区における拠点整備を行う
- ③ 淡路栄光園デイサービスの移転を前提にした短期入所施設の増床の整備を行う

(奄美・沖縄エリア)

- ① 奄美エリアでの介護保険事業、障害福祉サービス事業の見直しと再編を行う
- ② 沖縄エリアの在宅事業への取り組みについて本部支援機能を発揮する

(主な施設整備及び新規開設事業)

- ① 高齢者介護施設の老朽化大規模修繕に伴い、先進介護機器導入等の設備整備について国県補助の協議
- ② 静岡県立浜松学園の移譲または無償譲渡・貸与に向けて協議を進め、2021年施設整備事業として増改築の協議
- ③ 介護施設で使用する車椅子、ベットマット等の保管洗浄業務を就労支援事業所と聖隷コミュニティケアセンターとコラボレーションした事業の立ち上げ
- ④ 聖隷こうのとり富丘(こども園・児童発達障害支援事業・聖隷訪問看護ステーション)の新規開設
- ⑤ 聖隷浜松病院ひばり保育園の定員増(定員145名→200名)、放課後児童クラブの定員増(定員20名→定員40名)
- ⑥ 聖隷放課後クラブはなえみ森町(天宮)に従たる事業所(一宮)を開設。定員増(10名→20名)
- ⑦ 磐田市において東部幼稚園の民間移譲に伴う施設整備の協議
- ⑧ 浜松市の委託相談支援事業の再編に伴い、社会福祉法人小羊学園、遠州精神保健福祉をすすめる会と連携し、浜松市中障がい者相談支援センターを新規受託並びに浜松市北障がい者相談支援センターへの参加

和合せいれいの里

特別養護老人ホーム和合愛光園
和合愛光園デイサービスセンター
障害者支援施設 みるとす
障害者相談支援事業所 くすのき
生活支援ハウス やまぶき
和合愛光園和合サテライト
訪問看護ステーション住吉
聖隷ヘルパーセンター
聖隷ケアプランセンター和
地域包括支援センター和合
聖隷チャレンジ工房和合
聖隷放課後クラブはなえみ和合
聖隷トライサポート和合
浜松市中障がい者相談支援センター

国は人生 100 年時代に対応した全世代型社会保障の構築のため、2025 年地域包括ケアシステムの構築、地域共生社会の実現と様々な政策を打ち上げ進めてきている。和合せいれいの里は、国の政策の一步先を進み高齢者・障害者・こどもの共生型複合施設群としての一体的提供を推進し、2019 年度はデイサービス等「通い」の事業において事業横断してのサポートができるよう「聖隷トライサポートセンター」を立ち上げた。

2020 年度は人材育成・職場環境改善・業務改革をさらに進めていく。労働力制約が強まる中、働きやすい環境整備、福祉におけるタスクシフティングを進め、専門職の不足を非専門職で補う体制を強化していく。またテクノロジー（ロボット・AI・ICT 等）の導入検討・活用も進め、次世代型福祉施設としての基盤づくりの年としたい。

【施設理念】

和合せいれいの里の全事業所および全職員は、和合せいれいの里の利用者一人ひとりがその人らしい生き方ができるよう常に利用者の視点に立ち、そのために必要とされる質の高い適切な支援を切れ目なく総合的に提供する。

【経営方針】

1. 高齢者・障害児（者）に対し切れ目なく質の高いサービスを提供する
2. 職場環境改善・業務改善を進めることでサービスの質も高める
3. 共生社会実現の為に連携関係を作り、利用者がその人らしく地域で暮らせるよう支援する
4. 新たな役割を担い、成長を実感できる体制強化と多様な人材の働き方を支援する
5. 防災・防犯対策の強化と地域との関わりを増やす
6. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 高齢者・障害児（者）に対し切れ目なく質の高いサービスを提供する

(ア) 特別養護老人ホーム和合愛光園・和合愛光園和合サテライト

- ①シーティング技術を高め利用者座位での褥瘡発生予防
- ②フロアー業務の洗い出しと標準化を進め、フロアー間協力体制を強化する
- ③入居待機者確保のため各機関への営業活動推進、定期的な空床状況の情報提供
- ④緊急ショートステイ・障害ショートステイの積極的受け入れを継続する

(イ) 和合愛光園デイサービスセンター・聖隷トライサポート和合

- ①利用者情報共有を進め、個別性を重視したケア体制をつくる
- ②医療後の継続リハビリテーションの受け入れ体制づくり
- ③リハビリ特化型デイサービスにおける共生型サービス機能訓練終了後の対応検討
- ④アセスメントに基づいたADLや認知症改善プログラムの実施
- ⑤センター機能での支援体制をアピールして利用者を増やす

(ウ) 障害者支援施設 みるとす

- ①「みるとす」（施設入所支援生活介護第1単位）
利用者の突発的な体調変化へ柔軟に対応できる職員の育成
和合せいれいの里他サービスとの連携を強化し地域拠点施設の役割を果たす
- ②「みるとす」（生活介護第2単位）あすなろ
利用者個々の特性を理解し必要な支援が提供できるようにする
土曜日利用促進のため、活動内容の充実、利用者ニーズ調査を進める

(エ) 障害者相談支援事業所 くすのき

- ①中障がい者相談支援センターと地域包括支援センター和合との連携を図る
- ②地域未就学児童の相談対応についてこども園と連携

(オ) 聖隷チャレンジ工房和合

- ①就労移行支援事業所として支援体制を強化し、訓練実績向上1日平均10名
- ②聖隷キッチン和合の弁当製造食数の増加と受注先の拡大
- ③新しい実践的な就労作業メニュー（施設清掃・車いすメンテナンス業務等）の確立
- ④5人以上の就職者創出と就労定着支援体制の強化

(カ) 聖隷放課後クラブはなえみ和合

- ①和合せいれいの里の環境をフルに活用した支援体制と支援プログラム提供
- ②リハビリテーションを通して子供の身体づくりを支援
- ③経営の安定化を図る。利用者1日平均18.2人
- ④効率的な送迎体制の追求

(キ) 生活支援ハウス やまぶき

- ①特別養護老人ホーム職員との協力体制での運営を図る

(ク) 聖隷ヘルパーセンター

- ①身体介護利用者受け入れを増やし身体介護比率80%を目指す
- ②有償サービスの見直しを行ない、利用者を増やす

(ケ) 訪問看護ステーション住吉

- ①障害者相談支援事業所くすのき・聖隷ヘルパーセンターと連携し潜在利用者の発掘
- ②聖隷浜松病院との連携継続
- ③浜松市リハビリテーション病院 訪問リハビリテーションからの移行連携

(コ) 聖隷ケアプランセンター和

- ①特定事業所として多様なニーズに応えるため、関係機関（特に障害領域）との連携の強化と対応力の向上を図る

(サ) 地域包括支援センター和合

- ①地域包括ケアシステム深化のため地域ネットワークを強化
- ②相談員としてのスキルアップを目指し、包括職員の人材育成

(シ) 浜松市中障がい者相談支援センター

- ①連携法人共同体として、それぞれの強みをいかした相談体制作りを進める
- ②地域や関係機関への周知を幅広く行う

2. 職場環境改善・業務改善を進めることでサービスの質も高める

- (ア) 環境整備チームをつくり、利用者環境・職場環境のチェック・改善をすすめる
- (イ) 介護テクノロジー（ロボット・AI 等）の導入を推進し、介護業務の全自動化を意識した次世代型施設の基盤づくりを進める
- (ウ) 介護システム静岡エリア運用標準化の推進としてフィールドイノベーション活動の中で業務の洗い出しを行い、介護業務効率化を進める
- (エ) システム等を活用した効率的な送迎の実現のため、事業毎の送迎体制の見直しを行う

3. 共生社会実現の為の連携関係を作り、利用者がその人らしく地域で暮らせるよう支援する

- (ア) 総合的課題へ対応できる相談窓口への取り組み
- (イ) 日常的に高齢者・障害者・こどもの交流をすすめ、お互いをささえあう体制づくりを行う
- (ウ) 求められている発達支援領域の事業の継続検討

4. 新たな役割を与え成長を実感できる体制強化と多様な人材の働き方を支援する

- (ア) プリセプター制度、介護・相談部門ラダーを効果的に運用する為、目標参画システムに取り組み課題を盛り込み実施する
- (イ) ケアサポーターの役割の明確化と体制の再調整を行い福祉分野タスクシフティング推進
- (ウ) EPA 介護福祉士候補生及び新人職員育成計画の策定と計画に沿った教育の実施

5. 防災・防犯対策の強化と地域との関わりを増やす

- (ア) 定期的な防災訓練実施と訓練内容見直し、年2回の防犯想定訓練を実施する
- (イ) 静岡県災害派遣福祉チーム登録要員の増員と福祉避難所としてのBCP マニュアルの再整備
- (ウ) 和合サテライト・3号館の防犯対策機器の設置

6. 地域における公益的な取組

- (ア) 聖隷キッチン和合の学習支援事業への弁当配食・困窮家庭への食を介しての支援
- (イ) 介護保険利用者負担軽減制度の実施
- (ウ) 専門職としての技術・情報を地域へ出向き提供する
- (エ) 河川里親制度に登録を継続し隣接河川の環境美化活動
- (オ) 小中学校の福祉施設職業体験等、積極的に受け入れ

【数値指標】

■高齢者入所・和合サテライト・通所関係事業

	和合愛光園			和合サテライト	和合愛光園 デイサービスセンター			やまぶき 生活支援ハウス
	特養入所		短期		通所介護			
	従来型	ユニット型	従来型(障害)		ユニット型	一般型介護	予防	
利用者定員	62名	40名	20名	29名	50名		12名	5名
利用者延数	22,265名	14,381名	7,119名	10,402名	9,300名	930名	3,190名	730名
一日平均利用者数	61.0名	39.4名	19.5名	28.5名	30.0名	3.0名	10.3名	2.0名
稼働率	98.4%	98.5%	97.5%	98.3%	66.0%		85.8%	40.0%
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	310日		310日	365日
単価(一人一日)	12,200円	14,600円	12,100円	14,500円	10,600円	5,535円	13,100円	—
サービス活動収益	285,039千円	209,973千円	80,605千円	150,838千円	107,245千円		41,805千円	8,049千円
正職常勤換算数	34.5名	22.8名	9.1名	13.6名	7.9名		2.0名	0.0名
パート常勤換算数	11.6名	4.3名	0.8名	4.6名	11.2名		4.1名	1.2名

■障害者入所・通所・相談関係事業

	聖隷トライサポート 和合		障害者支援施設 みるとす			相談支援 くすのき	中障がい者 相談支援 センター
	介護 予防	共生型 機能訓練	施設入所 生活介護Ⅰ	生活介護Ⅱ	短期入所	特定 児童	浜松市受 託
利用者定員	60名		20名	20名	2名	—	—
利用者延数	9,414名	1,665名	7,117名	6,004名	1,152名	—	—
一日平均利用者数	33.3名	5.9名	19.5名	20.5名	3.2名	—	—
稼働率	65.2%		97.5%	102.5%	157.8%	—	—
稼働延日数	283日		365日	293日	365日	—	—
単価(一人一日)	5,918円	8,570円	18,423円	14,500円	8,300円	—	—
サービス活動収益	70,002千円		133,419千円	87,075千円	10,279千円	19,785千円	43,634千円
正職常勤換算数	7.7名		12.2名	7.8名	—	3.0名	4.0名
パート常勤換算数	4.8名		4.2名	8.0名	—	1.0名	4.0名

■就労支援事業・放課後等デイサービス事業

	聖隷チャレンジ工房和合				聖隷放課後クラブ はなえみ和合	
	就労移行	就労継続B	就労継続A	就労定着	学校日	休校日
利用定員	10名	15名	10名	—	20名	
利用者述べ人数	2,950名	4,216名	2,672名	114名	3,641名	853名
一日平均利用者数	10.5名	15.0名	11.0名	—	18.5名	
稼働率	105.0%	100.0%	110.0%	—	92.5%	
稼働日数(延べ)	281日	281日	243日	—	197日	46日
単価(一人一日当り)	8,020円	8,059円	8,020円	—	10,400円	11,500円
サービス活動収益	34,310千円	49,965千円	50,333千円	3,277千円	50,619千円	
正職常勤換算数	7.3名				6.7名	
パート常勤換算数	17.8名(うち、A型利用者8.7名)				3.1名	

■訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

訪問看護ステーション 住吉	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数	
	200.5名	1,049件	12,587件		9,874円		125,488千円	21.0名	
聖隷ヘルパーセンター	介護給付		予防給付		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数	
	平均利用者数	訪問件数		利用者		介護(時間)			予防(月)
		月間	年間	月間	年間				
73.6名	725件	8,700件	49.5名	594名	4,118円	14,000円	67,598千円	10.1名	
聖隷ケアプランセンター和	年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス活動収益	常勤換算職員数	
	介護	予防	介護	予防	年間件数	単価			
	2,234件	216件	17,912円	4,057円	12件	4,000円			44,168千円
地域包括支援センター和合	浜松市受託収入		予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価	サービス活動収益	常勤換算職員数		
	30,660千円		3,240件	2,430件	4,400円				
	日常生活支援総合事業の予防プラン								
	種別	ケアマネジメント請求件数	うち再委託件数	ケアマネジメントプラン単価					
	ケアマネジメントA	2,310件	1,800件	4,400円					
ケアマネジメントB	180件	0件	2,256円						
ケアマネジメントC	30件	0件	2,195円						
						55,556千円	7.2名		

聖隷めぐみ保育園

和合せいれの里及び浜松市リハビリテーション病院の職員の子ども0.1.2歳児の従業員枠23名と地域枠7名の定員30名の地域型保育事業所として開設、運営して5年が経過した。2019年度は、地域枠については早い時期に定員を満たしていたが、従業員枠の入所が少なく、3月末で26名の入所となった。今後は、保護者がいつでも職場復帰ができるよう、職員体制を整えることと併せて、3歳児以降の受け入れ先についても安心できる環境を整えていきたい。

和合せいれの里内での合同行事が定着し始め、更に日々の交流も深まっている。この恵まれた環境を活かし、高齢者、障がい児者、子ども、お互いの存在が日常となるよう積極的に関わりを深めていきたい。また、連携園である聖隷こども園めぐみとは、3歳以降の受け入れ先としてさらに交流、連携を密にし、合同行事や土曜共同保育を継続していく。2歳児までの園として、安定した卒園後の受け入れ先（3歳時以降）の確保が課題となる中で、聖隷こども園めぐみとのつながりは心強く、今後も保育を共に考え、共に実践し、保育を進めていくようにする。そして、和合せいれの里の施設内の恵まれた立地を利用し、豊かな自然環境の中で、子どもが心身共に豊かに成長するための保育を目指し、子どもの成長発達を考えた子育てを家庭・地域と連携をとりながら行っていく。

【施設理念】

1. 子どもたち一人ひとりが愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 和合せいれの里の豊かな自然と人との交流が、子どもの自己発信と創造性を育む

【経営方針】

1. 保育の基盤をキリスト教に置き、子ども一人ひとりが心身共に豊かな成長発達ができるよう丁寧な保育を行う
2. 定員30名という少人数の園の特性を生かし、一人ひとりに合わせた丁寧な関わり、乳児期の心身の発達に必要な保育、教育が行われるよう職員の保育の質の向上を図る
3. 敷地内で身近に生活する高齢者、障がい児者、幼児、学童等の利用者との交流を日常的に行っていく
4. 在園、地域の子育て家庭が豊かな環境で子育てできるように、保護者の就労、子育て状況を把握し、子どもの成長発達と併せて保護者支援を行っていく

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上。利用者に質の高い保育・保護者支援を行う
 - (ア) 新規、中途採用および経験の浅い職員が多いので、聖隷でこれまで培ってきたキリスト教保育について学ぶ機会を作り、行事や日常の保育についての勉強会を定期的に行う
 - (イ) 園内外の研修に積極的に参加し、お互い報告する中で共有化しながら保育の質を高める
 - (ウ) 養護と教育が一体になった保育を、子どもの成長発達に関連付けて行うために、常に子どもを観察し、子どもを理解するよう努める

(エ) 環境・玩具を常に見直し、子どもの発達に合った保育環境を整える

2. 和合せいれいの里施設利用者同士の日常的な交流を図る

(ア) 施設間での職員の連携を密にすると共に、自園の情報を発信し、交流を深める

(イ) それぞれの情報を共有できる工夫をし、他施設の理解に努める

3. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくりを目指す

(ア) 日々の業務内容（記録業務等）の見直しを図る

(イ) 保育システムの内容を見直し、業務省力化につなげる

(ウ) 園の行事等、準備から反省までの流れをシステム化し、業務省力につなげていく

（特に、こども園めぐみと合同の行事について）

(エ) 職員間のコミュニケーションを密にし、報告・連絡・相談・確認を徹底し、会議を短時間で終わるようにする

(オ) 職員体制を整え、働きやすい環境を整えることで、心身の健康維持に努める

4. 子育て支援と地域における公益的な取組

(ア) 小学校の長期休み（夏休み等）の学童保育・学習支援を充実させる

(イ) 地域の子育て家庭のニーズを探り、育児相談や子育て支援に努める

(ウ) 子育て等に関する研修内容の情報提供や、懇談会・講演会等で育児・保育に関する学びを保護者と共有し、子育て支援につなげる

【数値指標】

利用者数	定員	30名	0歳児	1歳児	2歳児
	4/1 入所予定 児童数	従業員枠	0名	8名	6名
		地域枠	1名	3名	3名
		年間入所延人数	62名	120名	108名
職員数	保育士				
	正規職員	6名			
	パート	5名			
	計	11名			

聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト

聖隷デイサービスセンター初生

2020年は、介護報酬改定前年度となる。今後の介護保険制度化において、改めてキーワードとなる取り組みは、「自立支援ケア(重度化防止)」「認知症ケア」「混合介護」「生産性の向上」と予想される。

それに対し当センターは、サービス・プロフィット・チューンの概念を念頭に働く職員の満足度を向上させ、利用者により一層信頼される取り組みを進めたい。センター内で、多様な就労形態が可能となるように業務改善に取り組み、特に高齢者が安心して働く環境づくりのために、エイジアクション100のチェックリストを積極的に活用していきたい。当センターに関わる全ての人にとって「笑顔があふれ、人が集まる場所」となるように取り組んでいきたい。

【施設理念】

わたしたちは、住み慣れた地域でその人らしい“暮らし”や“生きがい”を支え続ける

【経営方針】

1. センター全体で「自立支援ケア」を確実に実践し、利用者の生きがいを支援する。
2. センター全体で「認知症ケア」の質を高め、利用者の意思決定を支援し望む生活の実現に取り組む。
3. 職員ひとりひとり成長を促し、世代や役割に応じたやりがいと成果を実感できる経営を行う。
4. 事業所全体の危機管理意識を高め、非常時に地域に貢献できる拠点づくりを進める。

【事業・運営計画】

1. 「自立支援ケア」を確実に実践し、利用者の生きがいを支援する。
 - (ア) 通所介護利用者本人の意思に基づいた様々な活動への参加を支援する。
 - ① 身体的自立支援として **Barthel Index** による評価を確実にを行い、利用者の「心身機能の維持向上」に努める。(個別機能訓練Ⅰ支援メニューの充実)
 - ② 社会的自立支援として、国際生活機能分類の概念に基づいて、個々の「利用者が求める活動」を明らかにし、「参加」を支援することで「心身機能の活性化」に努める。(個別機能訓練Ⅱの算定率向上)
 - ③ 利用者の通所利用目的を常に意識し、それに基づくプランの立案と質の高いケアの実施により、本人の選択と決定を支援する。(本人の可能性を引き出す)
 - (イ) 小規模特養入居者本人の意思、本来の姿に沿った生活の実現を支援する。
 - ① 個々の入居者の生活歴(センター方式B-2.3.4シート使用)を明らかにする。
 - ② 個々の利用者の「人として望むこと」(センター方式C-1.2.を使用)を明らかにする。
 - ③ 個々の利用者の「暮らしの創造」のために①、②より得た気づきを活かして、積極的にアプローチを試み続ける。(その人自身を取り戻す)
 - ④ 穏やかな終末期を迎えるために、利用者本人、家族や関係者と「人生会議」を行い、意向に沿ったケアが実現できるように、職員一人一人のケア質の向上＝ラダーの活用をすすめる。
2. 通所介護、小規模特養それぞれにおいて「認知症ケア」の質を高め、利用者の意思決定を支援し、望む生活の実現に取り組む。

- (ア) ケアセンター全体で、認知症の利用者とのコミュニケーションスキルを高める。
 - ① 「ユマニチュード」のケア技法を身につける。インストラクター養成講座に参加する。
 - ② 日常会話式認知機能評価方法「CANDy」を活用し、認知症利用者との「会話」を取り戻す。
- (イ) 通所介護における認知症利用者の対応力を向上させる。
 - ① 積極的に外部の研修、実習等の機会を得る。(認知症サポーター養成講座受講を進める。)
 - ② 居場所づくり、プログラムの開発を図る。
 - ③ インカムによる情報共有の仕組みを導入すると同時に、人員配置を見直し、ケアサポーター(認知症サポーター含む)の採用と活用を進め、対応体制の整備と強化を図る。
- (ウ) 小規模特養入居者における認知症利用者への対応力を向上させる。
 - ① 1.(イ)①②③の取り組みを進め、「本人の望む暮らし」を明らかにし、実現に努める。
 - ② 認知症実践者研修、リーダー研修の受講を積極的に進め、認知症ケア加算算定を目指す。
 - ③ 個々の利用者に関わる機会を増やすため、ケアサポーターの採用をさらに進める。

3. サービス・プロフィット・チューンの概念を活かした事業所づくりをすすめる。

- (ア) 人が自然と集まり、成果が実感できる組織づくり(自然と笑顔が生まれる組織作りを目指す)
 - ① 職員の満足度を上げるために、業務改善(先端技術の活用)、労働環境の改善、成長を実感できる評価の見える化を進める。(「働きやすさ」を常に意識する。)
 - ② 創立90周年の聖隷の理念を意識し、利用者ロイヤルティと職員のロイヤルティが常に高められるよう、利用者目線、職員目線を共に大切にされた改善に取り組む。
- (イ) 制度枠にとどまらない「混合介護」を意識し、個々の職員の能力特性を活かす事業提案を行う。

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 浜松市のボランティア「ささえあいポイント」への参加を継続する。
- (イ) 福祉避難所としての役割を常に念頭に、危機管理意識の高い組織作りに取り組む。

【数値指標】

	和合愛光園 初生サテライト	聖隷デイサービスセンター初生	
		介護給付	総合事業
利用者定員	29人	50人	(50人)
利用延数	10,548.5人	10681.0人	216人
一日平均利用者数	28.9人	36.0人	4.0人
稼働率(%)	99.0%	80%	
稼働延日数	365日	308日	
平均介護度	3.85	1.8	—
単価	14,600/日	9,500円/回	33,000/月
サービス活動収益(千円)	154,008(千円)	105,336(千円)	
職員数(正職)	14.3人	6.3人	
職員数(パート)	6人	14.5人	

聖隷ケアセンター高丘

訪問看護ステーション高丘
聖隷リハビリプラザ I N高丘
地域包括支援センター高丘
聖隷ケアプランセンター浜松

【事業・運営計画】

1. 聖隷ケアセンター高丘内の連携を図り、センター全体として地域の中で、質の高いサービスを展開できる
 - (ア) 訪問看護ステーション高丘はリハビリテーション強化型ステーションとして内外に発信し続けると共に、事業団内の浜松地区訪問看護ステーションの基幹的役割がはたせるようになる。また、聖隷ケアプランセンター浜松との連携にて機能強化型ステーションを目指す
 - (イ) 聖隷リハビリプラザ I N高丘はリハビリテーションに特化したデイサービスとして地域に根ざすとともに、介護予防や障がいをもった方にもアプローチできるデイサービスを目指す
 - (ウ) 地域包括支援センター高丘は様々な相談に対応するとともに、地域課題を抽出し、センター内外に向けて情報を発信、地域づくりをすすめる
 - (エ) 聖隷ケアプランセンター浜松は高丘地域を理解し、交流を深め、多様なニーズに対応できるよう知識・アセスメントの向上を図る
 - (オ) 高丘拠点のそれぞれの事業所が日々の実践や成果を高丘ケアセンター学会で発表する

2. 予防事業から重度者・障がい者・複数課題者対応まで行なう地域包括ケアシステムの基幹的役割を果たせるセンターになる
 - (ア) 高丘地区の特徴を活かした訪問の計画・実践を行うと共に、リハビリテーションに特化したサービスが主体であることを病院の退院支援・居宅介護支援事業所・相談支援事業所・地域に発信していく
 - (イ) センター内の人・物を共有し、ICT化における業務の効率化を図り、職員の人材育成をしていく
 - (ウ) センター内の事務機能を整理し、業務分担の再編成をしていく

3. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 地域に開かれた施設運営をする
(ロコモーショントレーニング事業の継続、高丘センター祭り)
 - (イ) 地域行事（防災訓練等）・学校行事に参加する
 - (ウ) 各専門職の実習・職場体験、ボランティアの積極的な受け入れを行なう

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション高丘）

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	サービス活動 収益（千円）	職員数 （常勤換算）
215人	1,091件	13,094件	9,160円	121,420千円	15.8名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザ I N高丘）

介護給付			予防給付		単価（円）		サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤 換算）
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	介護 （月）	予防 （月）		
27名	693名	8,320名	77名	928名	5,844円	32,257円	78,553千円	11.7名

地域包括支援事業（地域包括支援センター高丘）

浜松市受託収入（千円）	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤 換算）		
41,645千円	3,086件	2,288件	4,400円			64,695 千円	7.7名
日常生活支援総合事業の予防プラン							
種別	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	64,695 千円	7.7名		
ケアマネジメントA	1,943件	1,152件	4,400円				
ケアマネジメントB	289件	0件	3,195円				
ケアマネジメントC	0件	0件	2,195円				

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜松）

年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス活動収益 （千円）	職員数 （常勤 換算）
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価		
2,320件	300件	16,053円	3,960円	12件	4,400円	40,308千円	5.8名

訪問看護ステーション住吉第二

【施設理念】

利用者家族に寄り添い、利用者を主人公として自己決定を支援する

【経営方針】

1. 聖隷浜松病院・地域の社会資源との連携をする事で、利用者によりよいサービスを提供することができる
2. やりがいを実感できる人材育成

【事業・運営計画】

1. 聖隷浜松病院に密着したステーションとして、利用者への切れ間のないサービスを提供することができる
 - (ア) 医療依存度の高い利用者等の受け入れをスムーズに行える仕組み作り
 - ① 入院中から（パート職員を含め）退院支援を行い、退院支援方法を学ぶ
又、退院前チェックリストを作成し、スムーズに在宅への移行できる様にする
 - ② 医療依存度の高い利用者の同行訪問チェック表を作成・実施・評価する
 - ③ ①②を通して、スタッフのやりがいに繋げる
 - (イ) 聖隷浜松病院での NICU/GCU カンファレンスへの参加の継続
2. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 住吉地区への継続した地域貢献
 - ① 住吉交友会との定期的な健康相談・体操教室の実施
 - ② 住吉地域の防災訓練への参加
 - ③ 地域包括支援センターと協働してプログラムを行う
3. 個々のスタッフのやりがいを具体化し、それにあった OJT を実施する
 - (ア) 中途採用者に対して、毎月中途採用プログラムに沿った振り返りを実施
 - (イ) 計画的な研修の参加と伝達講習
 - (ウ) ナーシングスキルの活用推進と職種別ラダーの継続
 - (エ) 日頃の活動を、ケアセンター学会で発表する
4. 聖隷浜松病院ひばり保育園との連携
 - (ア) 聖隷浜松病院ひばり保育園と防災訓練・不審者対応訓練の実施

【数値指標】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
134 人	663 件	7,973 件	9,669 円	77,358 千円	13 人 (11.3)

聖隷コミュニティケアセンター

【事業・運営計画】

1. 障害者福祉事業との連携強化

- (ア) 障害者福祉事業と連携し、施設向けの車いすレンタルを開始する。和合愛光園をモデルケースとして、十分な評価を行い他施設に向けてサービスを拡大していく。
- (イ) 施設車いすのレンタルサービス開始に伴い、車いす洗浄、メンテナンス、管理等を障害者向けの労働作業メニューとして実践できるよう検討する。
- (ウ) 静岡県立浜松学園に業務委託しているおむつ配送業務を、10月から業務移管するため準備を進める。

2. 業務効率化と経営安定化の推進

- (ア) 職場内の人員配置や専門職及び非専門職の業務の見直しを行い、効率的で働きやすい職場環境を整える
- (イ) 貸与業務支援ソフトの活用を深化させ、スケジュール管理と経過記録等の電子化とペーパーレス化を進める。
- (ウ) 月4回のノー残業デイと、訪問時間の改善を実施し、月間35時間、年間360時間を超える超過勤務者を0人にする。
- (エ) 自社資産ベッド約180台の貸与稼働率を80%以上で継続していく。
- (オ) 聖隷居宅支援事業所、地域包括支援センターとの連携を強化し、平均紹介率70%以上を達成する。

3. 福祉用具専門相談員としての専門性を高める

- (ア) 内部研修や勉強会の充実を図り、相談員としての質の向上につなげる。
- (イ) 目標参画及び自己評価を用いて自己の課題を明確にすると共に、専門相談員業務の評価も行い、改善点を見出しさらなる質の向上につなげる。
- (ウ) 職員一人ひとりの専門性向上のため、外部研修等に積極的に参加できるよう支援する。
- (エ) 次世代リーダー育成を進めると共に、多様な業務を担える職員を育成する。

4. 地域への取組み

- (ア) 在宅事業所が行っている地域に向けた取組みに対して、福祉用具での協賛や職員の派遣等で積極的に関わる。

【数値指標】

年間 利用者数	年間 貸与売上	年間 販売売上	年間 住改修売上	サービス 活動収益
11,770件	152,442千円	279,297千円	13,900千円	445,639千円

浜松市生活自立相談支援センターつながり

【事業計画】

1. 地域における公益的な取組

- (ア) 教室に通えない又は通うことができない生徒への訪問型及び通信型の学習支援を企画実施する。
- (イ) 総合的かつ狭間のない対応ができる場所での学習支援教室を企画し実施する。
- (ウ) 学習サポート卒業生を対象に高校定着及び退学防止支援を実施する。
- (エ) キャリア形成支援の一環として「就労体験」を年4回実施する。

2. あらゆるニーズに対応できる支援体制づくり

- (ア) 障がい児者相談支援、高齢者相談支援事業所との連携を強化し、サービスの利用調整及び福祉サービスにはない「新たなサービス」を検討する。
- (イ) 緊急を要するニーズに対し、食の提供などの緊急一時支援を実施する。

3. 地域との連携強化・充実

- (ア) 各地区の民生・児童委員会定例会に参加し、連携事例に関する情報共有を積極的に実施する。
- (イ) 各地区の民生・児童委員会において、生活困窮事例の発掘を実施する。
- (ウ) 支援開始時から民生委員や関係機関などと支援を検討し、地域支援体制を構築する。

4. 就労支援および就労準備支援

- (ア) 就労支援対象者のうち、年間100名を就職につなげる。
- (イ) 就職者のうち、正規雇用率30%、6ヶ月定着率70%を目指す。
- (ウ) 就労準備支援事業の対象者を年間15名とする。
- (エ) 中間的就労や職場体験ができる協力企業を各地区2か所以上開拓する。

【数値指標】

	つながり			学習サポート事業
	生活困窮者自立支援事業	学習支援事業	ホームレス巡回支援事業	
サービス活動収益（千円）	55,176千円	1,314千円	360千円	-千円
職員数（常勤換算）	10.7名			3.4名

聖隷厚生園 信生

障害者支援施設 聖隷厚生園信生寮

聖隷厚生園まじわりの家

訪問看護ステーション細江

聖隷ケアプランセンター細江

聖隷ヘルパーセンター浜松北

2020年は、2019年に引き続き医療と介護・福祉の連携強化を行い、利用される方が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、一体的な事業展開を目指す。

聖隷厚生園信生寮では、利用者のできることを引き出す支援を行い、一人ひとりの尊厳が守られることを目的に事業を推進する。また働く職員の身体的精神的負担が軽減できるように作業手順や労働環境の抜本的な見直しを行う。

訪問看護においては、「訪問看護ステーション三ヶ日（仮称）」を新規開設し、事業所が少ない三ヶ日町の在宅医療への充実に貢献する。訪問介護や居宅介護支援も障がい福祉分野との連携をさらに強化させ、地域共生社会への実現に向けて事業を推進させる一年とする。

【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

【経営方針】

1. 利用者の尊厳を守り、利用者主体の支援の提供
2. 地域課題の解決に向けた取り組み
3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造
4. 介護人材の確保と育成の取り組み
5. 災害時対策と地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者の尊厳を守り、利用者主体の支援の提供
 - (ア) 身体機能の廃用性や生活意欲の減退を防ぐため、介護過程に基づいた利用者の“できる”を引き出す個別支援計画を策定し、実行する。
 - (イ) 嚥下機能評価を確実にし、食事形態の見直しを行うとともに利用者の「食べたい」を尊重できる取り組みを行う。
 - (ウ) 排泄介助方法の見直しを行い、利用者が心地よくかつ効率的に介助できる体制を整える。
 - (エ) 虐待防止セルフチェック表を年2回実施するとともに、虐待防止委員会では外部評価者を交えて日々の利用者への接遇のあり方を客観的に評価し、利用者の尊厳を守る環境を作る。
 - (オ) 社会資源を活用した入居利用者の外出支援のあり方を検討し、取り組みを開始する。

2. 地域課題の解決に向けた取り組み

- (ア) 訪問看護ステーション三ヶ日（仮称）を新規開設し、在宅医療の充実に貢献する。
- (イ) 聖隷ヘルパーセンター浜松北では、障がい者へのサービス導入をすすめながら、介護保険においては浜松市北区、西区のサービスが不足している地域へのシェア拡大に努める。
- (ウ) 聖隷ケアプランセンター細江では聖隷三方原病院の病棟カンファレンスに参加して、入退院時の情報交換に努め、ターミナルや医療依存度の高い利用者への対応を強化させる。
- (エ) 在宅サービス事業所、通所事業所、相談支援事業所等が合同カンファレンスを定期的に行い、8050 問題や老障世帯等の支援困難ケースに対応できるチームケアを確立させる。
- (オ) 浜松市基幹相談支援センター等の緊急一時入所の要請に応え、地域の虐待防止に貢献する。
- (カ) 西部特別支援学校からの体験実習を積極的に受け、卒業後に利用者やその家族が求める地域生活ができるように支援計画をしっかりと提案する。

3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造

- (ア) ノーリフトケアを宣言し、利用者を安全に介助でき、かつ職員の身体的負担の軽減を図る。
- (イ) 業務整理及び会議時間短縮化を図り、利用者のタイムリーな要請に応えられるようにする。
- (ウ) 常に新しい介護機器等の情報を収集し、安全かつ効率的に支援する方法を模索する。
- (エ) 集団感染を予防し、入院することなく生活できるように利用者の健康管理に努める。

4. 介護人材の確保と育成の取り組み

- (ア) 各専門職ラダーを活用し、職員のできることを引き出す人材育成を行う。
- (イ) 人事企画部と連携し、EPA 介護福祉士候補生の就業・学習支援を強化する。
- (ウ) 聖隷クリストファー大学・介護専門学校等と連携し、実習及びインターンシップの受け入れを積極的に行い、養成校とともに将来の介護人材の育成に貢献する。
- (エ) ナルド工房と連携し、障がいをもつ方がやりがいをもって介護の仕事をしてもらえるように障がい者雇用、就労継続支援の受け入れを積極的に行う。

5. 災害時対策と地域における公益的な取り組み

- (ア) 在宅介護者の不安や負担軽減を目指し、地域住民向けの無料「介護体験講座」を開催する。
- (イ) 大規模災害への対応ができるように、災害時におけるマニュアルを周知し、定期的に訓練を行う。

【数値指標】

■障害者入所・通所事業

	信生寮			まじわりの家	
	入所	短期	日中一時	生活介護	機能訓練
利用者定員	60名	10名	-	14名	6名
利用者延べ人数	22,094名	4,258名	3,848時間	4,240名	1,490名
一日平均利用者数	60.5名	11.7名	-	16.5名	5.8名
稼働率	100.9%	116.7%	-	117.8%	96.6%
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	257日	257日
単価(一人一日当り)	20,726円	8,978円	-	16,248円	10,010円
サービス活動収益(千円)	387,118千円	38,347千円	3,098千円	84,934千円	
職員数(常勤換算)	57.1名			15.1名	

■訪問・居宅介護支援事業

訪問看護 ステーション細江	平均 利用者数	月間 訪問件数	年間 訪問件数		単価		サービス活 動収益	常勤換算 職員数	
	166.5名	782件	9,382件		9,552円				
訪問看護ステ ーション三ヶ日 (仮称) 10月～	平均 利用者数	月間 訪問件数	年間 訪問件数		単価		サービス活 動収益	常勤換算 職員数	
	47.2名	266件	1,598件		9,853円				
聖隷ヘルパー センター浜松北	介護給付		予防給付		単価		サービス活 動収益	常勤換算 職員数	
	平均利 用者数	訪問件数		利用者数		介護 (時間)			予防 (月)
		月間	年間	月間	年間				
58.5 名	413 件	4,950 件	26.0 名	312 名	4,300 円	18,000 円	49,123 千円	6.1名	
聖隷ケアプラ ンセンター細江	年間請求件数	平均単価			サテライト(三方原)		サービス活 動収益	常勤換算 職員数	
	介護	予防	介護	予防	月件数	月額			
	1,806件	288件	16,397円	3,951円	8件	84,000 円			31,759 千円

聖隷厚生園讃栄

聖隷厚生園讃栄寮

生活訓練事業所ナルド

障害者相談支援事業所ナルド

地域活動支援センターナルド

福祉共同住宅ファーストステップ

全国救護施設協議会では①多種多様な障がいを抱えた方に対してのセーフティーネットとして支援機能の強化②生活困窮者自立支援制度による就労支援強化③利用者主体の個別支援の質の向上④日常生活支援住居施設との差別化を図る為、第三者評価事業の受審推進を挙げている。讃栄寮では年齢層、障がいの幅が広がる中で中間施設としての生活支援と地域移行支援の専門性を高め、質の確保と向上に取り組む。在宅部門では浜松市の相談支援体制の再編もあり、障がいに捉われない支援体制を整備し、在宅サービス等と連携を図りながら多様なニーズに対応していく。

【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

【経営方針】

1. 「やりがい」に着目し自立助長を促す事が出来る利用者主体の支援強化
2. 支援が必要な利用者に対し、それぞれのライフステージにあった支援の提供
3. 障がい者がより自立した生活ができる地域づくりへの貢献
4. 公益的活動における地域貢献等

【事業・運営計画】

1. 「やりがい」に着目し自立助長を促す事が出来る利用者主体の支援強化
 - (ア)利用者の真のニーズに着目し、「できること」が伸ばせる個別支援計画作成と外部研修を活用した技術を習得する。
 - (イ)個別支援計画の指導的職員としてリーダークラス・中堅職員の人材育成を行う。
 - (ウ)職員が利用者に関わりながら自分で取り組む習慣がつくよう生活の環境整備に取り組む。
 - (エ)余暇支援・行事を利用者と一緒に計画・実施し「自分でもできる」という自信獲得の機会を提供する。
2. 支援が必要な利用者に対し、それぞれのライフステージにあった支援の提供
 - (ア)居宅生活訓練事業における年間3名の地域移行支援を実施する。
 - (イ)在宅障がい者に訪問看護ステーション細江や聖隷ヘルパーセンター浜松北等と連携強化を図り、在宅での安心で健康的な生活が送れるよう支援体制を強化する。
 - (ウ)65歳以上の方には高齢者施設、身体上の日常生活動作に課題がある方には身体障がい者施設への移行を利用者の意向等を踏まえてすすめていく。

(エ)入居利用者に身体機能低下予防の為のリハビリテーション・運動機会を提供する。

(オ)利用者・職員共に身体的負担を軽減する為、環境整備を行う。

3. 障がい者がより自立した生活ができる地域づくりへの貢献

(ア)行政、病院等との関係機関と連携し、より多くの困っている方の相談にのり、全事業契約件数 2019 年度比増を目指す。

(イ)障害者相談支援事業所「ナルド」と「信生」を合併させ、再編される浜松市北障がい者相談支援センターと連携し、多様なニーズに対応できる相談体制を整える。

(ウ)福祉共同住宅ファーストステップを3戸定員増加し、施設や精神科病院等退院者の地域生活を支える住居支援を行う。

(エ)浜松市障がい者基幹相談支援センターや救護一時入所の受入れを積極的に行う。

4. 公益的活動における地域貢献等

(ア)希望する利用者と職員が地域に出て、ボランティア活動に参加するなど活動の場を広げる。

【数値指標】

	讃栄寮			ファーストステップ
	救護施設	救護通所	短期入所 (総合支援法)	福祉共同住宅
利用者定員	60名	10名	4名	10名
利用者延べ人数	23,725名	2,920名	1,168名	2,920名
一日平均利用者数	65.0名	8.0名	3.2名	8.0名
稼働率	108.3%	80.0%	80%	80%
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	365日
単価(一人一日当り)	9,643円		5,949円	2,806円
サービス活動収益(千円)	260,419千円		6,906千円	10,595千円
職員数(常勤換算)	30.2名			2.0名

	生活訓練ナルド		(相談支援事業ナルド)
	生活訓練	生活介護	指定相談支援
利用者定員	10名	10名	-名
利用者延べ人数	1,980名	2,962名	-名
一日平均利用者数	7.4名	11.0名	-名
稼働率	73.6%	110.1%	-%
稼働日数(延べ)	269日	269日	-日
単価(一人一日当り)	8,755円	6,801円	-円
サービス活動収益(千円)	17,614千円	18,891千円	37,404千円
職員数(常勤換算)	4.8名		4.8名

聖隷厚生園ナルド工房

2019年度は利用者がやりがいを感じられる就労機会の提供を目標に介護人材のサポート業務を開始することができた。2020年度は、利用者のやりがいをさらに引き出し、利用者に社会の一員であることを体感してもらうことを目標に、施設外へ出たより実践的な就労機会を増やしていく。

また、職員、利用者ともに安全かつ安心して仕事ができる環境を整え、今できていることをさらに磨き上げる“質”にこだわる年と位置付けたい。

多機能型事業所として、利用者の能力や課題に応じたステップアップや再チャレンジの場が提供できる強みを有効に活かし、職員は利用者の個々の障がい特性の理解を深め、利用者の能力に応じた段階的な目標設定をする。利用者にはナルド工房で仕事を通じてより多くの体験を積み重ねてもらうことで、自分のできることを知り、自分の可能性を広げられる支援を実践していく。

【施設理念】

働くことが『生きる喜び』となるように共に歩みます

【経営方針】

1. 利用者が働くことを通して人から感謝され、様々な経験ができる喜びを体感できる、実践的な就労機会の提供
2. 多機能型の強みを活かして利用者の能力や課題に応じたステップアップや再チャレンジができる場の提供
3. 利用者・職員ともに安心感が持てる職場環境の整備と人材育成
4. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 利用者が働くことを通して人から感謝され、様々な経験ができる喜びを体感できる実践的な就労機会の提供
 - (ア) 介護補助作業の範囲を広げ多くの利用者が実践的な仕事の経験ができる場を提供する。
 - (イ) 菓子販売では利用者がお客様や社会と接する機会を増やし、やりがいをさらに引き出すために企業やイベントの販売へ積極的かつ計画的に参加する。
 - (ウ) 施設内作業では仕事の成果を利用者にフィードバックし、日々の目標達成状況を共有することで利用者の就労意欲の向上を図り、施設外へ出る目標を意識した支援をおこなう。
 - (エ) 就労移行支援のグループワークの時間や頻度を増やし就労準備の支援を強化する。ソーシャルスキルズトレーニングや企業見学会を企画し、より利用者の就職への意欲向上に結び付く支援をおこなう。
2. 多機能型の強みを活かして利用者の能力や課題に応じたステップアップや再チャレンジができる場の提供
 - (ア) 菓子製造では作業工程を細分化し、利用者の能力や特性を活かし、部分的に作業ができる

利用者を増やすことで生産性の向上を図るとともに利用者の意欲を引き出す。

- (イ) 相談支援事業所ナルド、生活訓練ナルドと連携し、利用者のステップアップや再チャレンジの仕組みを共有し、利用者に目標設定ができる体制を作る。
- (ウ) 特別支援学校からの実習を計画的に受け入れ、卒業後の進路先として選択されるように生徒や保護者、学校との情報交換を定期的におこなう。
- (エ) 就労定着支援では、職場6ヶ月定着後のスムーズな支援介入をし、企業担当者との連絡を密にしながら継続が困難になってきた方へは再チャレンジの支援を早期におこなう。

3. 利用者・職員ともに安心感が持てる職場環境の整備と人材育成

- (ア) 利用者の障がい特性の理解を深めるための勉強会をおこなう。
 - (イ) ラダーと目標参画を連動させた人材育成を図る。
 - (ウ) 利用者への関わりを定期的に振り返るため、虐待防止セルフチェックを年2回実施する。
 - (エ) 職員が落ち着いて仕事ができるように業務のムリ・ムダを整理し、業務分担を明確にする。

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 高齢者デイサービス利用者の外出機会提供の場として喫茶を開放し、お菓子教室を開催する。

【数値目標】

	ナルド工房			
	就労移行	就労継続B型	就労継続A型	就労定着支援
利用者定員	10名	15名	10名	20名(利用者数)
利用者延べ人数	2,736名	4,230名	1,621名	13名(登録者)
一日平均利用者数	10.9名	16.9名	5.4名	-名
稼働率	109.4%	112.8%	53.9%	-%
稼働日数(延べ)	250日	250日	301日	-日
単価(一人一日当り)	11,988円	7,846円	8,061円	29,487円
サービス活動収益	37,857千円	38,633千円	25,370千円	4,453千円
職員数(常勤換算)	17.6名			

浜松学園

障害者支援施設静岡県立浜松学園

聖隷チャレンジ工房浜松学園

2019年度は指定管理初年度のため、50年以上続く長い歴史と重い伝統を不安や混乱なく継承し、安定した運営を行うことを第一義に据え、運営を行った。“暮らす”環境を整えるため居室のリフォームを行い、“働く”可能性の拡充のため、パソコンを活用したデータ管理業務・倉庫管理業務を導入した。また、「通所を開始してほしい」という中学校からのニーズに応え、2019年10月には『聖隷チャレンジ工房浜松学園』を開所した。さらなる利用者地域ニーズを反映できるよう、静岡県では「あり方検討会」を実施し、一定の方向性が示された。

2020年度は、多種多様なニーズの利用者の受け入れを予定している。支援ニーズに応じた体制作りを行うとともに、「あり方検討会」で示された方向性について県と協議しこれからの総合的な事業展開への礎を築く一年としたい。主として、多種多様なニーズに応じた体制作り、働きやすい職場環境づくりと安定した経営、地域ニーズの把握と新たな価値の創造の3つに重点を置き、地域から求められる信頼される施設運営を行いたいと考える。

【施設理念】

『働く』・『暮らす』 — その人らしい未来を描けるようともに歩む —

【経営方針】

1. 多種多様なニーズに応じた体制作り
2. 働きやすい職場環境づくりと安定した経営
3. 地域ニーズを把握し、新たな価値を創造する

【事業・運営計画】

1. 多種多様なニーズに応じた体制作り
 - (ア) 利用者の状態に応じた支援の提供
 - ①利用者の実態に合わせた選択制プログラム（就労準備コース・就労基礎コース）を導入する
 - ②生活スキルを身に付けるため、生活基礎訓練のプログラムを再構築する
 - ③利用者に応じた作業訓練が提供できるよう、作業種目の再構築・新規作業種目を導入する
 - ④生きていくうえで必要な力や知識を身に付けられるように、「学びの場」を提供する
 - (イ) 家族支援の充実を図る
 - ①利用者の成長と課題を共有し、自立に向け保護者と協働できるような体制を整える
 - ②週末帰省時等統一した関わりが持てるように、家庭に合わせた報告連絡相談を行う
 - (ウ) 目指す社会人像を利用者自身が明確にする
 - ①ヒヤリハットの仕組みや作業効率性等学べる環境を整えるため、模擬企業を創造する
 - ②働くうえで必要な社会生活能力や対人技能を身に付ける
 - ③利用者自身が強みと課題を理解できるよう、職員と振り返りや作業評価を行う

- ④職種の視野を広げ、利用者が“働きたい夢”を描けるよう体験活動を行う
- ⑤職員が社会人としてのモデルとなるよう基準を設け、利用者に態度で示す

(エ) 働き続ける支援体制作り

- ①就職者の状況把握を定期的に行い、課題を早期発見し対応する
- ②他機関と連携し、市外在住の利用者に対するアフターフォロー体制を整える

2. 働きやすい職場環境づくりと安定した経営

- (ア) 防災計画の見直し、利用者とともに防犯訓練を行う等安全な環境を強化する
- (イ) 各職員が専門性を発揮し、一つのチームとして運営できるよう職員発信の場を作る
- (ウ) マニュアルや業務分掌を理解し、業務の効率化・事故件数の減少につなげる
- (エ) 稼働率・次年度稼働を意識し、新規受け入れと安定利用につながる支援を行う
- (オ) 職員一人ひとりが主体的に行動できるよう、職場目標管理を徹底する

3. 地域ニーズを把握し、新たな価値を見出す

- (ア) 「あり方検討会」で示された方向性と今後の在り方について、静岡県と協議を重ねる
- (イ) 特別支援学校卒業後の進路に困難を抱える児童に関する受け入れプログラムを検討する
- (ウ) 施設見学や体験を通して、保護者・学校の声を吸い上げ、ニーズを県と共有する
- (エ) 聖隷チャレンジ工房浜松学園にて、就労継続支援B型開設について市と協議する

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 「自分にある力を地域に」利用者・職員ともにボランティア活動を行う
- (イ) 施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる
- (ウ) 防犯・防災について、浜松学園に求められることを県・浜松市と協議し体制を整える

【数値指標】

	施設入所支援 (指定管理)	就労移行 (指定管理)	就労定着支援 (指定管理)	就労移行 (自主事業)
利用者定員	60名	60名	20名	20名
利用者延べ人数	7,511名	7,310名	35名	2,632名
一日平均利用者数	22.4名	28.7名	一名	11.3名
稼働率	37.3%	47.8%	—%	56.5%
稼働日数(延べ)	336日	255日	一日	233日
単価(一人一日当り)	3,581円	5,743円	20,429円	9,695円
サービス活動収益	65,767千円	69,906千円	715千円	51,389千円
常勤換算職員数	10.8名	9.1名	0.1名	5.4名

軽費老人ホーム もくせいの里

もくせいの里では高齢化と重度化が進んでいる。自立の入居者は30%に減少し、70%が要支援か要介護の判定がでている。職員だけの支援では対応できないため外部サービスを利用しつつ、もくせいの里での生活を維持している。特に2019年度から聖隷厚生園信生に移転した事業団の在宅事業所との連携を強めていきたい。一方で、人生100年時代とも言われるなか、生涯現役を目指した“働き方”や“地域との繋がり”が求められている。もくせいの里においても可能な入居者には就労や地域貢献の情報を提供し、活動をサポートしていく。多様なニーズのあるもくせいの里の入居者一人一人に適した支援を行っていく。

【施設理念】

入居者の自由と尊厳ある生活を支援し、穏やかで明るい生活作りをめざす。

【経営方針】

1. 職員間、職場間、また法人内の他事業所との連携を強化し、入居者がもくせいの里で安心した生活が過ごせる支援を行う。
2. 入居者・利用者に満足して頂ける質の高い食事提供を行う。
3. 老朽化している施設の設備更新をはかり、安心して利用できる施設を目指す。
4. 入居者と職員が協力して、地域との連携強化に努め、地域貢献も積極的に行う。

【事業・運営計画】

1. 利用者に合わせたサービスの提供
 - (ア) 担当職員と入居者がコミュニケーションをとり、個別支援計画を充実させて、入居者の希望を少しでも取り入れられる支援を行う。
 - (イ) 介護度2までの利用者を受け入れられる体制づくりを進める。2020年度も引き続き訪問看護ステーション細江、聖隷ヘルパーセンター浜松北、聖隷ケアプランセンター細江などとの連携を強化して要支援・要介護の入居者が安心して生活できる体制を整える。
 - (ウ) 入居者が支援を受けるだけの存在ではなく、施設内や地域で貢献できるものがないか検討する。たとえば、2019年度に行った入居者が中心となり職員がフォローして、春にはバーベキュー、秋にはサンマの塩焼きを作ったが、入居者同士や職員が一体感と達成感が持てたので、2020年度も行いたい。
2. 安心と安全を重視したサービス
 - (ア) 防犯訓練として2020年度は夜間の宿直者1名体制の時にどう対応するのか訓練を行う。
 - (イ) 配食サービス利用者の安否確認時の情報を家族や、ケアマネジャーなどに確実に伝えていく。また、栄養課の人員が確保できれば、障害者への配食サービスの事業紹介を障害者相談支援事業所や行政の障害者担当部署に行う。
 - (ウ) 入居者と職員と一緒にノロウイルスやインフルエンザの予防講習を受講し、職員は発生

時の対応訓練を引き続き行う。

3. 職員の資質の向上

- (ア) 認知症の理解や知的障害や精神障害などの障害特性を理解する機会を増やして個別支援に活かしていく。
- (イ) 他の軽費老人ホームやケアハウスの見学や意見交換を行い視野を広げる。
- (ウ) 利用者の状態に合わせた食形態の食事を提供できるよう、職員の資質向上に努める。

4. 地域社会への貢献

- (ア) ひとり暮らし高齢者・重度身体障害者等配食サービスを継続して受託する。
- (イ) 例年同様、高台幼稚園の園児が夏祭りの盆踊りに招待したり、幼稚園の運動会に入居者を招待してもらったりと、定期的な交流を行うとともに、草むしりや清掃などもくせいの里として出来ることは何かを検討する。
- (ウ) もくせいの里の入居対象となる低所得の高齢者の情報を持っている各機関に定期的な施設紹介を行う。
- (エ) 湖東地区自治会 OB が主催し、地域の高齢者が集う公民館サロンデーの役員会に施設長が出席して企画・運営に協力する。地域との交流を目的に 2020 年度も引き続き入居者の参加を促す。

5. その他

- (ア) 建築確認等で修繕の必要性を指摘される個所も増えているので、早期に対応して少しでも長く建物設備を使用できるようにする。
- (イ) 2019 年度は老朽化した食堂の 4 人掛けのテーブルのリニューアルを行ったが、2020 年度も引き続き、床面・壁面・手洗い場増設・イスのリニューアルを行う。また食堂のレイアウトを見直して、入居者の個別性に配慮したレイアウトにしていく。

【数値指標】

	軽費老人ホーム	食事サービス	計
利用者定員	50 名	—	
利用者予算（延べ）	18,250 名	14,214 名	
利用者予算（日）	50 名	46 名	
稼働率（％）	100%	—	
稼働日数（延べ）	365 日	309 日	
単価（一人一日当り）	6,166 円	618 円	
サービス活動収益（千円）	112,542 千円	8,864 千円	121,406 千円
職員数	12.6 名	3.4 名	16.0 名

いなさ愛光園

特別養護老人ホームいなさ愛光園

いなさ愛光園デイサービスセンター(通常規模型・認知症対応型)

いなさ愛光園ヘルパーステーション(訪問介護/居宅介護)

ほのぼのケアガーデン(認知症対応型共同生活介護)

聖隷ケアプランセンターいなさ

いなさ愛光園在宅介護支援センター

ひとり暮らし高齢者等配食サービス

1997年4月に開設して24年目を迎える。施設所在地である旧引佐町は少子高齢化の進行が深刻である。高齢化率は35%を越え、総人口は減少し高齢者人口は増加している。高齢者世帯、ひとり暮らし世帯数も増加しており、地域力が低下している場面もある。中山間地域エリアでは、一定区間の定期路線バスが廃止されたことで、通院や買い物が困難となっている。地域包括支援センター細江等といなさ愛光園が連携を強化することで地域での役割を担っていきたい。また、住み慣れた地域で暮らし続けていくために、地域の高齢者の介護予防のためのサロン活動等の運営支援や家族介護者教室の企画運営をしていく。

今後も施設理念である「利用者の尊厳保持、一人ひとりの利用者・家族の思いに応えられるケアを実践する」を念頭に質の高いサービスを提供する。

【施設理念】

利用者の尊厳保持、一人ひとりの利用者・家族の思いに応えられるケアを実践する

【経営方針】

1. 充実した個別援助を提供するため、いなさ愛光園全体が濃密な連携を図る
2. 地域において信頼されるサービスを提供するため、職員資質の向上に努める

【年度事業目標・年度重点施策】

1. 利用者の尊厳を守り、生活の質の向上を目指した取り組みをする
 - (ア)利用者一人ひとりの身体状況等に合ったサービス提供をする
 - (イ)利用者、家族、地域の方への接遇とおもてなし力を向上する
 - (ウ)ADLの維持向上や季節に応じたレクリエーションの充実をする
 - (エ)利用者の身の回りや共有スペースの環境整備をする
2. 人材育成と働きやすい職場環境の整備をする
 - (ア)ラダーを有効的に利用し、新たな知識習得に努める
 - (イ)ICT活用による業務効率化と省力化を図る
 - (ウ)地域理解や他部署理解を推進するために交換研修をする
 - (エ)EPA介護者福祉士候補者の教育を多職種が連携して行う

3. 質の高いサービスを提供するように努める

- (ア)他職場と連携を図ることで、切れ目のないサービスを提供する
- (イ)認知症の方の心をつかむケア技法である「ユマニチュード」を取り入れたケアの実施する
- (ウ)衛生管理体制の向上を図る
- (エ)看取り体制の充実をする
- (オ)介護事故件数を前年比 10%減少する

4. 安定した施設運営をする

- (ア)各サービスの新たな利用者の発掘と利用の拡大を図る
- (イ)新たな加算取得を検討する
- (ウ)防災及び防犯管理体制の強化を図る
- (エ)新たな人材を確保する
- (オ)建物修繕、設備更新及び車両更新を計画的に実施する

5. 地域における公益的な取組み

- (ア)家族介護者教室の企画運営やサロン活動等を運営支援する
- (イ)避難訓練や祭典等の地域行事への参加をする
- (ウ)福祉避難所として必要時に開設定定できるよう準備する
- (エ)社会福祉法人利用者負担軽減事業の実施をする

【数値指標】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護・居宅介護支援・委託事業

	特養入所		短期入所	通常規模型通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	介護	予防
利用者定員	30名	40名	20名	35名	
利用者延べ人数	10,731名	14,372名	6,241名	7,750名	1,164名
一日平均利用者数	29.4名	39.4名	17.1名	25.0名	3.8名
稼働率	98.0%	98.4%	85.5%	82.1%	
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	310日	
単価(一人一日当り)	13,345円	14,745円	13,561円	9,143円	
サービス活動収益	143,426千円	211,957千円	84,633千円	81,499千円	
職員数(常勤換算)	47.1名		15.7名	14.2名	
	認知症対応型 共同生活介護	居宅介護支援		認知症対応型通所介護	
		介護	予防	介護	予防
利用者定員	9名	/	/	10名	
利用者延べ人数	3,240名	1,780名	530名	2,223名	40名
一日平均利用者数	8.9名	/	/	7.2名	0.1名
稼働率	98.6%	/	/	73.0%	
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	310日	
単価(一人一日当り)	14,024円	17,573円	3,732円	12,700円	
サービス活動収益	45,439千円	33,762千円		28,739千円	
職員数(常勤換算)	7.6名	4.5名		6.1名	
	訪問介護		居宅介護 (障害)	配食サービス	在宅介護支 援センター
	介護	予防			
利用者定員	/	/	/	/	/
利用者延べ人数	3,177名	1,010名	403名	1,992名	/
一日平均利用者数	8.8名	2.8名	1.1名	6.8名	/
稼働率	/	/	/	-	/
稼働日数(延べ)	361日	361日	361日	293日	365日
単価(一人一日当り)	4,643円		2,710円	623円	/
サービス活動収益	19,679千円		1,092千円	1,241千円	/
職員数(常勤換算)			5.1名	/	/
	合計				
利用者定員	/				
利用者延べ人数	/				
一日平均利用者数	/				
稼働率	/				
稼働日数(延べ)	/				
単価(一人一日当り)	/				
サービス活動収益	651,467千円				
職員数(常勤換算)	100.2名				

聖隷ケアセンターいなさ

聖隷リハビリプラザいなさ
聖隷ケアプランセンターいなさ南部
地域包括支援センター細江

2020年度北区旧引佐三町地域は高齢化の進行とともに、高齢者が住み慣れた地域で生活することがますます困難になることが予想される。社会資源が乏しい当該地域において本人の住み慣れた地域で本人が望む生活の継続実現の為、地域のニーズに合致した事業をケアセンター内の事業所が連携・協働し展開していく

【拠点理念】

隣人愛の精神のもと、地域とつながり、共に生きる

【経営方針】

旧引佐三町において、住民が住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現をめざし地域で支援を必要とする要援護者及びその家族等の人権、自立心、価値観等を尊重し柔軟で包括的な支援を実施する

【事業・運営計画】

1. 旧引佐三町へのサービス提供体制強化

(ア) 各事業所の三ヶ日地区への支援

① 聖隷リハビリプラザいなさ

リハビリ専門職が行う機能訓練特化型の通所介護が無く、これまで送迎距離と定員の関係で利用希望に対応できなかった三ヶ日地域への支援を目的とした通所介護のサテライトデイを検討する。

② 聖隷ケアプランセンターいなさ南部

訪問看護ステーション細江三ヶ日サテライト機能を活用した三ヶ日地域でのマネジメント体制の充実を図る。又、訪問看護ステーション細江三ヶ日サテライトとの連携による健康管理、在宅療養体制の強化をする

③ 地域包括支援センター細江

アウトリーチの強化による早期発見機能の充実を図る

(イ) いなさ愛光園、ホームヘルプステーション浜松北、訪問看護ステーション細江、聖隷三方原病院との連携による地域への支援を実施する

(ウ) 在宅生活延伸のための支援

認知機能低下の早期発見と早期対応に向けた取り組みを「地域への周知」「プログラムの提供」として行う。

2. 運営の安定化の推進

- (ア) 各事業所での新規利用者の積極的な受け入れと適正な加算の算定を行う
- (イ) サテライトデイによる定員増と収益の向上を図る

3. 拠点機能の強化

- (ア) 高齢者分野以外の要援護者、世帯への支援

① 聖隷ケアプランセンターいなさ南部

障がい支援や権利擁護事業などの制度の活用による支援を行う

② 地域包括支援センター細江

障がい委託相談支援北センター、生活自立相談支援センターつながり、行政との連携による支援困難世帯、虐待高リスク世帯への対応を強化する

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 介護者教室受講者による自主運営のノルディックウォーク愛好会の継続的な活動の支援を行う
- (イ) 地域の小学校、中学校、高等学校、大学を中心に認知症サポーター養成講座を開催。地域で安心して認知症の方やその家族の方が生活できることを目指す
- (ウ) 医療・保健事業と連携した住民対象の健康づくり講座等の企画、開催、地域のサロン運営の支援を行う

【数値指標】

通所介護事業（聖隷リハビリプラザいなさ）

介護給付			予防給付		単価(円)		総収入 (千円)	職員数 (常勤 換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
25.0名	645名	7,740名	98名	1,178名	6,550円	26,928円	82,432千円	18.8名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンターいなさ南部）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	総収入(千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
1,860件	216件	15,500円	4,200円	48件	4,400	31,301千円	5.2名

地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

市受託収入	予防支援等	内再委託件数	予防マネジメント単価	総収入	職員数(常勤換算)
47,753 (千円)	予防支援 3,827件	2,815件	4,400円	81,348 (千円)	10.2人
	マネA 2,719件	1,800件	4,400円		
	マネB 1,500件	一件	3,195円		

聖隷ケアセンター三方原

訪問看護ステーション三方原
聖隷ケアプランセンター三方原
聖隷デイサービスセンター三方原

2020年度は医療と介護の役割分担が求められ、入所施設増加に伴い、重度の利用者は早期に入所していく傾向が続いており、在宅生活者の軽度化が進んでいる。最期まで住み慣れた自宅で過ごすための支援は何か、聖隷ケアセンター三方原の3事業所が協働し、より質の高いケアを提供するために、情報を共有しながら、地域の課題を探る事業を展開していく。

【拠点理念】

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【事業・運営計画】

1. 浜松市北部エリアにおいて「地域を支える」ケアセンターになる
 - (ア) 支援エリアを見直しながら継続的に新規利用者を受け入れる。
 - (イ) ケアセンター内での事業所間の交換研修を実施し、効率的なサービス導入が行えるよう理解を深める。
 - (ウ) 各事業の事例報告会を開催し、各事業の効果・役割を各職員が理解する。
2. 利用者ひとりひとりの思いに沿ったケアを提供するための質の向上を目指す
 - (ア) 利用者の思いを形にするためのケアの質の向上を図る。
 - ① デイサービスセンター三方原
脳卒中や肩マヒの40歳代・50歳代の利用者が働くことができるよう体力強化プログラムを実施する。
「食を楽しむ」をテーマにした自費外出活動、役割・生きがい活動としての調理活動を行う。
 - ② ケアプランター三方原
「聴く力」「伝える力」をつける傾聴技術向上のトレーニングを行う。
利用者・家族の思いをきちんと理解し、必要なサービスを提案する。
 - ③ 訪問看護ステーション三方原
「気づき」を高められる効果的なカンファレンス・事例検討会を継続する。
精神疾患に焦点をあて他事業所への見学・勉強会を通じて疾患の理解を深める。
 - (イ) 日々の実践や成果をまとめ、聖隷福祉事業団内外の学会で発表する。
3. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 地域包括支援センターとの共同企画会議など地域の方が参加できる話し合いを開催し、地域での新たな事業展開を探る。

- (イ) 三方原公民館でのロコモーショントレーニングサロン活動の回数を増やし内容を見直す。
- (ウ) 地域活動（清掃活動・防災訓練等）へ積極的に参加する。
- (エ) ボランティアを積極的に受け入れ、外出活動・ロコモーショントレーニングなどへの活動の場を提供する。

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動 収益	職員数(常勤換算)
159.8人	855件	10,260件	9,138円	95,054千円	14.6名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
2,317件	393件	15,580円	3,960円	24件	4,400円	38,732千円	7.2名

通所介護事業（聖隷デイサービスセンター三方原）

介護給付			予防給付		単価		サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
36人	930人	11,167人	62人	738人	6,245円	32,551円	96,283千円	22.0名

通所介護事業／共生型サービス（自立訓練・機能訓練）

平均利用者数	月利用者数	年利用者数	単価	サービス活動 収益	職員数(常勤換算)
0.7人	18件	216件	8,800円	1,903千円	22.0名

浜北愛光園

特別養護老人ホーム浜北愛光園	浜北愛光園デイサービスセンター
障害者相談支援事業所浜松東	訪問看護ステーション貴布祢
聖隷ケアプランセンター浜北	地域包括支援センター北浜
聖隷チャレンジ工房浜北	生活介護事業所きらめき

2019年度、事業運営では、地域ニーズの高まりを踏まえ、就労継続支援B型、生活介護それぞれの定員を増加。「聖隷厚生園きらめき工房」を、「聖隷チャレンジ工房浜北」と「生活介護事業所きらめき」の2事業所とし、より専門性の高いサービス提供に努めた。また、2020年4月に磐田市に開設される幼保連携型認定こども園、児童発達支援事業、訪問看護ステーションの複合施設「聖隷こども園こうのとり富丘」への基盤作りとして、訪問看護ステーション貴布祢が磐田市内サテライト事務所を起点に利用者確保や関連機関とのネットワーク構築等に努めた。組織開発では、「①専門業務を仕分ける⇒②周辺業務を集約する⇒③高齢者や障害者をケアサポーターとして雇用し、周辺業務を任せる」という流れを確立することで、業務の省力化・効率化が図れ、人員不足による弊害を少なからず抑制できた。また、その他、外部委託業者と契約していた施設内業務を切り出し、就労支援メニューに転換することで、新たなプログラムや働き先の創造にも繋がった。

2020年度は、これらを継承しながらも、AIやICT、ロボット等の具体的な活用を図ることで、介護・福祉職現場のイノベーションを進めていきたい。また、その過程で生まれる新たな時間や価値観等を、介護・福祉職としての「やりたかったこと」、「やってみたいこと」等に着実に還元することで、介護・福祉職としてのプライドの醸成や職業の質の向上に繋げていきたい。その上で、浜北愛光園は、一事業所・一施設に留まらず、地域という視点で、職員個々が感度と精度を高め、地域ニーズの多様な変化を適切に予測し、それに合致した質の高いサービスを創造、提供していくことで、地域のセーフティネットを守護するという静岡第3エリアの基幹施設としての役割を果たしていきたい。

【施設理念】

わたしたちは利用者と職員の「その人らしい自立（自律）」を大切にした施設づくりを追求します

【経営方針】

1. 地域共生の視点の下、複合施設としての利点を活かし、制度の枠を超えたワンストップ支援体制の構築、促進を目指す
2. 利用者、家族、地域に安全と安心を与え続けられるようサービスの質の向上に努める
3. 専門職のキャリアアップを促進しながら、AI、ICT ロボット等の機器やシステムの具体的な活用を図ることで、専門職としてのやりがいを創造する
4. 安定した運営が継続できるよう、適切な職員配置、コスト管理、設備改修等に努める
5. 防災・福祉拠点としての役割を果たし、地域貢献に取り組む

【年度事業目標・年度事業計画】

1. 制度の枠を超えた支援体制の構築

- (ア) 地域ニーズに合致したサービスを計画的に創造、拡充していく
(訪問看護の磐田市展開、チャレンジ工房の新メニュー開発、相談支援事業所の再編等)
- (イ) 高齢者福祉事業と障害者福祉事業、施設サービスと在宅サービスという制度の枠を超えたワンストップ支援体制を構築、促進するとともに、地域への周知に努める
- (ウ) 【地域課題解決会議】にて、事業所種別を超えたカンファレンス等を重ね、地域課題を見通す能力（＝マーケティング力）を醸成する

2. 「安心して暮らし続けられる」取り組みの創出と定着

- (ア) 利用者や家族、地域の方々が求めていることと提供サービスとの差異を適時評価し、選択され続けるサービスに向けて修正を重ねることで、サービスの質の強化に努める
- (イ) リスクマネジメントを徹底し、介護者が原因となる事故の防止を図るとともに、利用者の状態変化に早期に気づき、対応することで状態悪化を抑制していく
- (ウ) 支援困難な方や医療ニーズの高い方、障害者等の受け入れを積極的に検討、実践していく。あわせて、利用率を意識した受け入れの徹底、サービス対象エリアの拡大を図る
- (エ) 個別性にクローズアップしたケアに努め、利用者の生きがいややりがいを創造する
- (オ) 利用者の生活を衣食住の根底から見つめなおし、より適切な認知症ケア、看取りケア等の提供に努める

3. 新たな働き方の創造

- (ア) 資格取得や関連研修等の受講を促進し、専門性の向上を図る
- (イ) 根拠を持ったケアが実践できるように、プリセプター制度等の OJT 体制を再構築する
(介護職向けの e-ラーニングを試用することで、新人教育システムを刷新する等)
- (ウ) 業務仕分けを進め、高齢者・障害者・子育て世代等のケアサポーターの雇用を促進する
- (エ) 記録システムや福祉機器等の活用を図り、業務の効率化並びに業務負担軽減を目指す
(ナースコールと連動した見守り支援システム、情報共有システム等の選定・導入等)
- (オ) 【みらい開発会議】にて、介護・福祉職の「やりたかった」、「やりたい」を具現化する

4. 運営安定化の推進

- (ア) 施設の継続性を意識し、新たな価値を生み出す計画的な購入、改修を図る
- (イ) 適切な加算算定、及び効率的な職員配置が行えるように業務改善を図る
- (ウ) 水光熱費、消耗備品の購入、及び外部委託業者の契約状況等を評価し、適正化を図る

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 静岡 DCAT メンバーを中心に地域の拠点施設として、町内会・自治会の防災訓練に参加し、地域の要支援者の避難訓練を実施する
- (イ) 介護未経験者や近隣企業等を対象に、情報発信、介護相談、研修会開催等を通し、介護に対する理解促進、介護離職防止等に貢献する

【数値指標】

■高齢者入所・短期入所・通所・相談支援関係事業

	浜北愛光園				デイサービス		障害者 相談支援 浜松東
	特養入所		短期入所		通所介護		
	従来型	ユニット型	従来型	ユニット型	一般型	予防	
利用者定員	50名	100名	20名	20名	40名		
利用延数	18,577名	36,352名	5,551名	4,952名	8,866名	233名	
一日平均利用者数	50.9名	99.6名	15.2名	13.6名	28.7名	0.8名	
稼働率(%)	101.8%	99.6%	76.0%	75.4%	71.7%		
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	309日		
平均介護度	4.3	3.8	3.0	2.7	2.0		
単価(一人一日)	12,163円	14,197円	11,221円	15,215円	10,135円		
サービス活動収益 (千円)	225,954 千円	516,091 千円	62,287 千円	75,343 千円	92,227 千円		9,382 千円
職員数(常勤換算)	37.2	68.4	10.1	10.4	17.3		2.2

■訪問看護事業(訪問看護ステーション貴布祢)

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
175名	833件	9,996件	9,481円	94,775千円	14.9名

■居宅介護支援事業(聖隷ケアプランセンター浜北)

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
23.9件	354件	15,817円	3,951円	24件	4,400円	40,342千円	6.4名

■地域包括支援事業(地域包括支援センター北浜)

浜松市受託収入 (千円)	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価(円)	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
38,200千円	1,476件	780件	4,390円	52,075千円	7.4名

■聖隷チャレンジ工房浜北/生活介護事業所きらめき

	定員	利用 延べ人数	稼働率	稼働日数	単価	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
就労移行	15名	3,898名	83.5%	311日	10,283円	47,440千円	12.9名
就労継続	25名	7,348名	94.5%	311日	7,060円	62,918千円	
就労定着		92名		246日	30,662円	2,812千円	
生活介護	20名	3,714名	75.5%	246日	7,927円	29,558千円	5.1名

森町愛光園

特別養護老人ホーム森町愛光園
森町愛光園天宮サテライト
森町愛光園デイサービスセンター
森町愛光園ホームヘルパーステーション
聖隷ケアプランセンター森町
聖隷放課後クラブはなえみ森町
聖隷相談支援事業所森町

2020年度森町愛光園は、「森町地域福祉（活動）計画」及び「第1期障がい児福祉計画」に即した運営を行う。具体的には、聖隷放課後クラブはなえみ森町の定員増を図り、児童やその保護者のニーズに応じていく。この取り組みは、地域共生社会に向けて、従来の森町愛光園内でのサービス提供とする。更に、森町病院や森町地域包括支援センター等と連携し、高齢者・障がい児者の在宅相談機能を強化し、個人や世帯単位で複合的な支援を必要とするケースに対応していく。

次に、2021年介護報酬改定に備え、事業運営や体制整備を行う1年とする。主には現行加算への増減、減免条件変更への利用者負担への影響等について準備を進めていく。

開設27年が経過し、施設内の様々な場所での老朽化が進んでいる。2019年度に引き続き、施設内各所の改修を行い、利用者の生活環境や職員の働く環境を整え、利用者の満足度向上、職員の働く意欲や活力の向上に繋げたい。改修に加え、IoT活用についても検討を行い、リスク回避や職員の新たな働き方について検討を開始する。

最後に、自然災害が多発する現代において、森町愛光園においても防災・減災機能の強化を進め、地域と連携し、期待される役割を果たせるよう整備を推進する。

【施設理念】

わたしたちは、ご利用者・地域・職員の「幸せ」のために最善を尽くします

【経営方針】

1. わたしたちは、利用者の尊厳を守ることを第一とし、一人ひとりのQOLの向上をめざし、誠実かつ献身的に仕えます
2. わたしたちは、福祉・介護サービスを通して、地域の人々が安心して住み続けられる社会づくりに貢献します
3. わたしたちは、質の高いサービス提供に必要な人材の確保と育成に努め、「安心と効率の追求」と「働きやすくやりがいのある職場環境」の両立を実現します
4. わたしたちは、これらのことに継続的に取り組み、創造性・持続性・実現可能性を高めてゆくことができる組織づくりを目指します

【事業・運営計画】

1. 利用者の尊厳を守り、利用者主体の支援の実践
 - (ア) 利用者一人ひとりの生活ペースを大切に、ニーズに沿った個別ケアを実践する。
 - (イ) 老朽化した施設内を改修し、明るく楽しく生活・利用できる環境を整える。
 - (ウ) 全職員が福祉サービス職として、利用者・ご家族にとって、安心して心地よいサービスを提供するため、接遇の向上に努める。
 - (エ) 給食委託業者との協働のもと、利用者個々へ配慮された、安全で楽しみのある食事の提供を目指す。
2. 地域共生社会の実現に向けた活動
 - (ア) 聖隷放課後クラブはなえみ森町の定員を10名から20名に増やす。増員した10名については、森町愛光園内においてサービスを提供し、天宮サテライト同様、森町愛光園内においても共生社会実現に向けて取り組みを開始する。
 - (イ) 隣接する一宮幼稚園との交流事業を推進する。
 - (ウ) 地域の社会資源と連携の上、高齢者・障がい児者への相談機能を強化し、個人や世帯単位で複数分野の課題を抱え、複合的な支援を必要とするケースに対応していく。
3. 人材育成と働きがいのある職場環境の整備
 - (ア) 各専門職ラダーを活用し、目標参画システムと連動させ人材育成を図る。
 - (イ) 介護支援システム等を活用し、業務の効率化に努め働きやすい職場環境を構築する。
 - (ウ) シニア世代が実力を発揮できる役割や業務・働き方を検討する。
 - (エ) パート職員に対して、事業団統一の教育資料を活用した育成システムを開発する。
 - (オ) IOTの活用について検討を開始する。
4. 健全経営の推進と衛生管理・防災管理体制の向上
 - (ア) 待機者確保のため、積極的に情報収集・関係作りを行う。また、入院リスク軽減のため、健康・栄養管理を徹底する。
 - (イ) 2019年度に引き続き、修繕・設備更新を計画的に行い、環境整備の改善・推進を図る。
 - (ウ) 2021年介護報酬改定に向けての準備と対策の検討を行う。
 - (エ) 新規利用者確保のため、サービス提供実施地域の拡大を行う。
 - (オ) 集団感染を防ぐとともに、感染症蔓延防止の研修会・勉強会を開催する。
 - (カ) 災害発生時に備え、地域との連携強化、日常生活に支障が出た場合の対応方法の可視化を図る。
5. 地域における公益的な取組
 - (ア) 森町役場、森町社会福祉協議会等と連携し、計画2年目となる「森町地域福祉計画・地域福祉活動計画」の推進に寄与する。
 - (イ) 地域包括ケアシステム構築に向けたネットワーク作りのため、「森町在宅医療・介護連携推進事業」へ参画する。
 - (ウ) 地元小学校・中学校からの福祉体験、職業体験の受入れや、特別支援学校からの実習受入れ、高校や福祉系学校の介護実習、ボランティア体験の場として施設機能を提供する。
 - (エ) 町内会で行われる地域防災訓練に専門職を積極的に派遣する。

【数値指標】

	特養		天宮サテライト	短期入所	通所介護		
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防	
利用者定員	60名	20名	29名	12名	42名		
利用者延べ数	21,870名	7,147名	10,479名	3,220名	7,183名	1,359名	
1日平均利用者数	59.9名	19.6名	28.4名	8.8名	23.3名	4.4名	
稼働率	99.9%	97.9%	99.0%	73.5%	66.0%		
稼働日数(延べ)	365日		365日	365日	308日		
単価(一人一日当り)	12,840円		13,587円	10,701円	9,996円		
サービス活動収益 (千円)	372,578千円		142,384千円	34,458千円	85,387千円		
職員数(常勤換算)	40.2名	14.9名	20.7名	6.7名	14.4名		
	在宅介護 支援センター	居宅介護支援		訪問介護			介護 合計
		介護	予防	介護	予防	障害	
利用者定員							
利用者延べ数		1,884名	258名	3,960名	960名	438名	
1日平均利用者数				11.0名	2.7名	1.2名	
稼働日数(延べ)					359日		
単価(一人一日当り)		16,140円		3,887円	3,703円		
サービス活動収益 (千円)		34,572千円		19,122千円	1,622千円		690,123 千円
職員数(常勤換算)	0.1名	5.4名		5.8名			108.2名
	放課後等 デイサービス	相談支援事業		障害 合計			
		特定相談	障害児				
利用者定員	20名						
利用者延べ数	4,456名	73人	65人				
1日平均利用者数	18.2名						
稼働率	90.9%						
稼働日数(延べ)	245日						
単価(一人一日当り)	8,465円						
サービス活動収益 (千円)	37,721千円	1,966千円		39,687千円			
職員数(常勤換算)	7.5名	0.6名		8.1名			

聖隷びゅあセンター磐田

聖隷こども発達支援センターかるみあ

聖隷放課後クラブはなえみ磐田

相談支援事業所磐田みなみ

聖隷チャレンジ工房磐田

磐田市発達支援センターはあと

磐田市子育て支援総合センターのびのび

磐田市南部地域包括支援センター

磐田市南部障害者相談支援センター

2019年度は、高齢者地域包括支援センター・障害者相談支援センターの受託開始、子育て支援総合センターのびのびの編入と新たな事業体を迎えた。事業体の増加とともに、連携先が増え地域に出向くことが増えた年であった。また、2020年聖隷こうのとり富丘開設に伴う聖隷こども発達支援事業所かるみあ豊田移転準備を進め、児童発達支援の在り方について再編成を行った。

2020年度は、今までと同様「発達支援（利用者支援）」「家族支援（企業支援）」「地域支援」を柱とし、ライフステージに応じた継続的かつ一貫した支援を提供できるように各事業間の連携に重点を置き、取り組む年とする。また、積極的に地域とかかわり地域を知ること、そのなかで、どのようなことが求められているか再考し、地域に貢献できる施設運営につなげていきたい。

【施設理念】

ご利用者が“その人・その家族らしく”「生きる力」を培い、地域の一員となるために、わたしたちはこどもから大人まで途切れの無い一貫した支援を提供します

【経営方針】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する
2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化
3. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する

(ア) 聖隷こども発達支援センターかるみあ・聖隷放課後クラブはなえみ磐田

- ① 客観的な指標を理解し、領域を意識した療育プログラム・目標を作成する。
- ② 人への信頼感と自己肯定感を育み、主体性や選択力を養い長所を育む療育を行う。
- ③ 子どもの能力・言動を引き出せるよう、職員が子どもの反応、行動を見る力を培う。
- ④ 季節や年齢に応じた行事、地域との関わりを大切にしたいイベントを企画する。
- ⑤ ライフステージを繋ぐ支援を提供できるよう、各事業所間での連携を強化する。
- ⑥ 関係機関と連携し、子供の全体像やニーズを的確に把握する。
- ⑦ 保護者が子どもとの関係において「安心感・信頼感」が築けるような関わりを行う。

- ⑧ 先輩ママの体験講話や見学等を通して、各家庭に応じた就園・就学支援を実施する。
- ⑨ 保護者同士がつながりを感じることができる行事、楽しめる行事を企画する。
- ⑩ 子どもの強み・成長・課題について保護者と関係機関が分かち合えるよう支援する。

(イ) 聖隷チャレンジ工房磐田

- ①ご利用者の“可能性”を引き出す個別支援と集団支援の実施。
- ②“やりがい”となる安定した作業収益と“働く”姿を具現化し就職者を輩出する。
- ③仕事を続けることができる力を培う。
- ④特別支援学校の個別の教育支援計画を引き継ぎ、継続した支援を目指す。

(ウ) 磐田市発達支援センターはあと

- ①登校渋りや学習の困難さに対する見立てを強化し、関係機関が実行可能な助言を行う。
- ②保護者の“子育て”力を底上げできるよう、関係機関と体制を整える。
- ③磐田市関係各課と協力し、機関支援を強化する。

(エ) 磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障がい者相談支援センター・聖隷相談支援事業所磐田みなみ

- ①積極的に地域と関わり、聖隷びゅあセンター磐田の情報発信し地域ニーズを把握する。
- ②地域包括ケアシステムにおける医療と福祉の連携のため、顔の見える関係を築く。
- ③発掘された地域課題に対して、関係機関と連携して取り組む。

(オ) 磐田市子育て支援総合センターのびのび

- ①多世代交流コミュニティ広場にて、地域との繋がりを促進し子育ての孤立感を防ぐ。
- ②複雑化するファミリーサポートのニーズに対する対応を磐田市と協議する。
- ③他機関と連携し、多様な課題を抱える家族の子育て相談をきめ細やかに行う。

2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化

- (ア) 防災計画の見直し、利用者とともに防犯訓練を行う等安全な環境を強化する。
- (イ) 各職員が専門性を発揮し、一つのチームとして運営できるよう職員発信の場を作る。
- (ウ) 各職員がマニュアルや業務分掌を理解し、業務の効率化・事故件数の減少につなげる。
- (エ) 稼働率・次年度稼働を意識し、新規受け入れの検討と安定利用につながる支援を行う。
- (オ) 職員一人ひとりが主体的に行動できるよう、職場目標管理を徹底する。

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 研修講師・施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる。
- (イ) イベントへの参加を通して、情報を発信する。
- (ウ) 磐田市と協議し、私立幼保に対するコンサルテーション・地域の事業所を対象としたペアレントプログラム養成研修を実施する。
- (エ) 福祉なんでも相談窓口として、磐田市や他法人と連携体制を整える。
- (オ) 福祉避難所としてどのような役割を期待されているのか、磐田市と協議し体制を整える。
- (カ) のびのび休館日を活用し、発達が気になる親子の療育と集いの場を設ける。

【数値指標】

	かるみあ 児童発達	かるみあ 保育所等	磐田みなみ (特定)	磐田みなみ (障害児)	チャレンジ 就労移行	チャレンジ 就労継続	チャレンジ 生活訓練
利用者定員	30名	—	—	—	14名	10名	6名
利用者延べ人数	7,575名	840名	—	—	4,195名	2,991名	970名
一日平均 利用者数	30.8名	—	—	—	14.2名	10.1名	3.8名
稼働率	102.6%	—	—	—	101.2%	101.0%	64.1%
稼働日数(延べ)	246日	246日	—	—	296日	296日	252日
単 価 (一人一日当り)	15,736円	11,200円	—	—	10,444円	8,581円	8,071円
サ ー ビ ス 活 動 収 益	119,198 千円	9,408 千円	2,049 千円	5,969 千円	43,811 千円	25,666 千円	7,829 千円
常勤換算職員数	21.4名	2.3名	2.0名		6.4名	4.8名	1.4名

	チャレンジ 定着支援	はなえみ 放課後デイ	はあと	のびのび	南部包括	南部相談
利用者定員		20名	—	—	—	—
利用者延べ人数		4,860名	—	—	—	—
一日平均 利用者数		20.7名	—	—	—	—
稼働率		103.3%	—	—	—	—
稼働日数(延べ)		243日	—	—	—	—
単 価 (一人一日当り)		11,432円	—	—	—	—
サ ー ビ ス 活 動 収 益	3,343 千円	55,560 千円	32,461 千円	20,964 千円	22,548 千円	10,446 千円
常勤換算職員数	0.2名	10.2名	7.8名	6.1名	3.0名	2.0名

浅田在宅地区複合事業

訪問看護ステーション浅田
 聖隷ケアプランセンター浅田

【事業・運営計画】

1. 仕事もプライベートも、いきいきと、働き続けられる職場になる
 - (ア) 過度の緊張が続かない宅直シフト、連続休暇がとれる勤務シフトをつくる。
 - (イ) 個々の生活ニーズに合わせた働き方を表明し、互いに尊重し助け合う。
 - (ウ) 職員各自が週2日は「ノー残業デイ」を実行する。
2. 多機関・多職種連携チームの一員としての役割を果たす
 - (ア) 訪問時に確認した利用者の意思を、多職種連携チームと共有し、支援につなげる。
 - (イ) 地域住民のニーズを捉え、専門職の立場から地域包括支援センターへの意見提案を行う。
 - (ウ) 地域における公益的な取り組み
 - ①独居あるいは老々家庭の認知症や精神・知的障害の利用者に対し、24時間対応契約の有無にかかわらず状況に合わせ安否確認の電話を入れ、急変や事故を早期に察知する。
3. ケアマネジメントと訪問看護サービスの質を保証する
 - (ア) 異変や問題を察知する感度を高め、早い対応につなげる。
 - (イ) 実践能力を高められるような事例検討会を開催する。
 - (ウ) 仕事をする上で大事にしていることを明らかにし、磨きをかける。
4. 業務の効率化を図る
 - (ア) タブレット端末の活用を効果的に行う。
 - (イ) 5S活動を行い、無理無駄ムラを排除する
5. 防災への取り組みを形にする
 - (ア) 発災時に困らない対応方法を利用者・家族と共有し、利用者の防災意識を高める。
 - (イ) 利用者別 防災リストを作成する。
6. 磐田市南部において聖隷の訪問看護ステーションが身近な存在になる

【数値目標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション浅田）

平均利用者	月平均 訪問件数	年間 訪問件数	単価（円）	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
161名	870件	10,444件	医療 11,971 介護 8,916	103,642千円	16.0名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浅田）

年間請求件数		平均単価（円）		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防				
360件	396件	15,000円	3,951円	0	0	21,189千円	3.5名

浦安市高洲高齢者福祉施設及び 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

浦安市ケアハウス

浦安市高洲高齢者デイサービスセンター

浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市高洲地域包括支援センター

2019年度に浦安市から「浦安市介護サービス事業経営戦略」が策定され、今後の浦安市高洲高齢者福祉施設の進むべき方向性が可視化された。2020年度は、本経営戦略に基づき浦安市各担当課と協議を重ねながら具体的な取組みを検討する年度としたい。また、介護保険サービス以外でも、「うらやす健康・元気コンソーシアム」や「浦安市新町圏域地域支え合い会議」に参画して、地域共生社会への一助として社会福祉法人の役割を果たしていきたい。

人材の確保が年々厳しさを増す現状を受けて、無資格・未経験者をより積極的に介護業界へ受け入れる育成システムや未経験者でも働きやすい環境づくりを地区全体で取り組んでいく。また、職員の身体的・精神的負担軽減が図られるよう、ロボット・センサー・ICT等の検討も進めたい。

【施設理念】

“私たちは、地域（市民）とともに高齢者福祉に貢献する”

【運営方針】

1. 私たちは、一人ひとりを知りその人らしい生活が続けられるよう支援します
2. 私たちは、ご利用者・ご家族（関わりのある方々）の思いを理解し、実現に向けて共に支援します
3. 私たちは、その人らしい最期の時をご家族（関わりのある方々）と共に支援します
4. 私たちは、職員一人ひとりが専門性を高め、人として成長するために常に研鑽します
5. 私たちは、一人ひとりが地域の社会資源として自覚し役割を果たします

【事業・運営計画】

1. 入居者・利用者が安心安全に生活できるよう、個々のニーズに合ったサービスを提供する
(ア) 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護
 - ① 国際生活機能分類の視点を活かし、その人らしい個別サービス計画書を作成、実施、評価する
 - ② 状態変化（嚥下の低下、ターミナル期等）に応じ、随時個別計画書の見直し評価を行う
 - ③ 状態変化時は、家族に判りやすい情報提供をした上で、家族を交えた多職種で人生の最終段階における医療とケアを行うことで、その人らしい最期が選択できるようにする
 - ④ 入居者家族の意見を尊重しながら安らかな最期を迎えられるよう、個々の事例を振り返り人生の最終段階における医療とケアについての理解を深める勉強会を開催する

- ⑤ 事故の傾向を分析し、業務改善等を行い事故予防に取り組む
- (イ) ケアハウス
 - ① 入居申込・退去要件に応じたパスの実施と検証を行う
 - ② 入居者の状態に応じた機能維持を図るとともに、生活の不便さを低減する
 - ③ リスクマネジメントに関する入居者への啓蒙・啓発と予防を強化する
- (ウ) 通所介護
 - ① 利用者個々の目的に沿った機能訓練を実施し、日常生活機能の向上を図る
 - ② 多職種と連携し利用者の健康管理と送迎時の安全に心がけ、安心・安全なサービスを提供する
- (エ) 地域包括支援センター
 - ① 新町の特性をいかしたサロン活動を地域関係者と協働開催し、この場を有効活用して、地域の情報収集や情報発信する
 - ② 地域課題発見のための地域ケア会議を積極的に開催し、得られた課題について協議体へつないでいく

2. 職員が専門職としてやりがいを持って仕事に取り組むことができる

- (ア) 各専門職のラダーを適正に運用することで、個々の実践能力を客観的に評価し、やりがいに繋げる
- (イ) 介護支援専門員の必要人数を確保するため、資格取得に向けた支援を行う
- (ウ) ラダーや目標参画と連動しながら、外部研修参加を計画的に考え、施設内にフィードバックする
- (エ) 各職種が効率的に働ける環境を整備するため、介護周辺業務の受入れを継続する
- (オ) EPA 候補生、無資格・未経験者を継続的に受け入れ、育成システムと働きやすい環境を浦安地区で整備する

3. 経営の安定化を図る

- (ア) 特別養護老人ホーム
 - ① 入院の評価を行い、入院期間の短縮を目指した病院との連携を図る
 - ② 退居から新規入所までの空床期間を短縮する
- (イ) 短期入所
 - ① 新規利用者の定着化と緊急・措置利用受入れの際の迅速な調整、支援を行う
- (ウ) ケアハウス
 - ① 入居者の社会性維持・閉じこもり予防のために、地域交流を強化する
 - ② 空床期間の短縮に向け待機者への関わり方を変更・強化する
- (エ) 通所介護
 - ① 地域のニーズに基づき、より個別性のある生活支援サービスの提供と個別機能訓練の充実を図る
 - ② 体調管理の強化と登録者・実利用者数を増加させ、利用率の上昇と安定を図る
 - ③ 基準緩和型デイサービス等地域のニーズを捉え、新たな利用者の獲得、継続を維持する

- (オ) 介護支援システムの活用、介護周辺業務を整理して長時間労働の是正を図る
- (カ) ICT介護ロボットの導入を検討し業務効率と生産性の向上を図る

4. 防災体制の確立

- (ア) 福祉避難所としての受入体制を整え、浦安市との連携を図る
- (イ) 防犯・風水害マニュアルを確立する

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 各専門職の実習・職場体験、ボランティアの積極的な受入れを行う
- (イ) 障がい者雇用を継続して法定雇用率を達成する
- (ウ) 地域住民とともに浦安の特性を活かしたサロン活動を実施し、地域福祉推進に貢献する
- (エ) うらやす健康・元気コンソーシアムに参加し、地域のニーズへの取組みを検討する
- (オ) 浦安市内の元気高齢者等に介護分野への参画のきっかけとなるセミナーを開催する

【数値指標】

	特養	短期	ケア ハウス	高洲 デイ	猫実 デイ	地域包括	地域包括 (予防)	総合計
利用者定員	100名	50名	50名	25名	25名	—	—	250名
利用者延数	34,560 名	15,688 名	17,568 名	6,273名	6,197名	—	—	
一日平均利用者数	95名	43名	48名	21名	20名	—	—	
稼働率(%)	95%	86%	96%	82%	81%	—	—	
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	306日	306日	—	—	
単価(一人一日当り)	—	—	—	—	—	—	—	
サービス活動収益 (千円)	567,252 千円	245,163 千円	103,497 千円	49,294 千円	59,963 千円	28,848 千円	5,136 千円	1,059,153 千円
職員数(常勤換算)	65.6名	30.4名	9.6名	9.5名	10.8名	3.9名	0.6名	130.4名

介護老人福祉施設 浦安愛光園

2020年度は開設15年目を迎える。経営面は開設以来非常に厳しい状況が続いたが、2017年度から収益が安定した。2018年度からは相談支援事業所はぐくみ浦安の開設と空床を利用した障がいショートステイを開始した。

地域共生社会の実現のため高齢者・障がい者への総合的なサービスを地域で提供していく中で、障がい福祉サービスから介護保険サービスへの移行がスムーズに行えるよう法人内の高齢者事業と連携を図り環境を整えていく。

サービスの質の維持・向上を図りつつ、働き手が不足していく社会問題に対応していくために、安心・安全を大前提に人材育成やリスク管理体制の見直し、多様な人材とICTの活用で業務改善を行ってきた。今後は切り分けした業務を更に分析し、シニア世代やICT・ロボットの最も効果的な活用方法を模索していく。そして、その方向性は単なる効率化やチャレンジではなく、業務省力化や生産性の向上が伴わなければならない。入浴については、より安全性を高めていくために、長年変わることのなかった業務の仕組みから変えていくことに挑戦する。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. 最高かつ安全・安心なサービスを提供する
 - (ア) 日常生活に趣味や嗜好を取り入れ、入居者の生き甲斐を大切にする
 - (イ) ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の考え方を共有し特養でのあり方を考える
 - (ウ) 事故・感染・災害に対する予防・対応策を職員一人ひとりが主体的に実践する
 - (エ) 介護技術マニュアルの周知と見直しを徹底する
 - (オ) 第三者評価を受審し、サービスの質の向上に繋げる
2. 多様な人材の確保・育成・定着に向けた取組みの強化と働きやすい職場づくり
 - (ア) 経営方針を浸透させ、行動できる職員を育成する
 - (イ) シニア世代や障がい者、EPA候補生を積極的に採用する
 - (ウ) 無資格・未経験者を積極的に採用し、育成システムと環境を構築する
 - (エ) 役職者研修やユニットリーダー会議を通じて次の管理者・役職者を育成する
 - (オ) ワークライフバランスを意識し、長時間労働の是正と有給休暇取得を促進する
 - (カ) 2～3年目の職員を中心に、働き甲斐と魅力のある職場作りを実現する

3. 地域共生社会の実現

- (ア) 障がい福祉サービスから介護保険サービスへの移行が円滑に進むよう、高州地区の法人内事業所間でサポートできる環境を整える
- (イ) 将来地域に必要な障がい福祉サービスを中長期戦略として検討する
- (ウ) 共生型サービスの利用希望者に対しては、空床時にショートステイを検討する

4. 経営の安定と提供するサービスの見直し

- (ア) 入居ならびに空床ショートステイの稼働率 97.5%以上を維持する
- (イ) 入浴業務について人・物・仕組みの見直しを行い、安全性の向上と業務省力化・生産性の向上を図る
- (ウ) ICT を活用した介護支援システムの使用率の向上とペーパーレス化を進める

5. 地域における公益的な取組みと地域貢献

- (ア) 生活困窮者・生活保護受給者職場体験実習受け入れを継続する
- (イ) 高洲中学校特別支援学級との交流を継続する
- (ウ) 大規模災害に備え、福祉避難所としての役割と機能強化を図る

【数値指標】

	特養（ユニット型）	はぐくみ浦安	総計
利用者定員	74 名	-	-
利用者延べ人数	26,335 名	289 名	-
一日平均利用者数	72.2 名	-	-
稼働率	97.5%	-	-
稼働日数（延べ）	365 日	242 日	-
単価（一人一日当たり）	14,912 円	14,662 円	-
サービス活動収益（千円）	393,730 千円	5,237 千円	398,986 千円
職員数（常勤換算）	49.8 名	1.0 名	50.8 名

介護老人保健施設 浦安ベテルホーム

2019年度は、市内初のリハビリテーション病院が開設され、地域における利用者の流れが大きく変化したが、当施設は、地域のニーズに応えることで入所及び通所リハビリテーション共に稼動を維持できた。また、多様なニーズを抱える利用者一人ひとりに寄り添い、利用者の望む在宅復帰、在宅生活又は施設での生活を実現できるよう多職種で連携、支援することで、地域において必要とされる老健施設の役割を担うことができた。

2020年度は、今まで以上に、地域に出向いていくことによって、広く開かれた先進的な施設づくりを推進する。利用者本位のケアを更に追及していく中で、職員個々が専門職としての成長を感じながら仕事ができるよう、多様な価値観を尊重する風土づくり、やりがい創出のための人づくりに積極的に関与・投資する。また現場にとって真に必要なインフラ（ロボット・AI等）を整備していくための検証にも着手する。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. エビデンスに基づいた利用者本位のケアを追及する
 - (ア) 利用者のできることやしたいことの実現や、根拠に基づいたリスクマネジメントを実践するために、職員のアセスメント能力とホスピタリティの向上を図る
 - (イ) 利用者個々に向き合ったケアを実践するために、認知症ケア能力の向上を図る
 - (ウ) 利用者個々のニーズに沿った新たなアクティビティ（クラブ活動等）を創設する
 - (エ) 障がい者・児のケア、ニーズについて理解・経験を深め、ケア能力を高める
 - (オ) 利用者本位のケアを行うために、適切な福祉用具（車椅子・ベッド等）を整備する
2. 職員が専門性と自己実現を追及しながらも、多様な価値観を尊重し合える職場風土の醸成
 - (ア) 多職種によるプロジェクトチームを作り、利用者のしたいこと、職員のやりたいことを支援する
 - (イ) 職員が、心身ともに健康で楽しんで働くことができるよう、新たな勤務体制の導入や、健康への意識づくりを行う健康経営を実践する
 - (ウ) 希望する全職員が4日以上連続休暇（年1回以上）を取得できるよう、職場間、職種間を越えて応援し合う体制をつくる
 - (エ) お互いの良いところ見つけ伝え合う「ハピネスボックス」運動を継続、発展させる
 - (オ) 外部研修や自発的な勉強会を年間通じて行い、職員一人ひとりの学びたいことを仕事に活かす体制を構築する

3. 地域での役割を担うための戦略的経営 ～分かりやすいベテルの実現～

- (ア) 地域への更なる浸透を図り、入所、短期入所の稼働率年間 88%以上を達成する
 - ①在宅強化型（ユニット型）の維持と、在宅強化型（従来型）への移行
 - ②障がい者ショートステイ受入れ拡大（8 件/月）と医療型取得への体制づくり
 - ③入所件数の安定確保（15 件/月）、ミドルステイ（入所と在宅サービスの交互利用）の新規利用者を 10 名/年確保する
- (イ) 通所リハビリテーションにおいて、短時間型サービスの利用者を増やす（契約数 35 名）
- (ウ) 職員のアセスメント能力を高めることにより、感染症や転倒による入院、レベル 3 以上の事故を 2019 年度比 30%削減する
- (エ) サービスの質向上を目的とした、現場にとって必要なインフラ整備の検証を行う
- (オ) 地域ニーズを把握し、新規事業や保険適用外サービス実施の可能性を探っていく
- (カ) ホームページやパンフレット他の媒体を工夫、活用してベテルの役割や実践内容の PR を地域のケアマネジャー、医療機関等に行う

4. 防災・防犯体制の強化

- (ア) 災害発生時に、各職員が適切で実践的な行動ができるよう施設実態に合った訓練を行う
- (イ) 防犯・風水害マニュアルを確立する

5. 地域における公益的な取組と開かれた施設づくりの推進

- (ア) 生活保護受給者の受入れ、無料又は低額老人保健施設事業の基準（10%）を満たした運営を行う
- (イ) 地域福祉に資する出前講座等を年 3 回実施する
- (ウ) 利用者と地域社会とのつながりを発展するために、ボランティア受入れを拡大する（年間 100 名）

【数値指標】

	ベテルホーム入所	ベテルホーム短期	通所リハビリ	総計	
利 用 定 員	100 名			45 名	145 名
利 用 者 延 べ 数	30,663 名	1,461 名	11,896 名	44,020 名	
一 日 平 均 利 用 者 数	84.0 名	4.0 名	38.5 名	126.5 名	
稼 働 率	88.0%			85.6%	—
稼 働 日 数 (延 べ)	365 日			309 日	—
単 価 (1 人 1 日 当 り)	15,294 円	18,112 円	11,499 円	—	
サ ー ビ ス 活 動 収 益 (千 円)	493,254 千円			136,790 千円	630,044 千円
職 員 数 (常 勤 換 算)	62.2 名			18.8 名	81.0 名

浦安せいれいクリニック

【事業・運営計画】

1. 地域における医療資源として、診療体制を継続する
2. 利用者、入居者、地域住民への初期診療の役割を担う
3. 健康診断（定期健康診断、雇入れ時健康診断等）や予防接種の実施
4. 浦安高洲地区における感染症蔓延予防、拡大防止に貢献する

【数値指標】

一日平均 利用者数	年間 利用者数	稼働日数	単価（1人 1日当り）	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
7.0名	1,372名	196日	3,300円	7,941千円	2.3名

聖隷ケアプランセンター浦安

【事業・運営計画】

1. 地域包括ケアシステムの遂行

- (ア) 老人保健施設と併設している強みを活かし、在宅復帰ケースを充実させる
- (イ) 病院や訪問看護と連携を図り、医療依存度の高い方を支援できる環境を整え積極的な受け入れを行う

2. ご利用者が安心して相談等を行える質の高いサービスの提供

- (ア) 市内でネットワークを活用し、事例検討会を主催して知識・技術の向上を図る
- (イ) 相談支援スキルラダーを活用して相談援助技術の向上を図る

3. 安定した経営と働きやすい職場づくり

- (ア) 事業団内の浦安地区の各施設、各事業所との連携を図ることや、市内の地域包括支援センター等に空き状況を伝え安定した受け入れを確保する
- (イ) ケアマネジャーの利用者宅への訪問を効率的に行い超勤の削減と有給休暇を意図的に取得する

4. 地域貢献

- (ア) 浦安高洲地区の地域貢献イベントに参加をして次世代を担う人たちに介護の仕事を知ってもらおうように働きかける

【数値指標】

一日平均利用者数	年間利用者数	稼働日数	単価（1人1日当り）	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
—	1,821名	242日	16,781円	31,307千円	4.4名

聖隷訪問看護ステーション浦安

【事業・運営計画】

1. 聖隷訪問看護ステーション浦安の特徴を生かし、地域が必要としているニーズに柔軟に対応できる訪問看護ステーションになる
 - (ア) ターミナルケア・精神障がい・認知症・アロマケアの訪問看護ケアを充実させる
 - (イ) 東京海上日動ベターライフサービス株式会社との更なる協働をし、法人の枠を越えて地域を支援する体制を構築する
 - (ウ) 他法人での研修会や連携会議に参加し浦安地区全体の地域ケアシステムの向上を図る

2. 聖隷訪問看護ステーション浦安サテライト稲毛海岸の経営を安定させ、開設から3年で独立運営できる基盤づくりをしていく
 - (ア) 東京海上日動ベターライフサービス株式会社と協働し地域の情報分析をしながら、病院や居宅介護事業所への営業活動を行う
 - (イ) 聖隷訪問看護ステーション浦安の稼働バランスを取りながら、一体的な運営を行っていく
 - (ウ) 新たな職員を採用し、採用教育プログラムに沿ってOJTを行い、訪問看護の質を確保する

3. 職員がやりがいを持つことができ、働きやすい職場を作る
 - (ア) 目的と使命を職員全員で共有し、目標参画システム・職種別ラダーを活用して、個々の役割を実践する
 - (イ) 各々の職員の得意分野を生かし、内部・外部研修などを通して学び、職場全体の知識・技術が向上する教育体制を進める
 - (ウ) 介護支援システムの活用やスケジュール、記録などの省力化を図り、効率の良い業務内容を行い、良いワークライフバランスにつなげる

4. 地域における公益的取組
 - (ア) 地域住民が健康や介護へ関心が持て、住みやすい街になるよう、地域主催のイベントに健康相談を行うために参加する

【数値指標】

	平均利用者数	訪問件数 (月間)	訪問件数 (年間)	単価	サービス活動収益	職員数 (換算)
全体	107名	650件	7,794件	9,747円	75,971千円	9.5人
浦安	90名	550件	6,600件	9,749円	64,349千円	8.0人
サテライト	17名	97件	1,194件	9,734円	11,622千円	1.5人

介護老人福祉施設 松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園
松戸愛光園ショートステイ
松戸愛光園デイサービス
松戸愛光園ケアプランセンター
障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸

地域共生社会の実現に向けて、松戸愛光園は今まで地域のニーズを受入れ事業を進めてきた。2020年度も高齢者、障がい者に対して、シームレスな支援を提供できることを目指していく。

2019年度は、増加する地域の高齢者ニーズに対応すべく特別養護老人ホームと短期入所生活介護の増床、通所介護事業の定員増加を行った。また、障害事業においては共生型生活介護事業を通して地域の特別支援学校との連携も始まり、地域の期待を感じることができている。

これからも引き続き高齢者、障がい者の垣根を超えた事業展開を進め、地域共生社会の実現に向けて職員一丸で取り組んでいく。

【施設理念】

『一人ひとりの生命と尊厳を守り、利用者主体の自立生活支援を追求する。』

【経営方針】

1. あなたらしい生活の継続
2. あなたと共に歩んできた方々と一緒に
3. あなたを思いやる気持ちを忘れない
4. あなたらしい最期の支援
5. 地域の皆さんと共に

【事業・運営計画】

1. 地域共生社会実現に向けた高齢者・障がい者サービスの提供
 - (ア) 障がい者生活介護サービスを新たに開設し、地域の障がい者に対して専門的な支援の充実を図る
 - (イ) 利用者ニーズに合わせた個別ケアの充実を図りながら、看取り、認知症ケアなど専門的なケアの充実を進めていく
 - (ウ) 通所介護事業では、認知症予防、機能訓練など多様なニーズに対応したサービス提供の充実を図る
 - (エ) 居宅介護支援事業では、地域の医療機関などとの連携を図りながら医療依存度の高い利用者への支援を積極的に進める
 - (オ) 居宅介護支援事業・相談支援事業では、法人内での連携を深めながら総合的な支援を提供できるようにする

2. 多様な人材が集まる魅力ある職場づくりと人材育成

- (ア) 業務の標準化を進めることで、多様な人材が働きやすい職場づくりを行う
- (イ) 職員の各専門職ラダーをすすめて、各職員の目標に合わせた人材育成を行う
- (ウ) 仕事のやりがいを実感することで、職員満足度を高めながら離職防止に繋げる
- (エ) 各学校等からの実習引き受けを継続し、より充実した実習受け入れ機関を目指していくことで職員採用に繋げる

3. 安全性や効率化を意識した設備更新

- (ア) ICTを活用することで、記録のペーパーレス化をすすめ記録時間の短縮を図る
- (イ) 空調設備・送迎車両など、計画的に更新を行う
- (ウ) 老朽化した入浴機器については、安全性と省力化の図れる機器へ更新する

4. 地域との繋がりを意識した社会貢献活動の実施

- (ア) 松戸ニッセイエデンの園と共に、チャリティバザー開催や祭りの相互協力、地域清掃活動などを通して、松戸地区で聖隷福祉事業団としての地域貢献活動を継続していく
- (イ) 地域の福祉避難所としての役割を意識し、防災活動などを通じた地域との繋がりを進めていく

【数値指標】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業

	特養入居	短期入所		通所介護			生活介護 (10月より)
		介護保険	障害	介護	総合	障害	障害
利用者定員	103名	21名		34名			9名
利用者延べ数	36,537名	6,636名	71名	6,104名	2,049名	432名	612名
一日平均 利用者数	100.1名	18.2名	0.2名	19.8名	6.7名	1.4名	4.9名
稼働率(%)	97.2%	87.5%		82.0%			54.0%
稼働日数(延べ)	365日	365日		308日			128日
単価 (一人一日当り)	14,888円	15,128円	10,877円	9,689円	4,015円	8,103円	14,971円
サービス 活動収益	545,224 千円	101,587 千円		89,277 千円			10,233 千円
職員数 (常勤換算)	71.7名	13.5名		13.1名			5.3名

居宅介護支援事業

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
1,466件	570件	17,069円	4,611円	60件	4,000円	27,831千円	4.2人

障がい者(児)相談支援事業

年間サービス 利用数	年間継続サービス 利用数	サービス 活動収益(千円)	職員数 (常勤換算)
14件	312件	4,598千円	1.4人

横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園
横須賀愛光園 デイサービスセンター
西第二地域包括支援センター
聖隷訪問看護ステーション横須賀
聖隷ヘルパーステーション横須賀
聖隷ケアプランセンター横須賀

2019年度は、訪問看護の集約をする一方で障がい者の空床型短期入所、共生型の生活介護の開始など各事業を結集して、地域における新たなニーズに対する方向性を見出すことができた。

しかし、開設から27年が経過した設備の老朽化による諸問題、慢性的な職員の確保困難状況、伝達機能や事務機能の限界など様々な課題を抱えている現状がある。2020年度は、それら課題を改善しつつ中長期的な事業展開と運営が可能となるために、障がい者日中活動系サービスの開設を含めた大規模な施設改修と設備投資を行い、高齢者、障がい者に対する各事業の専門性と連動性を深めて、これまで以上にシームレスなサービス提供ができる組織作りを目指す。また、この改修とIOT機器も含めた設備投資により働く職員にとっても魅力ややりがい創造でき、人材の育成や確保にもつながるよう進めていく。

【施設理念】 『安心して、明るく楽しく生きる』

【経営方針】

1. 地域ニーズに合わせて連携し、切れ目のない障がい者も含めた地域福祉を展開する
2. 互いに補い合って、安全でやりがいのある職場風土の醸成
3. 職員一人一人の資質向上と多様な人材が活躍できる体制の整備
4. 決められた時間で良質なサービス提供

【事業・運営計画】

1. 地域ニーズに合わせた共生型サービスの展開
 - (ア) 1階部分の改修を行い、既存の通所介護と共生型サービスの展開に加えて、障がい者日中活動系サービス（生活介護）の2021年4月開設を目指す
 - (イ) 空床型短期入所の利用推進のために、高齢者支援、障がい者支援についての理解を深めるとともに、空床利用指定ベッド数の増加を図る
 - (ウ) 通所介護、共生型生活介護において、重度者支援から機能訓練ニーズと幅広く対応ができる仕組みと環境設定（機能訓練、静養、入浴、生産活動）を行う
 - (エ) 訪問看護、訪問介護において武山養護学校、岩戸養護学校との関わりやニーズを模索する
2. 働き方の改革と多様な人材の確保、育成
 - (ア) 事務所の移動、運営管理課の再編を行い、在宅事業も含めた一体運営ができる環境設定や事務業務の分担化に取り組む
 - (イ) 厨房の改修と移動を行い、衛生上の問題や適温提供の課題を解決するとともに、配膳下膳

や洗浄に関する業務の切り分けについて検討を進める

(ウ) 働き方改革や魅力の配信についてプロジェクト化し、利用者だけでなく働く職員にとって施設のアピールポイントを創造する

①特別養護老人ホームにて見守りセンサー、インカムなどの IOT 機器の導入を行い、働き方の転換を図る

②各業務の見直しと間接業務の整理、システム等機器活用を推進し、標準化による決められた時間内での実践と高齢者や障がい者が活躍できる職場づくりを行う

(エ) 各ラダー、目標参画の確実な実施と教育支援体制の評価と検証を行い、標準的な手順に則って指導できるリーダーを育成する

(オ) 36 協定の遵守、労働災害発生 0 件、全職員が有給休暇取得率 30%以上を達成する

3. 各事業が利用者一人一人に合わせて質の高いサービス提供を行い、経営の安定化を図る

(ア) 特別養護老人ホーム

①認知症への対応、障がいの理解等学習と評価を行い、ケアスキル向上を図る

②感染症予防などの取り組みを行い、効果や振り返りを可視化する

③ケアプランや情報共有のシステム化を進め、タイムリーな情報を基にケアの継続を行う

④空床の短期入所活用を促進し、入所ベッド稼働率 98%を達成する

(イ) 短期入所

①個別計画の運用の見直しを行い、利用者の満足度の向上を図る

②在宅事業との情報伝達やケアの継続について可視化する

③空床利用の案内とタイムリーな調整を実施して、稼働率の向上を図る

(ウ) デイサービスセンター

①入浴設備の改修、機能訓練機器や環境の整備を行い、幅広いニーズへの対応体制を整える

②多様なニーズに対応ができる人材の育成とサービス内容の転換を行う

③介護支援システムの活用と、送迎、準備片付け業務の整理を行い効率化を図る

④共生型生活介護ニーズへの柔軟な対応を行い、提供プログラムを試行する

(エ) 西第二地域包括支援センター

①介護予防、権利擁護啓発活動の更なる推進と支え合い活動の充実に向けた取り組みの継続

②地域の相談や状況に柔軟に対応できるよう計画的な研修による人材育成を行う

③生活支援コーディネーターの配置など市施策の動向に合わせた事業運営を検討する

(オ) 聖隷訪問看護ステーション横須賀

①近隣の特別支援学校との連携や自立支援など新たなニーズの発掘を行う

②通所介護や生活介護、短期入所との看護、機能訓練の連動体制を構築する

②ワークライフバランスを意識した働きやすい職場づくりと人材育成を行う

④継続した採用活動と新卒者受け入れの体制を整備する

(カ) 聖隷ヘルパーステーション横須賀

①介護ラダーの活用や外部研修、資質向上のための学習を計画的に実施する

②連絡方法、記録事務処理方法の整理、転換を図り超過勤務削減をすすめる

③障がい者へのサービス提供を継続し、地区ニーズの分析とケアの継続について検討する

(キ) 聖隷ケアプランセンター横須賀

- ①相談ラダーの活用と計画的な研修の実施や参加を行い、地域の総合的な相談がワンストップで対応できる人材を育成する
- ②地区内連携によるケアの継続体制へ参画し、紹介率向上につなげる
- ③特定事業所加算Ⅱの取得を継続する

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 在宅事業との連携強化とともに、地域に対し適切かつ有益な情報発信を行う
- (イ) 地域行事への継続参加と地域へ向けた行事や福祉講座を開催する
- (ウ) 地域ボランティアセンター運営への参加や特別支援学校生徒の受入れを継続する

【数値指標】

	横須賀愛光園		短期入所	デイサービス	地域包括支援センター
	従来型	ユニット型			
利用者定員	64名	40名	16名	30名	—
利用延数	22,849名	14,271名	5,000名	6,825名	—
一日平均利用者数	62.6名	39.1名	13.7名	22.1名	—
稼働率(%)	97.8%	97.8%	85.6%	73.8%	—
稼働延日数	365日	365日	365日	308日	—
平均介護度	3.95	3.95	2.95	1.82	—
単価(1人1日)	11,950円	14,800円	11,900円	8,998円	—
サービス活動収益	274,962千円	211,270千円	59,397千円	61,413千円	34,409千円
職員数(正・エA)	27.4名	20.0名	7.1名	4.2名	4.0名
職員数(パ・ア)	8.9名	8.7名	1.8名	5.8名	1.2名

	聖隷訪問看護ステーション横須賀		聖隷ヘルパーステーション横須賀			
	介護給付	医療給付	介護給付	総合事業	自立支援	有償等
月平均利用者数	136.1名	55.7名	81.0名	9.0名	25.0名	—
月平均訪問件数	650.8件	336.3件	986.7件	32件	268.3件	—
利用延時間数	—	—	10,680時間	360時間	3,720時間	355時間
稼働延日数	241日		255日			
単価	11,000円/件	11,800円/件	4,800円/時間	12,500円/月	4,450円/時間	—
サービス活動収益	135,890千円		71,887千円			
職員数(正・エA)	9.5名		6.0名			
職員数(パ・ア)	6.0名		2.9名			

聖隷ケアプランセンター横須賀								
年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価(円)	サービス活動収益	職員数	
介護	予防	介護	予防				正・エA	パ・ア
1,680件	72件	16,800円	4,560円	60件	4,500円	28,656千円	3.0名	2.0名

宝塚せいのりの里

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園、短期入所生活介護
宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター、聖隷ケアプランセンターすみれ
宝塚すみれ栄光園園内保育所

法人の基本理念である「隣人愛」と共に、宝塚せいのりの里は施設理念として「一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ」を掲げている。その人らしい生活を実現させるには、選択できる機会が重要であり、利用者が自分の意思を表現し、我が家のように安心して生活できる施設として、取り組んで行く。そのために職員は、福祉に携わる者として成長し、法人理念・施設理念に基づいたケアを実践しなければならない。高齢者介護、保育を取り巻く環境が大きく変化する中、利用者、家族、地域住民から、信頼される施設となるよう質の向上に努め、地域福祉の推進に取り組んで行く。

利用者を支える職員体制は厳しい状況が続くと考えられる。有資格職が質の高い専門性を発揮するためにも、2019年度に宝塚市と協働で実施した「生きがい就労」により採用した介護補助者の活躍を図り、記録システムや新たな機器を活用する事で業務内容を変えていかなければならない。職員研修においては、専門研修だけでなく、採用年度・勤務年数・役割に応じた段階別で実施し、職員間の繋がりを良くし、働きやすい職場環境の整備に努め、離職防止に取り組む。

地域コミュニティ会議や防災訓練への参加、車椅子体験教室や環境活動等の地域活動は、お互いに顔の見える関係となり、地域の困り事の相談をいただけるまでになっている。2020年度は地域自治会と災害時防災協定の締結に向けて進めており、地域の安心拠点として積極的に活動していく。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします
2. “馴染みの関係”の中で、一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します

【事業・運営計画】

1. 入居者・利用者一人ひとりに安心と穏やかな暮らしを提供する。
(ア) 生活の場としての日常生活を大切にする。入居者・利用者の能力を活かし、フロア・ユニット毎の特色を設えとして施し、家庭的な雰囲気の中、役割のある生活を営んでいただく。
(イ) 一人ひとりの暮らしの変化の把握、体調変化の早期発見に努め、安定した生活を提供する。
(ウ) 趣味嗜好や生き甲斐といった個別の楽しみを計画的に実施し、祭事や季節感を大切にする。

(エ) アセスメント能力を高め、ケアマネジメントの質を向上し、入居者・利用者の心身の状況に応じた適切な介護を提供する。

(オ) 園内保育所は地域枠の受け入れを増やし、キリスト教保育の実践を進めて行く。

2. 職員がいきいきと働ける職場環境、職員教育の推進

(ア) 聖隷・施設理念に基づくケアの浸透。

(イ) 職員間の関係性の質を高めチーム力の向上を図るために、採用年度、勤務年数、役割に応じた段階別での研修を実施。

(ウ) 記録システムのルール明確化、見守りセンサー、福祉用具の導入を進め、従来の手順に捉われずに、業務の改善、効率化を図ると共に、専門職による質の高いサービスを提供する。

(エ) 高齢者や障害者等の多様な人材を職場のニーズに合わせて活用する。

3. 宝塚せいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化と、シームレスなサービス提供

(ア) 介護システムを活用し、聖隷在宅施設との情報連携により待機者登録へ繋げ、稼働率維持を図る。また、市内リハビリ病院との連携により、通所介護の稼働率維持を図る。

(イ) 災害時に利用者を守り、災害後も事業を継続できる体制の構築。

(ウ) 事業所内の保育所・小学生自習室等、働きやすい環境を市内聖隷施設で共有する。

4. 地域に信頼される施設運営と公益的取組

(ア) 地域サポート型施設の役割として、地域コミュニティ会議や地域サロンへの積極的参加を行い、地域高齢者が安心して生活を継続できるように支援する。

(イ) 研修室を地域住民や地域ネットワークの会議・研修に開放し、訪れやすい施設運営を行う。

(ウ) 入居者が地域の一員としてあるためにも、催事の相互交流やボランティアの積極導入に力を入れる。

(エ) 地域住民・団体と防災や防犯などのリスク管理について情報交換・協働を図る。

(オ) 介護職・看護職等の専門職による地域住民向けの介護講座・介護相談の開催、中学生トリアル研修・大学生ボランティア・実習受け入れを通して福祉教育にも注力する。

5. 環境活動への取り組み

(ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める。

(イ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む。

【数値指標】

	特養入所 (ユニット)	短期 入所	通所介護 (一般)	居宅介護支援		合計
				介護	予防	
利用者定員	100名	20名	30名			
利用者・請求延べ数	35,040名	7,081名	6,911名	2,178件	240件	
一日平均利用者数	96名	19.3名	22.2名			
稼働率	96.0%	97.0%	74%			
稼働日数(延べ)	365日	365日	312日			
単価(一人一日・件当り)	15,363円	15,048円	11,500円	17,600円	4,200円	
サービス活動収益(千円)	564,772千円	107,406千円	79,479千円	39,341千円		790,998千円
職員数(常勤換算)	73.7名	14.6名	17.3名	6.3名		111.9名

宝塚せいのりの里

介護付きケアハウス ケアハウス宝塚

法人の基本理念である「隣人愛」と共に、宝塚せいのりの里は施設理念として「一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ」を掲げている。特養に比べ自立度の高いケアハウス宝塚では、入居者の個々の希望、ニーズを受け止め、その人らしい生活が営むことができる施設づくりに取り組んでいる。その人らしい生活を実現するためには、「一人ひとりの想い」を実現させる機会、選択できる機会が重要である。満足いただけるサービスのためにも、職員は福祉に携わる者として成長し、法人理念・施設理念に基づいたケアを実践しなければならない。

結いホーム宝塚からの住み替え、宝塚すみれ栄光園への住み替えも多く、宝塚せいのりの里での中間施設としての役割を果たしている。また、終の棲家として、施設で看取りを迎えられる方も増えている。職員には、軽度者から、認知症・重介護者までの幅広い知識、対応力が求められる施設として、介護員・看護師・相談員が連携し、身体介護から余暇活動に至るまで、入居者の様々なニーズに沿った個別支援を行っていく。

利用者を支える職員体制は厳しい状況が続くと考えられる。建物構成上、ユニット型ではあるが、介護補助者、記録システムや新たな機器の活用を図り、ユニット形態に拘らずに柔軟な勤務体制を構築しなければならない。職員研修においては、採用年度・勤務年数・役割に応じた段階別で実施、職員間の繋がりを良くし、働きやすい職場環境の整備に努め、離職防止に取り組む。

地域コミュニティ会議や防災訓練への参加、車椅子体験教室や環境活動への地域活動を通し、お互いに顔の見える関係となり、地域の困り事の相談をいただけるまでになっている。2020年度は、サロン支援や福祉教育を推し進め、地域に開かれた施設として活動していく。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします
2. “馴染みの関係”の中で、一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します

【事業・運営計画】

1. 入居者の状態・多様なニーズに応じたケアサービスを提供できる体制
 - (ア) 入居者の状態変化に早期に気づき、施設での生活を継続できるよう支援する。
 - (イ) 入院回復後の受入れについて、入居者・家族の想いを結び、早期退院に繋げる。
 - (ウ) 入居者の状態に応じ、ユニット間、フロア間の住み替えを行う。
 - (エ) 入居者の意欲が高まる、個々のニーズに対応した、余暇活動や外出企画を計画・実施する。

2. 職員がいきいきと働ける職場環境、職員教育の推進

- (ア) 聖隷・施設理念に基づくケアの浸透。多職種合同のカンファレンスを定期開催し、介護観の共有、アセスメント力の向上を行う。
- (イ) ユニット形態に拘らずに柔軟な勤務体制構築による業務改善、効率化を図ると共に、記録システムのルールの明確化、見守りセンサー、福祉用具の導入を勧め、専門職による質の高いサービスを提供する。
- (ウ) 職員間の関係性の質を高めチーム力の向上を図るために、採用年度、勤務年数、役割に応じた段階別での研修を実施。
- (エ) 高齢者や障害者等の多様な人材を職場のニーズに合わせて活用する。

3. 宝塚せいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化と、シームレスなサービス提供

- (ア) 介護システムを活用し、聖隷在宅施設との情報連携により待機者登録へ繋げ、稼働率維持を図る。
- (イ) 災害時に利用者を守り、災害後も事業を継続できる体制の構築。
- (ウ) 事業所内の保育所・小学生自習室等、働きやすい環境を市内聖隷施設で共有する。

4. 地域に信頼される施設運営と公益的取組

- (ア) 地域包括ケアに対する施設の役割として、地域コミュニティ会議や地域サロンへの積極的参加を行い、地域高齢者が安心して生活を継続できるように支援する。
- (イ) 研修室を地域住民や地域ネットワークの会議・研修に開放し、訪れやすい施設運営を行う。
- (ウ) 入居者が地域の一員としてあるためにも、催事の相互交流やボランティアの積極導入に力を入れる。
- (エ) 地域住民・団体と防災や防犯などのリスク管理について情報交換・協働を図る。
- (オ) 介護職・看護職等の専門職による地域住民向けの介護講座・介護相談の開催、中学生トリアル研修・大学生ボランティア・実習受入れを通して福祉教育にも注力する。

5. 環境活動への取り組み

- (ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める。
- (イ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む。

【数値指標】

	介護付きケアハウス
利用者定員	70名
利用者延べ数	24,461名
一日平均利用者数	67.2名
稼働率	96.0%
稼働日数（延べ）	365日
単価（一人一日当り）	14,184円
サービス活動収益（千円）	350,439千円
職員数（常勤換算）	45.2名

宝塚せいのりの里

介護付き有料老人ホーム 結いホーム宝塚

高齢化の進展と労働力人口の減少により、事業を取り巻く環境は年々厳しさを増している。一方、利用者・家族のニーズは年々多様化しており、その人らしい生活を過ごしていただけるよう、寄せられた期待に応えていかなければならない。結いホームには要支援から要介護5までの入居者が居住しており、個々の特性に応じたサービスを提供する他、体調変化の早期発見に努め、安定した生活を提供していく。

そのために高い専門性を持った介護サービスの提供が必要であるが、従前からの厳しい職員採用状況は続くと見込まれる。その対応として、2019年度から宝塚市が進める「高齢者生きがい就労」に参画し、採用したサポーター（介護補助者）の活用をより推進すること、記録システムを習熟し、介護ロボットを活用することで生産性の向上と業務の効率化と省力化を図っていく。職員教育・研修においては、専門研修だけでなく、採用年度・勤務年数・役割に応じた段階別で実施し、職員間の繋がりを良くし、働きやすい職場環境の整備に努め、離職防止に取り組む。

また、入居者が参加する防災・防犯訓練を充実し、安心・安全な生活の提供と、地域住民・自治会と情報交換を行い、協力体制を構築していく。さらに地域の関わりとしては、日頃から地域住民・学生ボランティアや実習生を受け入れること、専門性を生かした学習会や研修会を開催すること等を通して、宝塚せいのりの里がこの地域に求められる場になるよう協力し合っていく。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもってお一人おひとりと“心でつながる関係”を大切にします
2. “馴染みの関係”の中で、一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します

【事業・運営計画】

1. 入居者・家族の期待に応えるサービスの提供
 - (ア) 施設理念、経営方針、行動指針に基づいた教育の実施。
 - (イ) 入居者、家族に信頼されるサービスの提供の実施。
 - (ウ) 入居者の生きがい作り、社会との繋がりの場を作る。
 - (エ) 全体行事、フロア企画、個別レクリエーションのそれぞれにおいて企画の立案・実行をして余暇活動の充実を図る。
 - (オ) 入居者の「食べる楽しみ」に応えるために、日々の食事およびイベント企画を充実させる。特別食・選択食を充実させる。

2. 職員がいきいきと働くことができる職場環境、職員教育の推進
 - (ア) ICT 化により生産性・効率性を高め、働き易い職場を作る。記録システムの機能を活用し、業務の効率化を行う。
 - (イ) 介護ロボットを導入し、業務の改善、効率化を図る。
 - (ウ) 評価ツールを活用し、職員育成を行う。
 - (エ) 業務内容・役割分担を見直し、障がい者・高齢者をはじめ多様な人材への就労の場・スキルアップの仕組みをつくる。
3. 宝塚せいのりの里内事業・宝塚地区施設における連携強化とシームレスなサービス提供
 - (ア) 介護システムを活用し、聖隷在宅施設との情報連携により待機者登録へ繋げ、稼働率維持を図る。また、市内リハビリ病院との連携により、通所介護の稼働率維持を図る。
 - (イ) 災害時に利用者を守り、災害後も事業を継続できる体制の構築。
 - (ウ) 事業所内の保育所・小学生自習室等、働きやすい環境を市内聖隷施設で共有する。
4. 地域に信頼される施設運営と公益的な取り組み
 - (ア) 地域住民や団体の活動・発表の場として宝塚せいのりの里内の研修室を開放し、訪れやすい施設運営を行う
 - (イ) 入居者が地域の一員としてあるためにも、催事の相互交流やボランティアの積極導入に力を入れる。
 - (ウ) 地域住民・団体と防災や防犯などのリスク管理について情報交換・協働を図る。
 - (エ) 介護職・看護職等の専門職による地域住民向けの介護講座・介護相談の開催、中学生トライアル研修・大学生ボランティア・実習受入れを通して福祉教育にも注力する。
5. 環境活動への取り組み
 - (ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める。
 - (イ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む。

【数値指標】

	介護付き有料老人ホーム
利用者定員	100名
利用者延べ人数	34,857名
一日平均利用者数	95.5名
稼働率	95.5%
稼働日数（延べ）	365日
単価（一人一日当り）	16,404円
サービス活動収益（千円）	571,758千円
職員数（常勤換算）	60.0名

介護老人福祉施設 宝塚栄光園

特別養護老人ホーム宝塚栄光園、短期入所生活介護

2020年度は宝塚市内で最も歴史のある特別養護老人ホームとして開設41年目を迎えた。地域の方にとって特別養護老人ホームは介護における「最後の砦」であり、『『最期のとき』を安心してむかえたい』という地域住民の希望を叶えるために私たち宝塚栄光園は存在し、職員は利用者のためのサービスを提供している。これからも地域で必要とされる福祉施設であるために、これまでの経験を活かしながら、ICTやロボット技術を更に活用し、業務の効率化・新たなニーズへの対応を行える人材育成を行う。また地域との関わりとして地域自治会への参加や地域へ宝塚栄光園デイルームを開放し顔の見える関係を築き、そこから地域ニーズの新たな発見に繋げ、関係機関と連携しながら対応し福祉拠点として地域へ貢献していく。

【施設理念】

『自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい。』

【経営方針】

宝塚栄光園の従事者は、各事業における個々の利用者の障がい、疾患、要介護状態に応じて可能な限り、最期までその人らしい生活が実現できるように、常に利用者の立場に立ったケアサービスを総合的に提供していく。

【事業・運営計画】

1. 利用者を守る

- ア その人らしく最期を迎えるための環境を充実させるための改修を実施する。
- イ 喀痰吸引や経管栄養を必要としている入居者の対応を円滑に行うため、それらの医療行為を行える介護職員が8割以上になることを目指す。
- ウ 面談に来られる家族と入居者がゆっくりと過ごせるスペース作りを実施する。
- エ 家族や外部資源を活用しながら入居者に季節を感じて頂くための外出行事を実施する。
- オ 宝塚エデンの園附属診療所との綿密な連携を引き続き継続することで、入居者の健康が安定することを目指す。

2. 職員を守る

- ア 幅広い世代が働き続けるために、全員一律の役割分担から個性を踏まえた役割分担へ変更する。
- イ 次世代を担う人材の育成を行うために、外部研修・交換研修を積極的に実施する。
- ウ 介護サポーターの担える業務範囲の整理と拡大を行い、更なる介護職員の業務負担軽減を進めていく。

- エ ナースコールに連動しているインカムの活用をさらに活性化させることで、職員間のコミュニケーションの効率化を図り、職員の不要な動きを軽減する。
- オ WINCARE の更なる活用により、介護職員が抱えている事務業務の削減を実施する。

3. 地域を守る

- ア 自治会への積極的な参加を行い、地位で必要としているニーズを把握し、また施設内行事の案内も自治会を通して活発におこなうことで待つのではなく出向く地域活動を進めていく。
- イ 地域に向けての介護技術講習や認知症予防講座等の勉強会を継続的に行っていく。
- ウ 開かれた施設となるためにダイルームを開放して、地域活動の受入を実施する。
- エ ゆずり葉台自治会と共に、防災訓練の合同実施などを呼び掛ける。また防犯訓練も積極的にを行い、地域に貢献していく。

【数値指標】※特養・短期とも従来型のみ。(個室 19 室、2 人室 3 室、4 人室 15 室)

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利用者定員	70 人	15 人	85 人
利用者延べ人数	24,638 人	5,073 人	29,711 人
一日平均利用者数	67.5 人	13.9 人	81.4 人
稼働率	96.4%	92.6%	95.8%
稼働日数(延べ)	365 日	365 日	365 日
単価(一人一日当り)	12,820 円	12,540 円	12,772 円
サービス活動収益(千円)	316,408 円	63,604 円	380,012 円
職員数(常勤換算)	48.9 人	6.5 人	55.4 人

聖隷ケアセンター宝塚

宝塚第二地区在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚

聖隷逆瀬川デイサービスセンター

【事業・運営計画】

1. 利用者のニーズに対応できる事業所作りをする
 - (ア) 身体介護に特化した職員の育成に重点を置き、医療依存者への受け入れを広げる。
 - (イ) 要支援者への新たなサービスを見出していく。
 - (ウ) 認知症ケアに特化したサービスを継続して運営する。
 - (エ) 第二地区のデイサービスで移管を含めた連携を強化して、地区全体で利用者を支えていく。
 - (オ) 宝塚市東部に訪問介護の拠点を設ける。

2. 業務の ICT 化を進めていく
 - (ア) WINCARE を活用して業務のペーパーレス化を図る。
 - (イ) WINCARE を活用して他職種との情報交換や密な連携を図る。

3. 地域における公益的な取組
 - (ア) 地域住民に向けて、専門職が講座を行う。
 - (イ) 地区内の拠点 4 か所において、地域住民が集える活動・参加・協働の場を創造する。

【数値指標】

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

介護給付			総合事業		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間訪問件数	年間訪問件数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	予防(月)		
33.3人	1,012件	12,149件	57.3人	688人	4,336円	18,000円	88,417千円	17.0名

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

介護給付			総合事業		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	総合(月)		
27.3人	704人	8,453人	24人	288人	10,700円	39,000円	101,693千円	19.8名

宝塚第二地区在宅複合事業（公益事業）

訪問看護ステーション宝塚
 聖隷ケアプランセンター宝塚
 逆瀬川地域包括支援センター

【事業・運営計画】

1. 在宅で最期まで過ごせる支援の提供
 - (ア) 施設を含め、地区内の看護・セラピスト・介護・相談が連携し、医療ニーズの高い利用者・看取り期の利用者を支援できる体制を強化する。
 - (イ) 継続的に特定事業所加算Ⅳを算定できる受け入れ体制を作る。
 - (ウ) 関係機関や地域住民に対して、ACPに関する啓発を行う。
 - (エ) 地域ケア会議を活用し、関係機関・地域住民との一体的な支援をマネジメントする。
2. 職員同士で成長し合える環境作りと次世代の管理者候補の育成
 - (ア) 法人内事業所の連携強化を行い、職員同士がフィードバックし合える関係性を構築する。
 - (イ) 他施設も含め、リーダーを担える職員を把握し、育成を目的とした人事交流を行う。
3. 資源の効率的活用と生産性の向上
 - (ア) 事務職員の業務内容・配置を見直し、効率的な事務体制を構築する。
 - (イ) コスト削減と職場環境改善の観点から、ケアセンター全体のレイアウトを見直す。
4. 地域における公益的な取組
 - (ア) 地域住民に向けて、専門職が講座を行う。
 - (イ) 地区内の拠点4か所において、地域住民が集える活動・参加・協働の場を創造する。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
医療	62人	611件	7,334件	9,500円	153,720千円	21.3名
介護	131人	653件	7,835件	9,300円		
予防	27人	106件	1,276件	8,200円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
3,810件	325件	18,800円	3,900円	2,280件	4,950円	84,181千円	15.7名

地域包括支援センター事業（逆瀬川地域包括支援センター）

年間請求件数		平均単価(円)		サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
予防	予防(委託)	予防	委託(委託)		
5,400件	2,640件	5,000円	610円	74,909千円	14.1名

宝塚第二地区在宅複合事業

聖隷逆瀬台デイサービスセンター

聖隷デイサービスセンターあゆむ

【事業・運営計画】

1. 高齢者・障害者（児）に対し個別のニーズに応じた選ばれるサービスの提供
 - (ア) 在宅生活の最期までを支えるデイサービスとして、看取り期の利用者も含めたニーズに応える事が出来る体制と利用率を意識した受け入れの徹底
 - (イ) 生活介護・日中一時支援では、生活スタイル・環境の変化に合わせ関係機関と連携し、更なるサービスの充実を図る
 - (ウ) 軽度・重度の認知症状に関わらず、役割と社会との繋がり・喜びを感じられる事ができる根拠に基づいた認知症ケアの提供
2. 住み慣れた地域でより長く生活が継続できる支援
 - (ア) 地区内の事業所と連携し、支援困難や急性期認知症利用者の柔軟な受け入れ
 - (イ) 「今、困っている」に応える事が出来るよう地域課題・利用ニーズをタイムリーに把握し提供サービスの質を高める
3. 職員がやりがいと働きがいを持てる職場環境を作る
 - (ア) 多種多様な人材が活躍できる環境を作り、介護補助者の雇用を促進するなど、人材の確保に取り組むと共に、目標参画システム・介護部門ラダーの運用を確実に実施し、人材育成に取り組む
 - (イ) 記録システムや最新福祉機器の活用を図り、業務の効率化並びに業務負担軽減を目指す
4. 地域における公益な取り組み
 - (ア) 地域に必要とされるデイサービスとして、法人内の他事業所と連携し、介護技術講習、認知症予防講座、ナイトサロンを継続的に実施する

【数値目標】

通所介護事業（聖隷逆瀬台デイサービスセンター）

利用者数					単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
介護給付			予防給付		介護給付	予防給付		
平均	月間	年間	月間	年間				
26人	674人	8,090人	3人	36人	12,400円	38,000円	112,915千円	22.4名

地域密着型サービス認知症対応型通所介護事業（聖隷デイサービスセンターあゆむ）

利用者数					単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
介護給付			予防給付		介護給付	予防給付		
平均	月間	年間	月間	年間				
8.6人	223人	2,671人	—	—	15,500円	—	41,399千円	8.9名

聖隷デイサービスセンター結い

【事業・運営計画】

1. 医療と介護の連携体制を構築し、維持期・生活期まで切れ目ないサービスを提供する
 - (ア) 他機関と連携・協働し医療から介護へ、シームレスに移行する仕組みをつくる
 - ①他機関のセラピストとの連携体制を構築する
 - ②生活機能向上連携加算を算定する
 - ③在宅復帰直後（退院後）の利用者受け入れを 2019 年度比 15%アップさせる
 - (イ) ADL・IADL の維持向上が実感できる機能訓練を提供する
 - ①ICT を活用し、身体状態を「可視化」し利用者の改善意欲に働きかける
 - ②生活課題への具体的な改善目標を設定し、個別機能訓練Ⅱ算定率をアップさせる
 - ③法人内のセラピストの連携体制を活用し、スキルアップを図る

2. 地域高齢者の社会参加促進と心身の充実を図る「介護予防」サービスを提供する
 - (ア) 介護保険給付対象外の高齢者への「介護予防」保険外サービスを実施する
 - ①地域住民が通える介護予防教室を開催する
 - ②介護予防教室の運営は、公的サービスと保険外サービスの組み合わせを検討する

3. 地域における公益的取り組み
 - (ア) 地域住民が気軽に集える場をつくる
 - ①営業時間外の施設開放を検討する
 - ②地域行事に参加し、場所・人員の提供などに協力する

【数値指標】

介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用件数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(日)	予防(月)		
9人	226件	2,714件	99.4人	1,193人	6,500円	30,000円	54,635円	11.4名

聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

2019年度の報酬改訂により福祉用具貸与単価が下がり、且つ自己負担割合が2割もしくは3割の方が増えた為、介護保険給付での福祉用具貸与をやめる方が増え貸与事業は益々厳しい状況となった。介護保険外の貸与サービスがスタンダードになりつつある状況で、どれだけ多くの自費プランを持っているかが選ばれるポイントとなってきた。2019年度はこの自費購入を希望する利用者への対応を強化したい。

【事業・運営計画】

1. 介護保険外貸与サービスの拡充

- (ア) 既存の自費プラン（ベッド、車椅子）以外で手摺や歩行器など自費貸与サービスの拡充を図る。
- (イ) 自費貸与サービスの取り組みが将来の障がい者事業へ繋がるよう、浜松での取り組みを学びながら職員の意識改革も含めた仕組み作りなど準備を行う。

2. 戦略的な福祉用具の販売

- (ア) 貸与より購入を希望する利用者へ販売の提案ができるよう、有料老人ホームやサ高住に向けた営業を強化し、並行して営業職員の育成を行う。
- (イ) インターネット販売や量販店等との競合激化の中、店舗の在り方を検討する。
店舗在庫を減らし、購入実績の高い商品に的を絞った戦略的な販売を行う。

3. 地域における社会福祉法人としての取り組み

- (ア) 地域包括支援センターや地域が実施する取り組みへ、聖隷の他事業所と協力し福祉ニーズに応える。

【数値指標】

年間 貸与件数	年間 貸与収益	年間 販売収益	年間 住宅改修収益	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
9,420 件	101,430 千円	57,480 千円	19,100 千円	178,010 千円	11 人

花屋敷栄光園

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園
花屋敷デイサービスセンター
聖隷訪問看護ステーション山本
花屋敷地域包括支援センター
聖隷ケアプランセンター花屋敷
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷
宝塚市障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷

2019年度は、共生社会実現に向け「聖隷ケアプランセンター花屋敷」「聖隷訪問看護ステーション山本」を花屋敷せいの里へ統合し、相談や訪問事業の体制を整備した年度であった。

2020年度は、訪問介護事業の整備を進め在宅事業所と施設が協働し、介護保険サービスや障害福祉サービスといった制度の枠を超えた支援体制の構築に努めたい。そのために必要とされる多様なニーズへの対応力を高めるためにも人材育成とマネジメントに注力する。また、専門職以外の雇用を促進し安定的な業務支援と介護支援システム等を積極的に活用し、業務の省力化や効率化は図り、職員個々がより専門職として質の高いサービス提供が行える組織づくりに取り組む。

【施設理念】

互いに愛し合いなさい

利用者、家族、職員、ボランティア、地域住民が、共にその人らしいいきいきとした暮らしの創造のために、互いを尊重し合い、地域全体の福祉の向上に寄与する

【経営方針】

1. 利用者に「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する
2. 専門職として実践できる人材育成と働きがいのある職場環境づくり
3. 地域共生社会実現のため支援体制の構築とサービスの充実
4. 地域における公益的な取組み

【事業・運営計画】

1. 利用者に「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する
 - (ア) アセスメント力を高め専門的見地で根拠を持った支援を実践する
 - (イ) 利用者の状態とケアの差異による介護事故の防止を図るとともに体調変化の早期発見と迅速な対応により、状態悪化の防止に努める
 - (ウ) 職種を問わず在宅事業所と施設間で対応力の向上に努め、支援困難や医療ニーズの高い利用者を受け入れられる体制を構築する
 - (エ) 美味しく季節感のある食事の提供と祭事やイベント企画を計画的に実施する
2. 専門職として実践できる人材育成と働きがいのある職場環境づくり
 - (ア) 係長を増員し、リーダーを中心としたマネジメント強化を図るとともに各職種リーダーと目標参画に基づいたキャリア支援を行う

- (イ) 全職種を対象に育成スキームを構築し、専門研修等の受講や資格取得により専門性の向上を図る
- (ウ) 介護支援システム等の ICT を活用し、業務負担などの軽減と効率化を図る
- (エ) 専門職以外の雇用促進とチーム形成により、専門職がケアに専念できる体制を構築する
- (オ) 職場環境を見直すとともに車両や入浴機器、厨房設備を中心に修繕・更新等を行う

3. 地域共生社会実現のため支援体制の構築とサービスの充実

- (ア) 在宅事業所と施設が協働し、介護保険サービスや障害福祉サービスと分野を問わずワンストップでの支援体制を構築する
- (イ) 「聖隷ヘルパーステーション宝塚」と協働し、訪問介護サービスの充実を図る
- (ウ) 利用者や地域ニーズに応じた介護保険外サービスや対象エリアの拡大、新たな事業を検討し計画する

4. 地域における公益的な取組み

- (ア) 地域コミュニティなどに参画し、介護技術講座や防災・防犯活動などを継続的に行う
- (イ) 近隣の小学校等を対象に福祉体験や福祉系高校等のインターンシップやボランティアの受け入れを行う

【数値指標】

高齢者入居・短期入所・通所関係事業・相談支援事業

	特養入所 ユニット型		短期入所 ユニット型空床型		通所介護					
					通常規模型		予防型			
利用者定員	108名		12名		47名					
利用延数	38,513名		4,305名		8,739名		1,181名			
一日平均利用者数	105.5名		11.8名		28.1名		3.8名			
稼働率(%)	97.7%		98.3%		67.8%					
稼働延日数	365日		365日		311日					
平均介護度	4.1		2.8		2.0		0.4			
単価(一人一日)	15,468円		14,763円		10,056円					
サービス活動収益(千円)	595,727千円		63,556千円		99,763千円					
職員数(常勤換算)	80.5名		9.2名		20.4名					
	地域包括支援事業 (花屋敷地域包括支援センター)		障害者相談支援事業 (聖隷はぐぐみ花屋敷)		障害児相談支援事業 (聖隷はぐぐみ花屋敷)		宝塚市相談支援事業 (聖隷はぐぐみ花屋敷)			
宝塚市受託収入(千円)	37,185千円		—		—		13,065千円			
年間請求件数	予防プラン 請求件数	3,852件	360件		180件		—			
	予防プラン 委託件数	720件								
平均単価	予防プラン 単価(円)	4,175円	15,000円		8,233円		—			
サービス活動収益(千円)	56,085千円		5,400千円		1,428千円		13,065千円			
職員数(常勤換算)	10.5名				2.5名					
	聖隷訪問看護ステーション						聖隷ケアプランセンター			
	平均利用者数	月訪問 件数	年訪問 件数	単価 (円)	サービス活 動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)	年訪問 件数	単価(円)	サービス活 動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
医療	37人	288件	3,456件	9,500円	101,095 千円	15.7名	—	—	—	—
介護	94人	643件	7,716件	8,500円			3,963件	16,500円	66,126 千円	11名
予防	35人	82件	984件	8,500円			180件	4,000円		

ケアハウス花屋敷

ケアハウス花屋敷の使命である「健康寿命の延伸」について、今年新たに介護ロボットを導入し、心身機能維持向上を図りたい。超高齢化社会に突入し、働き手が減少する今、ICT を活用して働き方を変えざるを得ない。人でなければできないことと、ICT を活用することで多機能で効率の良い業務を行う事の両輪で、入居者及び地域住民の健康を維持しながら、自身のやりがいや生きがいを感じて生活出来るよう支援していく。また、ACP（人生会議）について、入居者にも知ってもらい、御家族と、友人と、私達職員も含め、その方の望む過ごし方、最期の過ごし方を共有し、支援していきたい。ケアハウス花屋敷入居者の多くが「花屋敷せいの里で最期まで過ごしたい」と希望しており、その実現のための具体的な計画策定の1年とする。昨年11月に訪問看護ステーション山本とケアプランセンター花屋敷がせいの里内に移転したが、そのことにより、施設と在宅事業が一体的に地域の方々を支援できる体制が強化できると考える。

【施設理念】

高齢者や障害者を含むすべての人々が、自立し、尊厳をもって暮らせる地域社会の実現を目指します。【経営方針】

1. いのちと尊厳を守ります。
2. よりよいサービスを提供します。
3. 地域社会と共に歩みます。

【事業・運営計画】

1. ACP についての理解を広め、体調変化や急変時等、本人の意思を尊重した対応が出来る
(ア) 毎月の誕生日会を利用して、入居者に ACP について知ってもらう機会をつくる
(イ) 毎年行う入居者情報更新時や担当者会議等で、急変時や老衰等になった際の医療的な処置の可否や人生の最終段階の過ごし方、場所等について確認し、緊急時対応記録に残す
2. 入居者の心身の変化、状況の変化にタイムリーに対応できる体制と対応力の強化
(ア) 毎日午後の 30 分を入居者情報共有とアセスメント、支援内容検討・評価の時間とする
(イ) 医療に関する知識、アセスメント方法について、外部研修に参加する。また、計画的に施設内研修を行い、知識・技術の向上を図る
3. 健康維持増進のための取り組み
(ア) 介護ロボットの導入を検討し、認知症予防を含む健康体操のプログラムの充実と効率化を図る
(イ) 心身の健康維持の為、「楽しむこと」を重視した催し・行事を企画。行事の一部は、職員のみでなく、入居者と共に創る
(ウ) 外出しづらい入居者も参加できる外出行事を検討する

(エ) 毎朝のラジオ体操を継続し、入居者・職員の健康維持を図る

4. ケアハウスらしい「健康的で美味しい食事」の提供

(ア) 栄養バランスのとれた、高齢者が食べやすく、美味しい食事を提供する

(イ) 敬老の日、クリスマス等の大きなイベントだけでなく、日本古来の習慣や関西の食の文化を大切に食事を提供する

5. 運営の安定化の推進

(ア) 入居待機者増員に向け、病院の地域連携室への営業や高齢者住宅閲覧サイトを活用する

(イ) 高齢者だけでなく、子供世代にも知ってもらえるよう、説明会の開催や見学会を実施

(ウ) 入居者の多くが望む、せいの里で最期まで過ごせる仕組み、地域の方々がその人らしく最期まで過ごせるような仕組みを検討・構築する

(エ) 業務内容の整理、適性な職員配置の見極めと職員体制見直しを行う

6. 災害時の準備、避難方法等、入居者の協力を得て、更にバージョンアップする

(ア) 夜間職員が少ない中でも安全に避難できる体制と安否確認方法をさらに高める。

7. 地域における公益的な取組

(ア) 地域の方が集える場所の提供（園の喫茶コーナー、サロン活動、介護者の集い等）

(イ) 近隣の幼稚園・小学生と高齢者との触れ合いの場の提供

(ウ) サロンや地域活動の場所での相談支援や介護教室などの実施

【数値指標】

利用者定員	100 人
利用者延べ数	36,500 人
稼働率 (%)	100%
単価 (一人一日)	4,282
サービス活動収益 (千円)	156,294
職員数(常勤換算)	14.0 人

北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸

聖隷ケアプランセンター北神戸

【事業・運営計画】

1. 専門性の高い、利用者のニーズに沿ったサービスを提供する
 - (ア) 住み慣れた地域で人生を全うするまで質の高い医療、看護、リハビリテーションで支える
 - ① がんに限らず非がん利用者に対しても、望む人生を全うできるように取り組む
 - ② 小学校における医療的ケア児、医療依存度の高い小児の受け入れの継続
 - ③ 大学での精神事例検討会に参加し、精神看護や認知症看護の質の向上へ繋げる
 - (イ) 難病や医療依存度の高い利用者へ切れ目のないサービスを提供
 - ① 聖隷ケアプランセンター北神戸、聖隷訪問看護ステーション北神戸との定期合同研修、合同カンファレンスの継続
 - (ウ) リーダーとなるスタッフを育成する
2. 各機関との連携を強化し、地域のニーズ、解決に取り組む
 - (ア) 北区地域包括ケア推進協議会への積極的参加
 - (イ) 認知症初期集中支援チームのメンバーとして初期対応し、その後の支援についても自施設を含めた支援機関へ繋げる
 - (ウ) 兵庫県立こころの医療センターと看・看連携し、交換研修を実施
精神科病棟、外来への実習の参加や、訪問看護実習の受け入れをして、お互いの精神看護の質の向上と利用者の支援体制の強化を図る
 - (エ) 新規依頼に繋げるため神戸市北区ケアマネジャー連絡会の企画運営への協力を継続
3. 地域における公益的な取組
 - (ア) 神戸市看護大学生実習の受け入れ、及び神戸市看護大学臨床講師を務める
 - (イ) 介護保険認定調査会審査員として職員2名の派遣
 - (ウ) 兵庫県看護協会 看・看連携実習の受け入れ
 - (エ) 北区認知症初期集中支援チームへ職員1名の派遣

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション北神戸）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
812人	905件	10,860件	8,667円	100,818千円	14.6人

居宅介護支援事業（ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数		平均単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防		
1,170件	660件	17,000円	3,550円	22,233千円	4.8人

介護老人福祉施設 聖隷カーネーションホーム

特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム
聖隷カーネーションホームデイサービスセンター
聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうっこ
聖隷ケアプランセンター淡路、聖隷在宅介護支援センター淡路、
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ

2020年度の聖隷カーネーションホームは、次期高齢者福祉計画・介護保険計画を見据えた内部強化・機能強化を推進し、東浦地区での事業の充実に繋げていくとともに、淡路エリアにおける中核施設として、津名地区・岩屋地区の既存事業の強化と新規事業の支援に取り組み、エリア全体での業績の質的・量的向上に邁進する。内部強化面では、近年特に需要が高い認知症ケアと機能訓練への対応力を強化していくとともに、福祉現場の革新に重点を置き、ハード・ソフト両面から安全性と効率性の向上を図る。利用者に「安心と楽しみのある暮らし」を、職員に「働きやすい職場、やりがいのある仕事」を提供することで、利用者と職員の双方の幸福を実現できる、魅力ある総合福祉拠点を目指していく。

【施設理念】

人と地域と未来のために『ともに咲き続ける』ことのできる事業所となる

～『ともに咲き続ける』ために私たちは…～

1. ご利用者、ご家族のみならず地域に信頼され続けるサービスを提供します
2. 現在だけではなく、過去を活かし未来を見据えたサービスを提供します
3. 私たちだからこそできる専門的で先駆的な質の高いサービスを提供します

【経営方針】

1. 利用者満足の向上のために、より安心・安全で質の高いサービスを追求する
2. 職員の働き甲斐や資質の向上のために、多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりを促進する
3. 安定経営を継続していくために、サービス品質の改善と生産性向上の両立を推進する
4. 安心して暮らせる地域づくりに貢献するために、公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓に取り組む

【事業・運営計画】

1. より安心・安全で質の高いサービスの追求
 - (ア) 利用者に安全で快適な生活を送っていただけるために、インシデント報告の増加と事故分析の強化を継続するとともに、より安全な入浴設備など機器等の見直しを行う。
 - (イ) 生活の場として日常生活を大切にするとともに、利用者一人ひとりの変化の早期発見に努め、楽しみと安心のあるサービスを提供する。
 - (ウ) 障害者や重度の認知症など支援困難な方や、制度の狭間で困窮している方等の受け入れに積極的に取り組み、より広い利用者層に活用していただける施設づくりを促進する。
2. 多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりの促進

- (ア) 事業計画と連動した目標管理及び達成支援により、自立（自律）人材の育成と事業目標の達成の両立をさせるとともに、次世代リーダーの発掘・抜擢・育成を行う。
- (イ) 介護機器の見直し・更新・導入を積極的に行い、またノーリフトケアの浸透を図ることで、職員の安全性の向上と身体的負荷の軽減を図り、安全かつ働きやすい環境を整備する。
- (ウ) 外国人材及びシニア人材の活用を促進し、必要な労働力を確保する。
3. サービス品質向上と生産性向上の両立による経営改善
- (ア) 業務の仕分けと分業を促進するとともに、ICT・IoT・スマートデバイスを活用したフィールドイノベーションを実施し、業務の量の削減・合理化・自動化を図る。
- (イ) 施設が地域の社会資源として有効に活用されるために、利用ニーズと稼働率を意識した経営を行い、利用者をよりスムーズに受け入れられるよう体制を改善する。
- (ウ) 適切な加算算定と合理的な人員配置を行い、安定した経営を維持する。
4. 公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓
- (ア) 在宅介護支援センター淡路を中心に「淡路市高齢者住宅安心確保事業」の実施を継続するとともに、潜在的な福祉ニーズを発掘する。
- (イ) 淡路市の次期高齢者保健福祉計画・障害福祉計画の策定に向けた提言・提案を行い、地域福祉の向上に資する事業に繋げる。
- (ウ) 地域全体の福祉の向上のため、淡路エリア聖隷施設との相互支援や、行政機関・他法人施設との連絡・連携を強化する。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	総合事業	認知症対応型
利用者定員	54名	16名	25名		12名
利用者延べ人数	19,119名	5,682名	5,896名	869名	2,967名
一日平均利用者数	52.4名	15.6名	19.0名	2.8名	9.5名
稼働率（％）	97.0％	97.3％	87.3％		79.0％
稼働日数（延べ）	365日	365日	310日		313日
平均介護度	3.75	3.09	2.38	—	2.2
単価（1人1日当り）	11,809円	10,991円	10,139円	3,756円	12,118円
サービス活動収益（千円）	225,939千円	63,428千円	63,056千円		36,026千円
職員数（常勤換算）	29.6名	7.4名	11.3名		5.1名
	聖隷ケアプラン センター淡路		聖隷在宅介護 支援センター淡路		
年間請求件数	介護	予防			
	2,040件	480件			
訪問調査年間件数	60件				
サービス活動収益（千円）	35,148千円		7,480千円		
職員数（常勤換算）	6.0名		1.2名		

淡路栄光園

淡路栄光園が所在する淡路市の岩屋地域は高齢化率で42%、65歳以上の単身世帯では31%と市内トップであり、今後も増加傾向が見込まれている。今、この地域では元気な高齢者の場づくりや健康寿命、生きがい課題であると同時に、現役世代や多世代家族の減少による家族介護力の低下傾向から、より質の高いデイサービスや24時間365日体制で在宅介護を支えるショートステイへの期待が高まっている。2020年度は、デイサービスセンター淡路を小規模地域密着型化し、個別ケアの充実や地域貢献の強化に努め、2021年度中に岩屋の住宅地内へ移転し、デイサービスの跡地にはショートステイを増床する計画の準備の年度としたい。

また、国が指針とする介護現場革新プランに基づき、各職場が業務や勤務の再点検と改善をより進め、職員の仕事のあり方と利用者の生活の双方がより良くなる取り組みを考え実践する。開設後21年目を迎える淡路栄光園は、これまでの感謝を心に利用者や地域の期待に応え、職員一人ひとりが積み上げてきた質の高いサービスを、今後も提供し続けていける体制を創る年度としたい。

【施設理念】

「家族の心とまなざしでむかえる」

【経営方針】

1. 利用者や地域の声に応え、利用者の個別ケアや生活環境改善の強化に注力し、新たな事業とサービス体制の整備に努める
2. 職員の負担軽減と業務省力化を追求するとともに、働きがいや技術の向上に努める
3. 安定したサービス提供と事業の継続が可能となる新たな事業展開、人員体制を整備する
4. 淡路栄光園が持つ専門性や聖隷淡路病院その他の淡路エリアの施設と連携し、期待される地域向け活動の実現を図る

【事業・運営計画】

1. 利用者のケアや生活の質の向上のために、新たなサービス体制と施設環境の整備
 - (ア) デイサービスセンター淡路を地域密着型の小規模事業所に事業変更し、利用者への個別ケアをより充実させる。
 - (イ) ショートステイの増床に向けた職員体制及び施設整備をすすめ、増加しているショートステイの利用希望に応える体制を整える。
 - (ウ) 入居者の楽しみや安全につながるケアを提供できるよう、勤務や業務を改善変更する。また、照明のLED化など生活環境の整備を進める。
2. 職員の負担軽減と働きがい、技術向上の追求
 - (ア) 介護機器の導入と有効活用により、介護職員の負荷を軽減し働きやすい環境を整備する。
 - (イ) IOT、ICTをより積極的に活用し、専門業務以外の省力化とタスクシフトを進める。

(ウ) 危険予知や共感能力の向上を目的とした研修など、職員技術やモチベーションの向上に資する研修を実施する。

3. 淡路栄光園の事業とサービスを今後も安定、継続させるための取り組みの強化

(ア) 2021年度のデイサービスセンター淡路の移転、及びショートステイ増床の準備を進める。

(イ) シニア人材や外国人材の活用とタスクシフトを推進し、介護職員及びサービス提供の体制を安定・強化する。

(ウ) 各職場が、利用者の求めるサービス希望に最大限応えていくことを意識し、目標である稼働率の達成を目指す。

4. 淡路栄光園の持つ専門性や連携力を発揮した地域貢献活動の実行

(ア) 地域で生活する高齢者の生活不安や健康維持に対応するため、地域サポート施設として地域生活支援事業及び介護・健康セミナー等の地域向け講習会を実施する。

(イ) 小規模地域密着型への変更による運営協議会を開催し、聖隷淡路病院その他専門機関との連携のもと介護予防や健康維持、認知症予防を目的としたアクションを具体的に実施する。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	地域密着型通所介護	
	従来型		一般	総合事業
利用者定員	60名	17名	18名	
利用者延べ数	21,352人	6,081人	4,820人	311
一日平均利用者数	58.5人	16.5	15.5	1
稼働率	97.5%	98%	91%	
稼働日数(延べ)	365日	365日	311日	
単価(一人一日当り)	11,742円	11,621円	9,403円	6,427円
サービス活動収益	250,783千円	70,797千円	47,290千円	
職員数(常勤換算)	38.1人	7.8人	6.9人	

聖隷ケアセンター津名

聖隷訪問看護ステーション淡路

聖隷ケアプランセンター淡路第二

聖隷ヘルパーステーション淡路

聖隷ライフサポート津名

2020年、当センターはリハビリ強化型の通所介護事業所を開設する。これは地域ニーズであるリハビリテーションと、健康づくり・フレイル予防・健康寿命の延伸等に対応した事業を行い、より多くの住民に利用していただくことで、医療と福祉の中核的役割を担えるケアセンター機能を強化する為である。今後は通所介護事業の経営が早期に安定するよう、各事業が訪問単価を常に考慮した活動で収益率を向上させる。又、相互の機能を活用し効率的で効果的なサービス提供に向け協働すると共に、継続的な業務改善を行い利用者中心で丁寧なサービスを実施し、地域住民から評価され選ばれる事業を継続していく。

【事業・運営計画】

1. 経営の安定化

- (ア) 淡路エリア事業所間の連携を強化し、利用者を確保する
- (イ) 各事業共、訪問単価を上げ収益率を向上させる
- (ウ) 訪問介護事業は身体介護と共に行うサービスを充実させる
- (エ) 居宅介護支援事業はエリア内での体制を検討し特定事業所加算Ⅱの取得を目指す

2. 利用者の健康管理や疾患の重度化予防を行う

- (ア) 看護師とセラピストが専門性を発揮し幅広い利用者へ協働する
- (イ) 安心して療養できる体制を早期に整え、緊急対応や入院の機会を減少させる
- (ウ) 看護と介護の連携を強化し、協働できるサービスの検討を継続的に行う
- (エ) ターミナルや難病等、医療依存度の高い利用者への居宅介護支援を積極的に行う

3. 丁寧なサービスが実施できる人材育成を行う。

- (ア) ケースカンファレンスを行い、サービス内容の検討と展開を継続的に行う
- (イ) 利用者を満足させることができるコミュニケーション力を養う
- (ウ) 訪問現場での対応力向上に向けた同行訪問等を実施する
- (エ) 運営会議・定例会・委員会等の活動や施設内研修を充実させる

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 看取りのカンファレンスや多職種学習会を定期的に行う
- (イ) 在宅介護支援センター等が行う家族介護者教室等で「まちの保健室」を行う
- (ウ) 看護学生・研修医・医療機関看護師等の在宅看護実習を受け入れる

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション淡路）

医療事業		介護給付		予防給付	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
390 件	10,000 円	1,065 件	7,827 円	200 件	5,785 円
サービス活動収益		161,166 千円	職員数（常勤換算）		24.6 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路第二）

月間請求件数		平均単価		訪問調査 月件数	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防			
98 件	27 件	15,000 円	4,310 円	2 件	19,248 千円	3.0 名

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション淡路）

介護給付		予防給付		障害（自立支援）		障害（移動支援）	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
1,130 件	3,500 円	250 件	2,672 円	460 件	4,500 円	53 件	2,400 円
サービス活動収益		83,039 千円		職員数（常勤換算）		20.5 名	

通所介護事業（聖隷ライフサポート津名）

共生型通所介護			介護給付		予防給付	
利用定員	稼働率	平均介護度	延べ利用者数	1日平均数	延べ利用者数	1日平均数
25 名	64.4%	1.4	3,183 名	12.3 名	960 名	3.7 名
サービス活動収益			31,293 千円	職員数（常勤換算）		6.2 名

聖隷こども園夢舞台

2020 年度も職員一人ひとりが、聖隷福祉事業団の保育・教育理念や園目標の理解を深め、研修会参加や毎日の保育実践とその振り返りの中で、資質向上を目指す。そのために、保育環境を整え、一人ひとりを大切にされた保育・教育を行い、保護者や地域の信頼を得ることで、これまで以上に地域に愛され続けることができるこども園となるように研鑽を重ねていく。

また、家庭と共同して子育て・保育を行っていく中で、園が大切にしていることを今まで以上に伝えていきたい。

子育て支援事業の一時預かり・病後児保育については、安定したサービス提供するための体制を継続する。更に、地域の未就園児を対象に園庭解放等を積極的に取り入れ、地域のニーズを把握すると共に地域の子育て支援に力を入れていきたい。

【施設理念】

「隣人を自分のように愛しなさい」(マタイによる福音書 22:39)

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる。

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活をする。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスを提供する。
 - (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、PDCA サイクルを用い、園児個々に合った計画を立案し、実践を行う。
 - (イ) 年間研修計画に従い、施設内外の研修に参加し、知識や技術の向上を図る。また、各自の学びを職場にフィードバックして職場全体のスキルアップへと繋げる。
 - (ウ) 園児の成長発達に合った環境を整え、園児一人ひとりが安心して自己発揮できるような関わりに努める。
 - (エ) 保育職ラダーを活用し、個々のスキルアップとともに職員全体の質向上を図る。
 - (オ) 聖隷訪問看護ステーション淡路と連携した病後児保育を行う。
2. 信頼され、選ばれ続けるこども園となるため、保護者支援や地域交流に努める。
 - (ア) リスクマネジメントを徹底し、事故の発生を未然に防止していくとともに、園児の状態変化に早期に気づき、対応を図る。

- (イ) 園児や保護者等の声を傾聴し、求められているニーズを抽出し、サービスに反映させる。
- (ウ) 地域の町内会や各種団体等と交流を図り、相互理解に努め、信頼・共助関係を構築する。
- (エ) 病後児保育事業を進めるに当たり、地域の子育て家庭の支援に努める。

3. 地域における公益的な取組を継続実施する。

- (ア) 中学生・高校生の職場体験やボランティアを積極的に受け入れ、次世代育成に貢献する。
- (イ) 小学校との連携を図り、教育についての学び、就学への理解を深める。
- (ウ) 相談・見学等で来園される親子への理解を深め、職員が専門職として積極的に関わることで支援に努める。

4. 安定した運営に努める。

- (ア) 適切かつ効率的な職員配置が行えるように業務の見直し、改善を図る。
- (イ) 消耗備品の購入状況、及び外部委託業者の契約状況を評価し、適正化を図る。
- (ウ) 行政機関との円滑な調整、情報開示の徹底、計画的な人員の確保等を図る。

【数値指標】

利用者数	定員	120名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童 入所率 134.5%	入所数 4/1 現在	3名	13名	29名	32名	29名	49名	155名
		内、1号認定	0名	0名	0名	1名	2名	1名	4名
		内、障がい児	0名	0名	0名	0名	0名	2名	2名
		年間入所延人数	72名	179名	366名	384名	348名	588名	1,937名
特別 保育	年間利用延人数	延長保育							1,350名
		障がい児保育							24名
		一時預かり保育							180名
		病後児保育							20名
職員数 (常勤換算)		施設長	保育士	看護師	栄養士 調理師	事務	計		
	正規職員	1.0名	21.0名	1.0名	委託	0.0名	23.0名		
	パート・アルバイト	0.0名	4.0名	0.0名	委託	0.7名	4.7名		
	計	1.0名	25.0名	1.0名	委託	0.7名	27.7名		

奄美佳南園

特別養護老人ホーム奄美佳南園・デイサービス・ホームヘルプ事業所
訪問入浴事業所・在宅介護支援センター・春日デイサービス
・聖隷チャレンジ工房カナン

2019年度の奄美佳南園は、これまでの高齢者サービスに加えて、地域の障害者を生活介護や就労支援で受け入れ、地域共生社会の実現に向けて事業を実施した。

また、介護職員の人材確保が厳しい中、事業継続するために介護業務の整理を行い介護の周辺業務を、高齢者を雇用し分担していただくことで介護員の業務削減に努めた。

しかし、訪問介護事業では利用者及び担い手である登録ヘルパーが減少し、これまでの家事援助中心のサービス形態から、専門性の高い身体介護サービス中心のサービス提供へと軌道修正することとなった。2020年度は介護機器を積極的に導入し、安心・安全なサービスの提供とサービスの質の維持・向上に努め、既存する福祉事業の強化を図り「地域にとって欠かすことのできない福祉拠点」としての価値を高めていく。

【施設理念】

「夕暮れになっても光がある」

～私たちを必要として下さる方々を支え、このことを通じて

私たち自身も共に幸せになれる奄美佳南園になる～

【経営方針】

1. 利用者満足向上のために、高齢者・障害者複合サービス拠点としての機能を高める
2. 職員満足向上のために、福祉人材の育成と働き甲斐のある施設づくりを迫及する
3. 健全経営推進のために、既存事業の質・生産性の向上、需要の発掘・事業化に取り組む
4. 地域社会貢献のために、公益的な事業活動に積極的に尽力する

【事業・運営計画】

1. 利用者満足向上のための取組
 - (ア) 利用者の尊厳を大切にサービス提供、職員の知識・技術向上のために、内外の研修参加や機器等の導入・活用により、サービスの質の向上へと取り組む。
 - (イ) 利用者の個性・ニーズに合わせた個別支援計画を作成し、質の高いサービスを提供する。
 - (ウ) 利用者の安全な生活環境を高めるために、事故予防や入院予防、口腔機能の維持、看取りケアの促進に取り組む。
2. 職員満足向上のための取組
 - (ア) 介護補助として高齢者や障害者を採用し、業務効率化や生産性の向上に取り組む。
 - (イ) 職員の資質と意欲の向上を図るために、専門職ラダーの運用及びOJTを推進する。
 - (ウ) 職員の健康維持及びサービスの質の向上のために、介護機器等の導入・活用する。
3. 事業の成長と安定した経営基盤の構築
 - (ア) 相談専門職の技術促進とした研修企画の運営実施及び定期的連絡会において、組織目標を意識した事業の安定化に取り組む。
 - (イ) 入院者のフォローによる長期入院の削減及び待機上位者の早期入所へ取り組む。
 - (ウ) 就労支援事業での障害を持つ青年期への支援、奄美佳南園デイサービス並びに春日デイサービスの統合に関し検討をする。
 - (エ) 訪問介護について単なる家事援助で無く、専門性のあるサービスの提供を実施する。
4. 地域における公益的な取組
 - (ア) 福祉拠点施設の機能を活かし、介護者教室を開催する。
 - (イ) 生活困窮・高齢・自信を無くした方々に対し職場体験を実施し、就労意欲の向上・自信回復等に向けた機会を提供する。
 - (ウ) 地域の社会福祉法人と連携し「おもしろネットワーク事業」に参画し、地域における生活困窮に関する課題の解決に向け実践する。

【数値指標】

	特養入所		短期入所		訪問給食	生活困窮
	従来型	ユニット型	従来型	障害		一時生活支援
利用者定員	50名	30名	10名			
利用者延べ人数	17,611名	10,512名	2,847名	110名	10,040名	120名
一日平均利用者数	48.25名	28.80名	7.80名	0.30名	27.51名	0.50名
稼働率	96.5%	96.0%	78.0%	3.0%		
稼働日数（延べ）	365日	365日	365日	365日	365日	365日
単価 （一人一日当り）	12,907円	14,827円	12,857円	9,890円	670円	6,000円
サービス活動収益	220,574千円	155,862千円	36,604千円	1,083千円	6,727千円	1,095千円
職員数（常勤換算）	32.0名	20.5名	5.1名		2.8名	
	奄美佳南園デイサービス				春日デイサービス	
	地域密着	介護予防	生活介護		地域密着	介護予防
利用者定員	18名				15名	
利用者延べ人数	2,984名	332名	276名		2,256名	1,934名
一日平均利用者数	9.66名	1.08名	0.9名		7.30名	6.26名
稼働率	53.65%	5.96%	0.89%		48.68%	41.73%
稼働日数（延べ）	309日	309日	309日		309日	309日
単価 （一人一日当り）	9,990円	5,729円	7,500円		10,100円	4,700円
サービス活動収益	29,811千円	1,774千円	2,072千円		28,327千円	9,090千円
職員数（常勤換算）	6.1名				6.5名	
	訪問入浴介護		ホームヘルプ		就労支援	
	介護	障害	介護	障害	移行支援	継続B
利用者定員					6名	14名
利用者延べ人数	663名	177名	5,082名	739名	1,658名	3,653名
一日平均利用者数	2.15名	0.57名	13.92名	2.02名	5.37名	11.82名
稼働率					89.42%	84.45%
稼働日数（延べ）	309日	309日	365日	365日	309日	309日
単価 （一人一日当り）	15,900円	12,500円	4,342円	3,835円	8,618円	9,629円
サービス活動収益	10,531千円	2,206千円	20,377千円	2,834千円	14,287千円	35,179千円
職員数（常勤換算）	2.8名		6.9名		10.7名	
	年間利用数	稼働日数	単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）	
在宅介護支援センター	1,200名	259日		9,615千円	2.0名	
居宅介護支援	介護	259日	16,750円	14,070千円	3.0名	
	予防	259日	3,583円	1,290千円		

春日保育園

春日保育園（旧伊津部保育所）の設立から60年を迎える。この長い歴史の中で培われてきた保育の営みを絶やすことなく継続するために、「一人ひとりを大切に今の時を喜びと感謝をもって生きる」ことを目標とした。今後もそれぞれが生きる力を培い、集団生活で自己発揮できる環境づくりを継承していく。

保護者支援として開催した事業は、子育てに対する不安や焦りが解消され自信を持つことで、保護者同士も親しくし協力関係を持つことが出来る事から2019年度も実践する。

そして、複雑な福祉ニーズを抱える家庭や発達に障害がある子に対し、専門機関との連携をすすめ、子ども一人ひとりの尊厳を大切にしながら関わっていくように努める。

昨年10月より、給食の無償化が始まり、保育所の入所希望も増え待機児童が増えている。そのような中、地域の保育園として選ばれるために一人ひとりの発達や、家庭の状況をしっかり把握し援助していけるようにしていく。また、キャリアアップ研修等や外部研修等に参加することで保育士の専門性をより高めスキルアップができる。そのことで、よりよい保育の実践のために、職員同士の連携を強化、質の向上を目指し、今後も地域から信頼され選ばれる施設となるよう職員一丸となって取り組む。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝をもって生きる」

～子どもたちの心身の成長を私たちが幸せと受けとめ共に育つ春日保育園でありたい～

【経営方針】

1. 保育の質と専門性の向上
2. 統合保育の実施と専門機関との連携
3. 地域交流と地域貢献を積極的に行う

【事業・運営計画】

1. 保育の質と専門性の向上
 - (ア) 保育理念、保育所保育指針等で目標を明確にし、発達に則した実践を行う
 - (イ) キャリアアップ研修や専門分野研修に参加し、保育に活かす
 - (ウ) 多くの保護者を対象にペアレントプログラム研修の回数を増やす
 - (エ) のぞみ園、聖隷かがやきと共に専門的な保育・療育に関する職員研修を開催する
 - (オ) 保育職ラダーや目標参画を通じ、自己の課題や成長を明確にすることでレベルアップを目指す

2. 統合保育の実施と専門機関との連携

- (ア) 児童発達支援センターのぞみ園との並行通園児の連携を密に行う
- (イ) 奄美市の健康診査後の相談や発達検査のフィードバック行い、進路等の連携を行う
- (ウ) 保護者の不安解消や情報共有のために、懇談会や保健師健康育児講座を開催する
- (エ) 春日保育園主催の親子教室の開催を継続的に行い保健師との連携を図る

3. 地域との連携を根ざした公益的な取組

- (ア) 地域の子育て支援拠点として広報誌や行事等への参加の呼びかけを行う
- (イ) 「子育てサロン」や「新米ママ、パパ保育所体験」を開催する
- (ウ) 実習生を積極的に受け入れることや、学校へ出向く機会を設け、交流の場を増やす
- (エ) 高齢者との触れ合いの場を設ける
- (オ) 設立 60 周年の記念式を開催する

【数値指標】

利用者数	定員	120名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童 入所 率 98.5%	入所数 4/1 現在	6名	17名	24名	24名	18名	24名	113名
		うち障がい児	0名	0名	名	2名	1名	1名	4名
		年間入所延人数	131名	236名	298名	288名	237名	288名	1,478名
特別 保育	年間利用延人数	一時保育事業							20名
		延長保育促進事業							720名
		障がい児保育・療育支援							1920名
職員数 (常勤換算)		施設長	保育士	栄養士	調理	保育 補助	事務 他	計	
	正規職員	1.0名	12.0名	1.0名	1.0名	0名	0名	15.0名	
	パート	0名	8.6名	0名	1.5名	2.0名	0.5名	12.6名	
	計	1.0名	20.6名	1.0名	2.5名	2.0名	1.0名	27.6名	

のぞみ園

児童発達支援センター
放課後等デイサービス
相談支援

発達障がいへの支援ニーズは、ライフステージに応じて変化するだけでなく、継続的な支援がとて重要である。それと同時に、少子高齢化の問題や核家族化、共働き世帯の増加など社会構造の変化を背景として、世帯単位で複合的な支援を必要とするケースも増加してきている。

そこで、これまでの早期発見・早期支援の取り組みに加え、2020年度から中長期的目標として、ライフステージに応じた「継続性のある支援」と「成長した先の自立支援」に積極的に取り組んでいきたい。その中においては、二次的な障害の発生防止や成人後、親亡き後の生活や就労など個別の支援に加え、世帯単位で抱える複合的な問題にも一体的に対応できる体制作りを奄美エリア各施設と連携しながら強化していく。この取り組みを通して、奄美の地域共生社会の実現に向けて一翼を担う組織として、地域貢献と地域に求められ続ける施設運営を行っていききたい。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～子どもたち一人ひとりの育ちと保護者の願いに寄り添う支援～

【経営方針】

1. ライフステージに応じた継続性のある支援体制の構築と経営の安定化
2. 働きやすい職場環境作りと積極的な人材育成への取り組み
3. 地域共生社会の実現に向けた取り組みと公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. ライフステージに応じた継続性のある支援体制の構築と経営の安定化

(ア) 子どもの発達支援

- ① 客観的な指標に基づくアセスメントを行い、子どもの発達に応じた支援体制の充実を図る
- ② 年齢・発達状況に応じた支援プログラムの立案と、将来の自立に向けソーシャルライフスキルを高めていける支援体制を築く
- ③ 保育所等訪問支援事業の充実と丁寧な相談支援の実施により、関係機関と連携を深め、継続性のある支援に努める

(イ) 保護者支援

- ① 保護者懇談会・保護者交流会等を通して、子育ての悩みを話せる場や、見通しを持って子育てしていける環境作りを促進する
- ② ペアレントプログラムの実施を通して、保護者の子育て支援に取り組むだけでなく、保護者同士の仲間作り、居場所作りを行う

(ウ) 地域支援

- ① 施設機能を活用して、親子交流行事や子育てサークルなどに施設開放を行い、身近な地域でつながりを感じながら子育てできる環境作りに取り組む
- ② 施設見学、職場体験、福祉・保育実習を積極的に受け入れ、次世代の福祉・保育人材の育成に寄与する

2. 働きやすい職場環境作りと積極的な人材育成への取り組み

(ア) 専門職としてのキャリアアップ支援への取り組み

(資格所得と関連研修受講の促進・各専門職ラダーと目標参画との連動と活用)

(イ) 業務の洗い出し、切り分けと非専門職人材の活用（事務連携体制の構築・高齢者、障がい者雇用の検討）

(ウ) 職員間のコミュニケーション向上と離職防止への取り組み（日々の振り返り・職員交流の促進・エリア子ども支援会議開催による連携強化）

3. 地域共生社会の実現に向けた取り組みと公益的な取り組み

(ア) 奄美市親子教室への参画（早期発見・早期支援・子育て相談）と自立支援協議会、各事業所と連携した支援者育成研修の企画、運営を行う

(イ) 災害時における協力体制の構築（家族会・自治会）と災害用備品の整備を行い、災害時の機能強化に取り組む

(ウ) 地域向け親子教室、ペアレントプログラムを開催し、子育て支援、保護者の交流促進、療育施設を知ってもらう取り組みを行う（公益的な取り組み）

【数値目標】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	相談支援	障害児 相談支援
利用者定員	25名		20名		
利用者延べ人数	6,516名	46名	4,131名	11名	670名
一日平均利用者	27.6名	名	17.5名	名	名
稼働率	110.4%		87.5%		
稼働日数（延べ）	236日		236日		
単価（一人1日当り）	12,901円	11,217円	8,173円	15,727円	17,074円
サービス活動収益	84,065千円	516千円	33,766千円	173千円	11,440千円
職員数	16.7名	0.7名	8.4名	3.2名	

聖隷かがやき

児童発達支援センター

放課後等デイサービス

相談支援

2019年度は移転・新築工事による施設整備に伴い7月から奄美大島での二つ目の児童発達支援センターとして運営を開始して北大島における未就学から学童への支援体制の基盤づくりができた。

2020年度は発達障害児について地域への理解促進に努めることで早期発見、早期療育へ結びつき、豊かな子育て支援体制による将来の自立支援へと目指せることの大切さを奄美エリア施設との連携のもと取り組んでいく。

そして住み慣れた地域で安心して利用できる、開かれた療育施設としての役割を果たせるように、子育ての相談から、遊びの提供の場、交流の場として、子どもから大人までの支援の充実を図り、地域から信頼される施設運営に邁進していきたい。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～障害や成長の発達につまずきのある子どもの支援～

【経営方針】

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化
2. 職員の働きやすい環境作り、人材育成
3. 地域共生社会の実現に向けた取り組みと公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 児童発達支援センター、放課後等デイサービスとしての機能の強化と経営の安定化を図る
 - (ア) 子ども支援
 - ①年齢、発達の特徴によるクラス配置、個別指導など一人ひとりに合った環境設定を行う
 - ②季節の行事、遊びを年間、月間、週のプログラム作成に取り込み、親子で心豊かな体験活動を通して愛着形成が高められるように取り組む
 - ③発達の現状や課題を認識できる評価作成、個別支援計画作成により保護者もわかりやすく、成長の見通しが持てるようにする
 - (イ) 家族支援
 - ①親子通園、個別面談を通して子どもの出来る力を感じ、子育ての見通しを持たせる
 - ②保護者同士の仲間作りを行う保護者交流の場づくり、先輩保護者の経験談の場の提供や勉強会等での保護者の安心できる子育て環境の設定
 - ③ペアレントプログラムの定期的な実施にて家族への子どもを見る視点、とらえ方を理解させていく

(ウ) 地域支援

- ①医療、学校、保育所との情報交換、担当者会の実施により子どもを取り巻く環境を相互に理解し合い適切な支援、援助を行う
- ②保育所に入所していない地域の乳幼児期の子育て相談や交流の場としての位置づけ

(エ) 経営の安定化

- ①行政の保健師との定期的な話し合いの場を設け、検診後のフォローの必要な児の把握から親子教室への参加により利用に結び付けていく
- ②家庭連携加算、事業所内相談支援加算等の各種加算

2. 働きやすい職場環境作りと人材育成への取り組み

- (ア)療育等支援事業の活用での研修、奄美エリア内の研修、勉強会の実施
- (イ)職場目標、個別目標を通して自己の課題、役割を明確化し支援する
- (ウ)チームとしての支援体制の意識向上を図り職員同士の連携を強める

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア)自立支援協議会、学校関係、地域等の見学を積極的に受け入れ、施設の役割の理解に向けた取り組みを行う
- (イ)地域行事（豊年祭）の参加による老人クラブ、自治会、地域施設との交流を図る
- (ウ)地域の子育て力を高めるための育児支援として、のぞみ園合同の親子教室を開催する

【数値目標】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービ ス	障害児 相談支援	特定 相談支援
利用者定員	20名		10名		
利用者延べ人数	2,673名	60名	2,235名	88名	48名
一日平均利用者数	11.1名		8.0名		
稼働率	55.5%		80.0%		
稼働日数（延べ）	241日	241日	279日		
単価（一人一日当り）	12,727円	12,816円	8,504円	16,727円	16,750円
サービス活動収益（千円）	34,020千円	769千円	19,008千円	1,472千円	804千円
職員数（常勤換算）	8.4名	0.6名	4.1名	0.4名	

聖隷ケアセンター沖繩

聖隷訪問看護ステーションゆい

聖隷居宅介護支援センターゆい

聖隷デイサービスセンターゆい

2019年度は職員の離職防止に向け、センター内の体制整備、人材育成に注力し、安定した職員配置の中事業展開をすることができた。2020年度は各事業が業務の見直しや加算取得に向け取り組み、安定した経営基盤を作っていく。また、事業所間での連携を強化することで地域の中で信頼される事業所として認知されるようにしていきたい。

【事業・運営計画】

1. 職員個々の専門性を高め、地域で信頼される事業所となる
 - (ア) 目標参画システム、各種ラダー運用を確実に実施し、職員個々の目標と行動化を明確にしサービスの向上へとつなげる
 - (イ) 各方面の研修に参加しその学びを職場会で報告する
 - (ウ) 事業所種別を超えた事例検討等を実施し、課題を見つけ出す能力の育成
 - (エ) センター内の情報共有についてのツール作成・運用
 - (オ) 利用者向けアンケートを実施しそこから出た課題に取り組む
2. 職員1人ひとりが心身ともに健康でやりがいを持ち働ける
 - (ア) 各事業、業務内容の見直しや記録システムの活用を図り、超過勤務の削減、有給休暇取得のしやすい職場作りをする
 - (イ) センター会議やセンター内勉強会の定期開催
3. それぞれの事業が、経営的に自立した上でセンターとして安定した経営基盤を築く
 - (ア) デイサービスセンターゆいは個別機能訓練加算Ⅰ、ADL維持等加算算定取得にむけた取り組みの実施
 - (イ) 居宅介護支援センターゆいは特定事業所加算Ⅲ取得の継続
 - (ウ) 訪問看護ステーションゆいは訪問時間の見直し、理学療法士配置の事業所をアピールし利用者数の増加を目指す
 - (エ) 近隣病院、相談支援事業所等への営業活動
4. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 地域で実施する事業への参加 講師派遣
 - ①嘉手納町事業のゆる（認知症）カフェ 認知症サポーター講座 講師派遣
 - ②嘉手納町自治体主催の「高齢者遠足」の救護班参加の継続
 - (イ) 地域の防災訓練への参加
 - (ウ) 各専門職の実習・職場体験、ボランティアの積極的な受け入れの実施

【数値目標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーションゆい）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	平均単価	サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
44名	287件	3,442件	9,122円	31,397千円	4.1名

居宅介護支援事業（聖隷居宅介護支援センターゆい）

年間請求件数		平均単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防		
976件	288件	14,810円	4,340円	15,704千円	3.0名

通所介護事業（聖隷デイサービスセンターゆい）

月平均件数		年間件数		平均単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防	介護	予防		
416件	64件	4,996件	763件	8,470円	5,006円	46,135千円	8.0名

聖隷こども園わかば

2019年10月より保育の無償化が導入され、園への関心が今まで以上に深まる中、「量の確保・質の向上」は引き続き求められ、待機児童ゼロに向けての取り組みは続いている。1号認定を受け入れて2年目を迎えるが、2号認定の子が大半を占める中で行事等の持ち方、教育・保育の連続性等を引き続き考えながら対応したい。職員が1号認定や新2号認定について制度の理解を深めながら、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「新・キリスト教保育指針」に基づいた、教育・保育を行うことができるよう、園内勉強会を進めていくと共に、乳幼児の質の高い教育・保育の提供が子どもの将来にわたる生きる力を育む基礎となる重要な時期であることを理解し、その大事な時期に関わることを改めて考えたい。

また、職員にとって働きやすい職場作り、職員の健康維持、離職防止にも努めていきたい。そして、職員一人ひとりが社会状況の動きに関心を持ち、何が必要か考え見極めていく力をつけるとともに、今後確実に進む少子化に対し、今まで以上に選ばれる園として自園の強みを分かりやすく地域に発信していきたい。そのために、地域の子育ての拠点施設として引き続き園を開放し相談事業にも力を注ぐとともに、病後児保育事業、統合保育の推進等、関係機関・地域との連携を図った取り組みを進めていきたい。

【施設理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の教育・保育を目指す

『子ども自身に生きさせよ～自分で考え判断し行動する子ども～』

キリスト教の精神を基本理念におき、集団生活をとおして人への思いやりや優しさを、また恵まれた環境の中での様々な経験をとおして逞しい心身の成長を育む

【経営方針】

1. 入所希望のニーズに応えることで安定した運営をはかる
2. 職員一人ひとりが認定こども園への理解を深め、施設理念・園目標をもとに子ども一人ひとりの育ちを支える教育・保育を行う
3. 地域につながる子育てで支援をすることにより、地域での存在の意義を深める
4. 災害対策への取り組みに対し、見直しを行い強化を図る
5. 職員一人ひとりが資源には限りあることを理解し、エコに努める

【事業・運営計画】

1. より質の高い教育・保育を実践する
 - (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、園児の発達の連続性を考慮して、0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していく
 - (イ) 乳幼児が主体的・対話的・深い学びが出来るよう、保育者の関わりについて学びを深めるとともに、継続的に遊びが展開できるような環境作りを進め、発達に即した教育・保育内容の充実を図る

(ウ) 年齢ごとのクラスを基本に、異年齢グループ・少人数グループでの保育の実践をとおり一人ひとりの発達に即したよりきめ細やかな保育を行う

2. 保育職としての専門性を高める

(ア) 園内研修の充実をはかり、職員一人ひとりが園の理念・目標を理解し、教育・保育の実践を行う

(イ) 保育職ラダー・目標参画・自己評価を用いて、自己の課題を明確にした上で教育・保育を実践し、評価を行い、改善点を更なる向上につなげる

(ウ) 職員一人ひとりが専門性の向上のため研修等に積極的に参加できるよう支援する

3. 様々な視点から保育環境の充実を図る

(ア) 食育の推進

管理栄養士・調理師と連携を図り、野菜栽培やクッキング等の体験や、日常の保育の中に食育を意識した活動を多く取り入れる

(イ) 子育て、親育て支援

園だより・クラスだより・連絡ノート・ドキュメンテーション・フォトラーニング・ホームページ・掲示板・懇談会等を通して教育・保育内容・子どもの育ちを保護者に分かりやすく発信し、育ちを共有していく

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 園庭開放、育児相談、子育て支援ひろばの充実をはかり、子育てに悩みを抱える方の相談、安心して過ごせる場の提供を行う。子育てや子どもの成長に喜びを感じ、親としての成長を実感することでより良い親子関係を築けるよう支援する。また、地域に出向く出張ひろばを通し、地域の子育て力向上に寄与する

(イ) 中高生の職場体験の受け入れや近隣施設の高齢者との世代間交流を積極的に図り次世代を担う若者の支援や高齢者の生きがい作りに貢献する

【数値指標】

利用者数	定員	206名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童 入所率 88.3%	入所数 4/1 現在	14名	30名	36名	36名	35名	31名	182名
		内、1号認定				3名	2名	0名	5名
		内、障がい児	0名	0名	0名	0名	3名	1名	4名
		年間入所延人数	216名	360名	432名	432名	420名	372名	2,232名
特別 保育	年間利用延人数	延長保育							1,440名
		障碍児保育							960名
		一時預かり保育							100名
		病後児保育							240名
		地域子育て支援拠点事業							2,500名
職員数 (常勤換算)			施設長	保育士	看護師	栄養士	調理師	事務他	計
		正規職員	1.0名	21.0名	1.0名	0名	0名	0名	23.0名
		パート・アルバイト	0名	10.5名	0名	0.4名	3.9名	3.8名	18.6名
		計	1.0名	31.5名	1.0名	0.4名	3.9名	3.8名	41.6名

聖隷こども園桜ヶ丘

2019年10月から幼児教育・保育の無償化が始まった。これは、生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育・保育の役割の重要性と、子育てや教育の費用負担の軽減を図るといった少子化対策の観点から実施したものである。また、課題である待機児童を解消し、「子育て安心プラン」に基づき、受け皿整備を着実に進めている。園としては、引き続き待機児童解消の為に積極的な受け入れを行う。

2017年度から保育システムが導入されている。システムの使い方を見直しながら、業務の改善と効率化を行い、働きやすい職場環境作りにつなげていきたい。

乳幼児期は人生の根幹となる一番重要な時期である。子どもたちの心の動きを感じとりながら、「一人ひとりを大切にする保育」について職員間で語り合い、発達段階をおさえた具体的な子どもとの関わり方を学び、職員の育成に力を注いでいく。また、キャリアアップ研修、園内外の研修に積極的に参加し、職員のスキルアップと、教育・保育の向上を図っていく。

【施設理念】

1. 子どもたち一人一人が愛され受け入れられて愛することを知る
2. あそびや体験を通して心身を育て、子どもたち一人一人の個性を伸ばしていく

【経営方針】

1. 職員一人ひとりがこども園への理解を深め、入園希望者のニーズを理解し、応えることで安定した運営をしていく
2. 職員一人ひとりが、園目標を基に質の高い保育を実践できるよう、職員の資質向上を目指す
3. 信頼され、選ばれる園となるよう園内外の保護者支援に努める
4. 地域に信頼される園となるべく、地域との交流を深めて地域貢献を図る

【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスを提供する
 - (ア) 施設理念・教育保育課程・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基に、PDCA サイクルを用いて園児個々の発達に則した計画立案、実践する
 - (イ) 園児の成長発達に合わせ、主体的に過ごせる環境を整え、園児一人ひとりが安心して自己発揮できるような関わりに努める
 - (ウ) 保育職ラダーを活用し、職員個々の課題の明確化、スキルアップと共に各自が自分の役割を理解し、キャリアアップを目指しながら職員全体の資質向上を図る
2. 安定した運営の意識を持つ
 - (ア) 職員一人ひとりが施設の設備を丁寧に扱い、省エネルギーやエコロジーを心がける
 - (イ) 地域や子育て家庭のニーズを掴み、親子ひろばや一時預かり事業を積極的に行う。また運営への意識を持ち、地域の入所ニーズの把握に努める

(ウ) 働きやすい環境整備、並びに計画的な業務推進により、職員の心身の健康維持に努める

3. 地域における公益的な取組

(ア) 中高生の職場体験やボランティアを積極的に受け入れ、次世代育成に貢献する

(イ) 親子ひろばや園見学等で来園される親子への理解を深め、職員が専門職としての意識を持ち丁寧に関わることで保護者支援に努める

(ウ) 地域の自治会やシニアクラブ、近隣施設と交流を図り、相互理解や連携、信頼関係や共助関係を構築する

(エ) 地域の子育て家庭への相談機会を提供する（3ヶ月に1度の図書館での出前相談）

4. 環境を通して教育・保育の充実を図る

(ア) 畑やプランターでの野菜栽培やクッキングを通し、季節の移り変わりを感じられるようにする。また、クッキングを通し旬の味を感じ、食べ物への興味関心へとつなげる

(イ) 管理栄養士や調理師・保育士が連携して食育活動を展開し、園児や保護者が食に対する興味を持てるようにする

(ウ) 豊かな自然環境を活かして、生き物や自然物に興味・関心が持てるような保育を展開し、豊かな感性を育む

(エ) 子どもが主体的に生活できる環境を整え、遊びや体験を通して学べる保育を展開する

【数値指標】

利用者数	定員	190名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童 入所率 88.4%	入所数 4/1 現在	9名	30名	30名	32名	33名	34名	168名
		内、障がい児	0名	0名	0名	0名	2名	1名	3名
		年間入所延人数	108名	360名	360名	384名	396名	408名	2,016名
特別 保育	年間利用延人数	延長保育							1,125名
		障がい児保育							900名
		一時預かり保育							100名
		食物アレルギー児							600名
職員数 (常勤換算)		施設長	保育士	看護師	栄養士	調理師	事務他	計	
	正職員	1.0名	17.0名	0名	0名	0名	0名	18.0名	
	パート・アルバイト	0名	8.9名	1.0名	0名	4.0名	2.5名	16.4名	
	計	1.0名	25.9名	1.0名	0名	4.0名	2.5名	34.4名	

聖隷こども園ひかりの子

2019年10月より幼児教育・保育の無償化が始まり、子ども・子育て支援新制度の見直しの議論も含め、子どもや子育てをめぐる環境は大きく変化している。また、児童虐待、子どもの貧困、大規模災害の発生や保育中の安全保障など、まさに「子どもの命を守り、豊かな育ちを支える」保育施設としての使命の重さを実感する。このようななか、保育教諭は一人ひとりの子どもの個別性に配慮し、保護者と連携して子どもの育ちを支える専門性を活かした支援が求められている。2020年度も引き続き、経験年数に応じたキャリアアップ研修や幼稚園教諭免許更新講習等の外部研修にパート職員も含めて積極的に参加することで、専門職としてのスキルアップを図っていく。また、フィンランド研修で得た学びを職員間で共有し子ども主体の保育を目指していく。

一方で喫緊の課題である保育教諭等の人材確保のため、保育業務の分業化等、業務の見直しを行っていきたい。そのために、職員間の連携と情報共有、さらには適切なリーダーシップなど園内体制を確立していく。

【施設理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる。

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業運営計画】

1. 教育・保育の質の向上
 - (ア) 教育・保育理念に基づき、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を指標として事例検討会等で具体的な学びを深め、保育実践に繋げる。
 - (イ) モンテッソーリ勉強会での学びを職員間で共有し、乳幼児期の発達と学びの連続性を踏まえ、一人ひとりの成長発達に合わせた保育実践に結び付けていく。
 - (ウ) 子どもの非認知能力を培うため、異年齢保育や少人数保育等必要に応じて保育の形態を工夫し、生活・遊びの中で、他者との交流が図れる環境（空間・時間・物等）を整える。
 - (エ) 日常の保育活動の中から行事の内容を組み立て、行事を通して一人ひとりの子どもが大切にされ、充実した主体的な楽しい活動が保障されるよう、職員間でその都度確認し合っていく。
 - (オ) 日々の保育の様子や教育・保育のねらいや意図を保護者に丁寧に伝え、保育を可視化することで相互理解を図る。

2. 保育の専門性の向上及び働きやすい職場環境の整備

- (ア) 保育職ラダーや自己評価を通じて、自己課題や役割を明確にし、必要に応じた園内外の研修に参加する。また、研修内容を職員間で共有し具体的な実践に繋げる。
- (イ) 役職・職務内容・役割に応じて業務の棲み分けを明確にし、組織的に役割を担えるようにする。具体的な業務の改善や見直しを図ることで、問題解決に取り組む。
- (ウ) 保育の記録システムを有効活用し、業務の効率化及び業務負担の軽減を目指す。

3. 教育・保育関係機関との連携

- (ア) こども園・幼稚園・小学校との連携強化を行う。市野与進こども園・与進小学校との交流（授業体験・プール交流等）に加えて、教職員同士の情報交換の場を設ける。
- (イ) 東区役所・民生児童委員・発達医療センター等の職員との情報交換・共有を図る。
- (ウ) 地域の美化活動・子育て会議・老人会との交流に参加し、地域の実態を把握すると共に、園の保育・教育内容の発信を行う。

4. 安全・危機管理に対する取り組み

- (ア) 危機管理委員会でケガの報告やヒヤリハットの検証を行い、リスク発生時の対応と予防の周知を図る。
- (イ) 感染症に関する正しい知識や情報と対応策を全職員が共有し実行する。
- (ウ) 防災委員会を中心に、災害・不審者対策の見直しを行い防災力の強化を図る。

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の子育て家庭に、集い・交流の場所を提供する。（親子ひろば・園庭解放）
- (イ) 地域の子育て家庭への相談機会の提供をする。（面談・図書館での出前相談会）

【数値目標】

利用者数	定員	230名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童 入所率 83.7%	入所数 4/1 現在	11名	28名	36名	43名	40名	40名	40名
内、1号認定		-	-	-	2名	2名	2名	2名	6名
内、障がい児		0名	0名	1名	2名	3名	5名	5名	11名
年間入所延人数		132名	336名	432名	576名	480名	480名	480名	2,436名
特別 保育	年間利用延人数	延長保育							1,500名
		障がい児保育							2,000名
		一時預かり保育							100名
		食物アレルギー児							2,400名
		親子ひろば							600名
職員数 (常勤換算)		施設長	保育教諭	看護師	栄養士	調理師	事務他	計	
	正規職員	1.0名	19.0名	0.0名	0.0名	1.0名	0.0名	21.0名	
	パート・アルバイト	0.0名	9.6名	0.7名	0.0名	3.5名	2.5名	16.3名	
	計	1.0名	28.6名	0.7名	0.0名	4.5名	2.5名	37.3名	

聖隷こども園めぐみ

子ども子育て支援新制度の施行開始に併せ、また浜松市の待機児童対策に寄与する形で開園し4年目を迎える。2019年度から1号認定の定員を設定し幼保連携型認定こども園本来の形をとり幅広い利用ニーズに応えてきた。しかし、そのための保育人材の確保が課題となった。更に、連携園として3園の地域枠児、さらに従業員枠の児の受け入れの難しさに直面した。一般枠の入所ニーズに最大限応えられないという、制度的な課題に対し定員の見直しなど抜本的な解決策を模索したい。また、制度の目的である「学校教育・保育の一体的な提供と質の向上」に向け、園内研修や保育学会への取り組み、キャリアアップ研修参加等を通して職員一人ひとりの専門性の向上を目指したい。同時に保育職ラダー・目標参画・自己評価等を人材育成に有効活用していきたい。

確実に進む少子高齢化、大きく変動する社会情勢の中で、乳幼児期の質の高い教育・保育の提供がこどもの将来にわたる生きる力を育むことに繋がっていることを職員皆で認識し、乳幼児が主体的で対話的な深い学びが展開できるような環境をつくるなど発達に即した教育・保育内容の充実を図りたい。そして、「親子ひろば」を通して地域の子育て支援、働く保護者をサポートする病後児保育事業、統合保育の推進への取り組みなど地域の中での存在意義を高めていきたい。

【施設理念】

「隣人を自分のように愛しなさい」

マタイによる福音書 22 章 39 節

「わたしがあなた方を愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」

ヨハネによる福音書 13 節 34 節

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上

- (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づき、園児の発達の連続性を考慮して、0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していく。聖隷こども園めぐみの「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」の確認、共有化をするために、年間、月間指導計画や日誌等と関連付けて作成、記録し会議の中でお互いに実践報告しながら意見を出し合い保育の質向上に努める。
- (イ) 聖隷の保育の基本となるキリスト教保育を主に、モンテッソーリ教育の勉強会、園内伝達研修を通して、より具体的に学ぶ。
- (ウ) 園内外の研修に積極的に参加し、お互いに報告する中で共有化しながら教育・保育の質を高めていく。

- (エ) 聖隷保育学会は、職員が主体的に疑問や課題を見付けて、解決するために互いに取り組み、乳幼児の教育・保育の醍醐味や達成感を味わう。
- (オ) 保育職ラダーや自己評価を通して、自身を客観的に評価できるようにする。苦手とする項目を意識し、改善し、レベルアップを目指す。

2. 和合せいれいの里の施設利用者との交流・聖隷めぐみ保育園との連携をすすめる

- (ア) 恵まれた環境（高齢者、障害児者、乳幼児など色々な人が身近で生活している）を最大限にいかす。聖隷の理念とあわせて「共生社会」のあり方を確認しながら交流を行う。
- (イ) 聖隷めぐみ保育園とは行事の合同開催、土曜日共同保育等を通して連携をすすめる。

3. 子育て支援と地域における公益的取り組み

- (ア) 在園家庭、及び地域の子育て家庭への育児相談や育児講演会を行う。
- (イ) 中高生の職場体験やボランティアを積極的に受け入れ、次世代育成に貢献する。
- (ウ) 小学校の長期休み期間中の学童保育・学習支援を聖隷めぐみ保育園と共同で行う。
- (エ) 子どもの生活リズムを整えるために、長時間就労、一人親家庭の夕食の提供支援。

4. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

- (ア) 保育浜松エリアで保育システムの使い方を再検討し、業務省力につなげていく。
- (イ) 処遇改善に伴う役割をもとに組織を体系化し、部門ごとに会議等を実施、職場内の問題解決に向けて具体的に取り組みをすすめる。現場の声がいかされる風土づくり、働きやすい職場の環境づくりを目指す。

利用者数	定員	166名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	年間児童 入所率 92.1%	入所数 4/1 現在	4名	24名	24名	34名	34名	33名	153名
		内、1号認定	-	-	-	2名	2名	0名	4名
		内、障がい児	0名	0名	0名	0名	3名	2名	5名
		年間入所延人数	108名	288名	288名	408名	408名	396名	1,896名
特別 保育	年間利用延人数	延長保育							1,200名
		一時預かり保育							120名
		障害児保育							1,200名
		食物アレルギー児							1,200名
		病後児保育							100名
職員数 (常勤換算)			施設長	保育士	看護師	栄養士 調理師	保育 補助	事務他	計
		正規職員	1.0名	20.0名	-	(委託)	-	-	21.0名
		パート・アルバイト	-	5.0名	0.9名	-	3.0名	1.6名	10.5名
		計	1.0名	25.0名	0.9名	-	3.0名	1.6名	31.5名

聖隷浜松病院ひばり保育園

聖隷浜松病院の看護師・医師の子どもの入所希望が増加していることから、2019年度には保育室の増築工事、園庭整備が行われた。そして2020年4月より、145名から200名へと定員が変更される。地域枠の定員は20名のままで、従業員枠の定員が125名から180名になる。これにより、今まで従業員枠の入所対象は看護師・医師の子どものみとなっていたが、聖隷浜松病院で働く全職種へと変更されることとなる。

2018年4月より児童クラブ“アイビー”が本格始動し3年目に入る。利用希望児の増加に伴い、送迎ルートを増やして対応している。児童クラブに関しては教会内で運営をしていたが、改築工事により園舎の2階に新たに学童室が設置され、定員を40名に増やして保育園児と同じ園舎内の生活が開始される。

新しい環境、そして定員が増える中で子どもたちに必要な保育・教育を展開していくために、保育者の専門性が今以上に求められる。保育所保育指針やキリスト教保育の園内研修を充実させ、保育者一人ひとりの資質の向上を図る。又、働きやすい職場環境をつくるために、時間の使い方や書類の精査をしていく。

【施設理念】

- ・キリスト教精神を基本理念として関係法令を遵守し、新保育所保育指針やキリスト教保育指針にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の保育・教育を目指す。

【経営方針】

- ・職員の資質向上を図り、利用者との信頼関係を構築して利用増（特に幼児クラス）に繋げる。
- ・保育所保育指針、キリスト教保育の理解を深めるために、園内研修や自己研鑽できる環境をつくる。
- ・子どもたちが主体的に生活、遊びが展開されるよう、必要な玩具や備品を揃える等の物的環境を整える。
- ・地域や小学校との連携を図り、子どもたちの育ちを支える。

【事業・運営計画】

1. 質の高い保育サービスの提供

- (ア) 新保育所保育指針への理解を深め、教育に視点をあてた活動を展開する。
- (イ) 自己評価を行い、園の強み弱みを把握して改善に努め、利用者還元する。
- (ウ) 聖隷のこども園・保育園と連携を図り、情報交換保育士交換や保育学会での学び合いを深め、自園の保育に生かす。

2. 専門性の向上を図る。

- (ア) 研修計画に沿って園外研修への参加を促進して学びの機会を増やすとともに、キャリアアップを図る。

(イ) 保育職ラダーや目標参画システムを活用し、個々のスキルアップを図る。

(ウ) 園内研修を充実させ、職員の自主性を育む。

3. 職員の働きやすい環境づくり

(ア) 業務内容や会議体の見直しを図り、時間の使い方を精査する。

(イ) 風通しのよい職場風土づくりをするためにも、お互いに活発な意見交換ができるような環境を整える。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 育児講演会や人形劇などの催しを企画し、回覧板やHPなどで子育て家庭に参加を呼び掛ける。

(イ) 防災訓練や文化展などに参加、出品し、地域との連携を深めて自助共助につなげる。

【数値指標】

		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
従業員枠 定員 180名	入所数 4/1 現在	7名	20名	34名	9名	13名	18名	101名
	年間延人数	200名	300名	408名	108名	156名	216名	1,388名
地域枠 定員 20名	入所数 4/1 現在	2名	6名	5名				13名
	年間延人数	60名	72名	60名				192名
職員数 (常勤 常換算)		施設長	保育士	看護師	保育助手	栄養士	用務/事務	計
	正規職員	1.0名	23.0名		1.0名		0名	25.0名
	パート・アルバイト		6.2名	0.8名	0.9名	0	1.7名	9.6名
	計	1.0名	29.2名	0.8名	1.9名	0	1.7名	34.6名

聖隷のあ保育園

2019年4月1日より、定員19名の小規模保育事業A型施設として開設し、2020年度は2年目をむかえる。市街地の中心部に位置し、待機児童対策、近隣企業で働く保護者、近隣の子育て家庭の支援を併せて行ってきた。初年度は利用者が安心して預けられ信頼が得られるような保育内容の充実を図ると共に、利用者や地域のニーズの把握に努めた。2020年度はニーズに合わせた援助の継続、保護者支援に力を入れていきたい。少人数の園の特性を活かした、より質の良い保育の提供を目指すこととする。

連携施設である「聖隷こども園めぐみ」「聖隷こども園ひかりの子」とは食事提供や土曜共同保育などにおいてスムーズな連携を図ることを今後も継続する。更に「聖隷こども園ひかりの子」とは土曜共同保育だけでなく夏季等の特別保育期間の共同保育を進めていきたい。

【施設理念】

1. 子どもたち一人ひとりが愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てができるよう支援する。

【経営方針】

1. 保育の基盤をキリスト教に置き、子ども一人ひとりが心身共に豊かな成長発達ができるよう丁寧な保育を行う。
2. 定員19名という少人数の園の特性を生かし、乳児期の心身の発達に必要な十分に養護の行き届いた環境を整えていく。
3. 在園、地域の子育て家庭が豊かな環境で子育てできるように、保護者の就労、子育て状況を把握し、子どもの成長発達と併せて保護者支援を行っていく。

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上。利用者に質の高い保育・保護者支援を行う
 - (ア) キリスト教保育を基盤に聖隷の保育を形づけていく。
 - (イ) 小規模保育事業、乳児保育に関する外部研修に参加し、研修内容を職員間で共有する。園内勉強会で自園の研究を深めると共に、キリスト教保育について学びを深める。そして、懇談会等で保護者と共有し、子育て支援につなげていく。
 - (ウ) 養護と教育が一体になった保育を、子どもの成長発達に関連付けて行うために、常に子どもを観察し、子ども理解をするよう努める。丁寧な関りを大切にする。
 - (エ) 保育環境を子どもの発達と併せて考え、環境と保育内容を常に見直し改善していく。少人数の乳児保育の大切さを心に留め、利点を生かした保育を行う。
2. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくりを目指す。
 - (ア) 保育システムを活用し、業務省力につなげる。併せて必要なものの精査をしていく。
 - (イ) 職員間でお互いにコミュニケーションをはかり、報告、連絡、相談を徹底する。

- (ウ) 職員が働きやすい環境を整え、心身の健康維持に努める。
- (エ) 連携園である「聖隷こども園ひかりの子」との共同保育にあたり協力体制を整える。

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の子育て家庭のニーズを探り、保護者理解、育児支援に努める。
- (イ) 地域に向けて園の情報を発信したり、自治会との交流を通して認知度を上げる。

【数値指標】

利用者数	定員	19名	0歳児	1歳児	2歳児	合計
	4/1入所児童予定数		5名	7名	6名	18名
	年間入所延人数		62名	84名	72名	218名
職員数		保育士				
	正規職員	6.0名				
	パート	2.4名				
	計	8.4名				

こうのとりの保育園

日本の少子高齢化と人口減少の進行は、これまでの推測を超える厳しい状況にあり、国や社会の存続に大きな影響を及ぼす、先送りすることのできない重要課題となっている。2019年10月1日から、子育て家庭の負担軽減のために、幼児教育・保育の無償化が始まった。一方で、保育現場では保育の人材不足等が深刻な課題となっている。国を挙げて進められている「働き方改革」には課題も多く、現場を担う保育士等の人材確保が困難な状況で保育の質を落とすことなく施設運営をしていく難しさを感じている。ただ、課題解決を待つだけではなく、時間の使い方やチーム力強化といった視点で、自分たちの保育を考えていく必要があると考える。

【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』マタイ福音書 22:39

『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい』ヨハネ福音書 13:34

【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む
2. ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 保育の質向上への取組み

- (ア) 子どもの最善の利益を考え、保育者一人ひとりが、保育理念・保育目標を理解して保育実践にあたる
- (イ) できたできないで子どもを評価するのではなく“子どもが何を体験しているか”の視点を持って“何が育っているか”を職員同士で考え合う機会を定期的に持ち、育ちの連続性を視野に入れ、学びに向かう姿勢や人間性を豊かに育てていく
- (エ) 統合保育の実践
 - ①障がい児を対象とした一時保育「こひつじ保育」では、日々の生活の中で在園児との交流を行い、保護者や子どものニーズを踏まえ計画的に保育を行う
入園希望の児童については、特に個別に専門機関と連携しながら、保育を進めていく
 - ②「磐田市発達支援センターはあと」の巡回相談を積極的に利用し、積極的に働きかけ、専門的な観点の理解を深め、個別・集団における保育（療育）の実践に繋げる
- (オ) 歳児・異年齢別クラスを、更に少人数に分けたきめ細やかな保育の実践
 - ①異年齢保育や少人数保育を行う意義・目的・効果について、具体的場面を通して共有化し、職員同士が語り合い、課題に向き合い、経験年数の少ない職員の理解に繋げる
 - ②乳幼児期の養護と教育を一体的に考え、発育を促すための心地よい生活を基盤に、ひ

とり一人の成長に合わせた保育環境を整える

2. 利用者（保護者と子ども）を中心に置いた子育て支援

(ア) ひとり一人の育ちを丁寧に観ることで、“子どもが何を経験しているか”の視点で“何が育っているか”について懇談会等を利用し保護者と一緒に考え合う機会を持つ

(イ) 「親育て」を基本とし、保護者向けに講演会を企画し、保護者と共に職員も専門性を磨く

3. 職員の専門性を高め、働きやすい職場環境の整備

(ア) 資格のある職員と資格のない職員がそれぞれに役割分担し、職員の振り返りをもとに、仕事の時間の使い方の見直しをチームで行い、組織運営に役立てていく

(イ) 部会の中で、牧師を交えてキリスト教保育勉強会の時を持ち、職員が発題し、職員同士が同じテーマで話し合い、意見交換をする中で、同僚同士の「関係の質」を高めていく

(ウ) 人材育成のツールとして保育職ラダーを活用し、職員の専門性を高める

(エ) 園内学会及び保育学会を活用し、専門職としての意識向上を図る

(オ) キャリアアップ研修を受けた専門リーダーの組織における役割を考え活かせる場を作る

(カ) パート職員の意見を反映させる場を作り、その内容について丁寧に応えていく

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 2021年度以降のことも視野に入れ、地域の子育て中の母親たちがどんな思いを抱えているかを聞き取り、支援センターに反映させていく

(イ) 地域住民や小中高校生との交流など多世代の方たちが子育てに関わる機会をつくる

【数値指標】

利用者数	定員	120名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	
	年間児童 入所率 118.8%	入所数 4/1 現在	7名	23名	26名	26名	27名	25名	134名	
		内、障がい児	-	1名	1名	1名	-	1名	4名	
		年間入所延人数	181名	282名	312名	312名	324名	300名	1,711名	
	特別 保育	年間利用延人数	延長保育							1,500名
			障がい児保育							880名
			一時預かり保育							900名
			休日保育							200名
			病後児保育							50名
			食物アレルギー児							1,200名
学童保育							400名			
地域子育て拠点事業							3,000名			
職員数 (常勤換算)		施設長	保育士	看護師	栄養士・調理師		事務他	計		
	正規職員	1.0名	15.0名	1.0名	-	1.0名	-	18.0名		
	パート・アルバイト	-	14.8名	-	(0.1名)	2.7名	4.3名	21.8名		
	計	1.0名	29.8名	1.0名	(0.1名)	3.7名	4.3名	39.8名		

聖隷こども園こうのとり東

放課後児童クラブ“オリーブ”

2020年度は、2019年度に行った園庭拡張により、園児が積極的に身体を動かすことができる環境をつくり、発達の連続性を意識した体力づくりを実践する。また、体験、体感、体得を基盤に教育・保育を展開していく為、引き続き園内外の研修や勉強会、日常活動の振り返り等を通して職員の研鑽につなげる。また、新規施設の増加に比例し、経験の少ない職員が多くなる為、リーダーへの意識付けと役割を明確にし、人材育成に力を入れる。

放課後児童クラブオリーブは、職員体制が安定し、保護者にもクラブの目的や過ごし方が理解されてきている為、保育内容の更なる充実を図る。

【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』 マタイによる福音書 22:39

【経営方針】

1. 一人ひとりが愛される経験を通して愛する心を知り、互いが大切な存在であることを認めながら生活する環境を作る。
2. 生活、あそび等の豊かな経験を通し創造性や意欲を育てる。
3. 地域のお年寄り、子育てサークル、多文化交流センターとの繋がりの中で、豊かな人間関係や感謝する心を育成していく。

【年度事業目標・年度重点施策】

1 保育の質の向上

(ア) 保育者が保育理念と保育目標を理解し「一人ひとりを大切にする保育」を実践する

- ① 子どもの主体性や探究心が発揮されるように、保育環境を研究し保育力を向上させる。
(保育学会、園内勉強会、園内外研修等)
- ② ワクワクするあそびの提供や子どもの表現したい気持ちを引き出す保育等を実践できるスキルを身につける。
- ③ 保育職ラダーや目標参画（自己評価）を実施する事で、職員個々の目標や役割を明確にし、発揮する事で更なるスキルアップにつなげる。
- ④ 会議や書類を見直すことで業務の仕分けを実施し、職員一人ひとりが、“本来やりたいことができる”環境を整える。

(イ) 保護者支援を実践する

- ① 総会、懇談会、行事等を通して、保護者に対して保育理念や保育目標に基づいた実践事例を提示することで、子どもの様子や成長を伝える。また、園便り、クラス便り、ドキュメンテーションを活用し、国籍を問わず解りやすく子どもの様子を伝える。
- ② 子どもに対して不適切な言動が見られる保護者へは、声掛けや身支度の援助を通して不安を探り、具体的なアドバイスを実施する。また、懇談会を充実させることで子育ての楽しさを共有する。
- ③ 愛着形成の重要性や幼児期に必要な関わり方を、触れ合い遊びや絵本の読み聞かせを通して共有する。

2 統合保育・他機関との連携

- ① 保護者と保育者が、障がい児を受け入れる目的を共有し、療育との連携を図る。
- ② 虐待が疑われる家庭や精神障害のある保護者の問題は、必要に応じて園と専門機関が連携し、子どもの安全と情緒の安定を確保する。

3 食育の推進と環境

- ① 栄養士、調理師、保育士が連携を取り、野菜づくりや親子クッキング等の活動を通して、子どもや保護者の食への関心を向上させる。

4 地域における公益的な取組

- ① 畑や田んぼでの活動を通して高齢者とながらを持ち、行事参加等で交流を図る。
- ② 看護師による地域の方への健康管理（血圧測定・健康体操指導）を年2回実施する。
- ③ 年16回園解放を実施し、「こども園での生活」、「遊びの経験」、「身体測定」「歯科講習」等の行事を通して育児相談の場を提供する。

5 放課後児童クラブ“オリーブ”

問題行動のある児童は、必要に応じて懇談会や面接を実施することで、家庭との連携を強化し児童理解につなげる。また、遊びと学習の時間を自身で考えるなど、主体的に生活ができる児童が増えている為、充実した生活ができるように環境整備を推進する。

定員：40名

対象児童：市内1年生～6年生 児童予定数：通常36名（夏休み：45名）

対象小学校：原則・・・東部小、田原小、福田小 *田原・福田については送迎車利用

【数値指標】

利用者数	定員	215名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	
	児童 入所率 95.7%	入所数 4/1 現在	9名	33名	30名	41名	40名	40名	193名	
		障がい児				0名	0名	0名	0名	
		外国人	1名	2名	5名	0名	4名	3名	15名	
		年間入所延人数	183名	396名	360名	492名	480名	480名	2,247名	
	特別 保育	年間利用延人数	延長保育							1,200名
			乳幼児保育							756名
			一時保育							250名
病後児保育							60名			
放課後児童クラブ“オリーブ”							8,640名			
食物アレルギー児							1,440名			
外国人保育							3,840名			
職員数		施設長	保育士	看護師	管理栄養士・調理師	事務他	計			
	正規職員	1名	19名				20名			
	パート・アルバイト		18名	1名		3名	7名	29名		
	計	1名	37名	1名		3名	7名	49名		

聖隷こども園こうのとり豊田

2020年4月より磐田エリアに新設園が加わり、こども園が3園、保育園が1園の計4園となる。それに伴い、職員の採用と異動が例年よりも多く、新しい職員体制で教育・保育がスタートする。

教育・保育は、園児が入園してから卒園するまで全ての在園期間に対して行われることを念頭に、連続性を持って計画や実践を行う。そのため、職員間の話し合いや情報共有を様々な方法で行い連携を図る。園児一人ひとりの興味や関心、成長や発達等を子どもの姿より多角的に捉え、個に応じた援助を行う事で多様性を認め合いながら共に育ち合う環境を作る。研修や園内の勉強会等を通して、職員一人ひとりが自己研鑽できる職場環境の整備や支援を行い、園全体の質の向上につなげる。また、これまで以上に磐田エリアの他施設（こども園・保育園）との連携強化を推進する。

【施設理念】

キリスト教を基本理念とし

『わたしがあなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい』ヨハネ福音書13:34

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在である事を知る
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てができるように支援する

【事業・運営計画】

1. 教育・保育の質向上への取り組み

(ア) 教育・保育理念を理解し実践する

- ① ゆるやかな育児担当制保育を継続し、園児（特に乳児）が自分の生理的リズム、発達や行為のテンポに応じて見通しを持ち、主体的に生活できるよう援助する。
- ② 成長や発達、興味や関心を子どもの姿より捉え、書籍等も参考にして遊びの環境を整える。
- ③ 幼児教育の在り方を『幼保連携型認定こども園において育みたい資質・能力』と引照して職員間で学びの時を持ち、計画し実践する。

(イ) 家庭と連携して子育てを共有する

- ① 連絡帳やビデオを通して、日々の保育の様子や教育及び保育の意図を丁寧に伝えることで保護者との相互理解を深める。
- ② 保育参加を推奨し、園での子どもの様子や友達との関わり、教育・保育の可視化を行い、保育参加後に面談を通して子どもの育ちを共有する。

2. 保育の専門性を向上と働きやすい職場環境の構築

(ア) 教育・保育に必要な知識と技術を習得する為に、外部専門研修へ積極的に参加し、園内で情報共有を行うことで、保育の幅を拓き具体的な実践につなげる。(キャリアアップ研修・実技研修・海外研修・給食研修・衛生管理研修等) また、園内研修(ビデオカンファレンス・グループディスカッション)を通して、教育・保育について語り合う環境を

作り協働性を育む。

(イ) 人材育成ツールとして保育職ラダーや自己評価を活用し、具体的な保育力の向上を図る。

(ウ) 業務効率化を推進する為に、問題の本質を見極め、業務の仕分けを実施する。

3. 統合保育・専門機関との連携

(ア) 発達の気になる子や「こひつじ保育」(発達に偏りのある子どもを対象とした一時預かり)は、子どもの育ちの背景や保護者の意向を踏まえて、個別の支援を実施する。

(イ) 必要に応じて磐田市の保健師、「磐田市発達支援センターはあと」や「聖隷こども発達支援センターかるみあ」と連携を図り、子どもへの関わり方や保護者へのアプローチ方法を学ぶ。

(ウ) 小学生と園児の交流や小学校教諭との情報交換会を行い、互いに教育の理解を深める。また、小学校教育との更なる円滑化を図る為に、参観等を計画し実践する。

4. 地域に根ざした取り組み

(ア) 定期的な園庭開放を行い、必要に応じて地域の子育て家庭への助言や相談を行う。

(イ) 学童保育を継続し、在園児との交流を深めながら学習する習慣を身に着ける。

(ウ) 地域ふれあいクラブとの交流を継続的にを行い、地域の中で子育ての場を作る。

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域の子育て家庭を対象に、保育教諭や管理栄養士等の専門的育児講座を企画する。
(離乳食講座・BPプログラム等)

(イ) 小学校、中学校、高等学校が実施する乳幼児との触れ合いや交流に、こども園が積極的に協力し、次世代育成支援の一端を担う。

【数値指標】

利用者数	定員	155名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童 入所率 114.3%	入所数 4/1 現在	8名	24名	30名	35名	34名	35名	166名
		内、1号認定				5名	2名	1名	8名
		内、障がい児	0名	0名	0名	1名	0名	1名	2名
		内、外国人	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	年間入所延人数	156名	279名	336名	420名	408名	420名	2,019名	
特別 保育	年間利用延人数	延長保育							2,000名
		乳幼児保育							850名
		一時預かり保育							350名
		学童保育							2,300名
職員数 (常勤換算)			施設長	保育教諭	看護師	栄養士	調理師	事務他	計
		正規職員	1.0	16.0	0.0	0.0	1.0	0.0	18.0
		パート・アルバイト	0.0	13.6	0.8	0.3	2.8	3.8	21.3
		計	1.0	29.6	0.8	0.3	3.8	3.8	39.3

聖隷こうのとり富丘

聖隷こども園こうのとり富丘

聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘・聖隷訪問看護ステーション富丘

日本の少子高齢化と人口減少の進行は、これまでの推測を超える厳しい状況にあり、国や社会の存立の基盤に大きな影響を及ぼす、先送りすることのできない重要課題となっている。

2019年10月1日から、子育て家庭の負担軽減のために、幼児教育・保育の無償化が始まったが、一方で、保育現場では保育の人材不足等が深刻な課題となっている。

聖隷こうのとり富丘は、幼保連携型認定こども園と児童発達支援事業と訪問看護ステーションが合築となる日本初の施設である。法の垣根を越えて、私たちは専門職として、お互いに切磋琢磨し合って運営にあたりたい。

【施設理念】

子どもたちの“今”が未来を創る～“その人らしく・その家族らしく”未来を描けるように～

【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む
2. ひとり一人の違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 施設運営

- (ア) 職員の意見を反映させる場を設定し、安全・安心な環境をつくる
- (イ) 職員ひとりひとりの専門性を活かし、一つのチームとして多面的に利用者に関わる
- (ウ) 法人内外の研修参加、職種別ラダーを活用し、職員のスキルアップを行い、専門職としてのやりがいをつくる
- (エ) 安定した運営ができるよう、適切な職員配置、コスト管理を行う

2. 聖隷こども園こうのとり富丘

- (ア) 保育の質向上への取組みにおいては、施設理念に基づいた保育研究や保育実践を行う
- (イ) 「親育て」の観点から、乳幼児期の発育を促すための心地よい生活基盤を作ることに着目して、保護者向けに講演会を企画し、保護者と共に職員も専門性を磨く
- (ウ) できる限り少人数で保育を行い、ひとり一人の育ちを丁寧に観ることで、“子どもが何を経験しているか”を考え、何が育っているかを保護者と一緒に考え合う機会を持つ
- (エ) チームで語り合う時間を定期的に作り、同僚性を高め、円滑な人間関係を育む

3. 聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

- (ア) 客観的な指標を基に、領域を意識し療育プログラムを作成する
- (イ) 保護者が、子どもを愛しその育ちを喜びあうとともに課題に向き合う姿勢を支える

(ウ) 他機関への広報やケース連携にて、安定した利用につなげ、目標利用率を達成する

4. 聖隷訪問看護ステーション富丘

(ア) 利用者・家族のニーズに沿ったケアを実施する

(イ) 施設内、事業所内での役割が明確になり、自ら行動し、やりがい創造する

(ウ) 他機関と連携し、聖隷訪問看護ステーション富丘を認知して頂き、安定した経営を目指す

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 園庭開放を定期的に行い、保護者同士の交流の場とすると共に、子育て中の親が孤立しないように、育児相談にも積極的に関り、地域交流へと繋げる

(イ) 地域住民や小・中学生との交流など、多世代の方たちが子育てに関わる機会を作る

(ウ) 施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる

【数値指標】

利用者数	定員	129名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	年間児童入所率	入所数 4/1 現在	8名	20名	15名	25名	10名	3名	81名
	66.1%	内、1号認定	-	-	-	5名	2名	1名	8名
		年間入所児童数	147名	240名	180名	300名	120名	36名	1,023名
	特別保育事業	年間利用児童数	延長保育						
障がい児保育							768名		
一時預かり保育							200名		
病後児保育							50名		
職員数 (常勤換算)			施設長	保育士	看護師	栄養士・調理師	事務他	計	
	正規職員		1.0名	18.0名	1.0名	-	0.0名	0.0名	20.0名
	パート・アルバイト		-	3.4名	0名	0.6名	4.2名	0.8名	9.0名
	計		1.0名	21.4名	1.0名	0.6名	4.2名	0.8名	29.0名

■聖隷こども園こうのとり富丘

■聖隷こども発達支援事業所かすみあ富丘

利用者定員	10名
利用者延べ人数	2,192名
一日平均利用者数	9.2名
稼働率	92.5%
稼働日数(延べ)	237日
単価 (一人一日当り)	19,248円
サービス活動収益	42,191千円
常勤換算職員数	8.4名

■聖隷訪問看護ステーション富丘

平均利用者数	23名
月間訪問件数	89件
年訪問件数	1,066件
単価	10,606円
サービス活動収益	11,306千円
常勤換算職員数	4.8名

野上あゆみ保育園

のがみっこくらぶ にじっこくらぶ（放課後児童クラブ）

新たな体制となる中、保育の中で感じている日常の生活や活動の大切さをより意識した上で、少人数の遊びの中で育まれるもの、集団で遊ぶ中で感じる楽しさを各年齢で再度見直し進んでいきたい。

子どもが主体的に自分のやりたい事を考えていける保育環境や、保育計画の中で「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」がより日々に生かしていけるよう、子ども主体を念頭におき子どもの最善の利益を職員と共に考え守っていききたい。

【施設理念】

「あなたがたも愛によってあゆみなさい」 —エフェソ 5-2—

【経営方針】

1. 私たちが神様に愛されて生かされるように、子どもたちに愛をもって接し、愛をもって子どもたちの心と身体を守る
2. 職員と保護者が、良い関わりをもち、子どもたちの成長を共に喜び合う
3. 地域の中でたくさんの人が集い、交わることのできる保育園とする

【事業・運営計画】

1 保育の質の向上の為の取り組み

- (ア) 職員が保育理念・キリスト教保育を根底とした保育方針を理解し、子どもたちの主体性を大切にし、ひとりひとりの声や思いを保育実践に繋げていく。また、子どもや保護者の些細な違和感に気づき、早期アプローチを心がける
- (イ) 異年齢児や高齢者など多様な人々との交流を通して、子どもの視野や社会性を広げる。また、小学生の姿を職員が知ることで、保育の中での課題等を見出していく
- (ウ) 子どもたちの様子や育ちについて、保護者と気軽に話し合える場や懇談会の内容を検討し、有意義な時間を共有できるよう工夫する。また、個別支援を要する児童の保護者と、園での姿を共有できる時間を積極的に設ける
- (エ) 園の理念や思いを、保護者に伝えていくことを意識していく
- (オ) 日々の食に興味を持ち、栄養士の協力を得ながら食育への取り組みを行い、野菜の栽培や収穫を通して、成長や味の違いが感じられるような機会を継続的に設ける
- (カ) 学童保育（のがみっこくらぶ・にじっこくらぶ）は、小学校との情報交換や共有を行っていく。また、子ども達の安心できる生活の場となるよう意識を持ちつつ、保護者と共に考える姿勢を持ち、子どもの育ちを支えていく
- (キ) 保育園と児童館が連携をとり、地域の方も参加ができる保育活動やイベントを企画する
- (ク) 職員会議・パート会議の在り方を検討し、個々の思いや考えを伝え合えるような機会を取り入れていく

- 2 施設の防災力の強化
- (ア) 自園の防災力強化を図るため、訓練等の見直しと共に逆瀬川あゆみ保育園や自治体との総合訓練を実施し、地域の災害拠点としての動きを考える
- (イ) 引き取り訓練の内容を検討する
- (ウ) 危機管理委員会で、ケガ報告やヒヤリハットの検証を行い職員間で周知する
- 3 地区聖隷施設との連携
- (ア) 子どもたちと高齢者の交流を推進する（聖隷逆瀬川デイサービスセンター・宝塚エデンの園・宝塚栄光園）
- 4 「人づくり」への取り組み
- (ア) 研修への参加など
- ① 職員が専門性を高めるための研修に積極的に参加
 - ② 聖隷保育学会・事業団主催の階層別研修・あゆみ合同研修・海外研修に参加
 - ③ 逆瀬川あゆみ保育園の4歳児受け入れに向けての交流・引継ぎを実施
 - ④ 園内研修で記録や発表を経験する中で、自主性や積極性を養い保育の質の向上を目指す(非常勤職員の積極的な参加)
 - ⑥ 保育士ラダーの活用により、目的意識の明確化を図る。日々の保育をお互いに確認し合うなど保育の振り返りを実施
- (イ) 次世代育成
- ① トライアルウィークの中学生や高校生ボランティアの受け入れを実施する。実習生を積極的に受け入れ採用へつなげる
- 5 地域における公益的な取り組み
- (ア) 散歩時に地域の公園でゴミ拾いを実施する（幼児クラス）
- (イ) 地域子どもと在園児が参加できる積み木遊びを実施する

【数値指標】

利用者数	定員 90名		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
	児童入所率 115.5%	4/1 現在	6名	14名	15名	15名	26名	27名	104名
		障がい児					2名		2名
		年間入所延人数	108名	168名	180名	180名	336名	324名	1,296名
特別保育	年間利用延人数	一時保育事業							1,498名
		延長保育事業（月平均）							156名
		障がい児保育							320名
		子育て支援事業							200名
職員数			施設長	保育士	看護師	調理	助手	事務	計
	正規職員		1名	16名	1名			1名	19名
	パート・アルバイト			6.7名			1.7名		8.4名
	計		1名	22.7名	1名		1.7名	1名	27.4名

野上児童館

地域の中の「児童館の役割とは」を再度職員、一人ひとりの思いや考えを聞きながら進んでいきたい。プログラムの提供だけではなく、保護者が自ら動いていく事をサポートする意識を持ち、児童館として可能な支援方法を考える年度としたい。

また、行事やプログラムのねらいを今以上に明確にし、担当だけでなく職員全員が共有して取り組むことで、つながった職員集団を作っていくことを目指したい。

【施設理念】 地域の中で信頼され、愛される児童館を目指す。

【経営方針】

1. 来館者と職員が関わる中で、互いの信頼を築き、遊びの楽しさ、おもしろさを感じてもらいながら、いつでも気軽に相談ができるようなあたたかい雰囲気作りに努める
2. 地域のもつニーズを把握し、それに合ったプログラムを企画推進する。そして、子どもや、子育て不安を抱える保護者の心やすらぐ児童館、地域の子育て支援の拠点を目指す
3. 関連する地域の諸機関との協力、連携により、子どもをとりまく様々な課題解決を図るためにコミュニティーワークを進めながら、地域の方が自ら動いていけるようなサポートを考えていく

【事業・運営計画】

1. サービスの質の向上

- (ア) 乳幼児・小学生向けのプログラムや自然体験等、様々な活動を企画する
- (イ) 年間のテーマを持ち、食育に積極的に取り組む
- (ウ) 「ホールで遊ぼう」のプログラム内容を検討し充実を図る
- (エ) 玩具やゲーム等、利用者が興味を持って遊べる環境作りを目指す
- (オ) ランチタイムを土曜日・長期休業時に実施することでサービスの向上を図る
- (カ) 児童館・保育園・学童保育が協力してイベントを行う
- (キ) 毎月第3水曜日に19:00まで開館延長を行い、中高生の居場所作りを行う

2. 地域との連帯の強化

- (ア) 小学校、中学校、自治会、まちづくり協議会などとの関わりを深め、情報の共有を行い子育て力の向上を目指す
- (イ) 出前児童館事業は、場所、時間帯を再考し、さらに地域の協力を得ながら、ニーズに見合った実施を進め定着させる
- (ウ) 地域の夏祭り等、児童館として参加することで遊びを提供し、地域の協力や参画を得る
- (エ) 来館者の悩みや思いに寄り添いつつ、児童館としての支援方法を模索する

3. 職員の資質向上

- (ア) 宝塚市児童館交流研修等へ積極的に参加をする
- (イ) 子育て支援研修などより専門性を高めるための研修へ参加する

【数値指標】 ひろば型3名 出前児童館3名

逆瀬川あゆみ保育園

2019年度から取り組み始めた「発達と玩具」の研究については2020年度も継続していく。併せて主体性を育む保育、子どもの一人一人の興味関心に添った保育が実践できているか、子どもの「やってみよう」という意欲にどこまで応えられているかを園全体で考えていく。

幼児の保育料無償化が始まったが、これは少子化対策と共に幼児教育の重要性から実施されたものであることを念頭において3歳児クラスの保育・教育に取り組んでいく。

パート会議（勉強会）を実施し、保育士の質の向上と横のつながりを大切にしていく。

2019年も電車の計画運休が出るほどの台風があった。今後は、あらゆる可能性を想定して防災対策の強化を図っていく。

【施設理念】 キリスト教保育 「愛によって歩みなさい」

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、ひとりひとりが大切な存在であることを知る
2. ひとりひとりの違いに気づき、認め合い共に生活する
3. 楽しい環境の中で主体性、創造性を育む

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上

(ア) 保育の基本方針について職員理解の統一を図る

- ① 保育理念、施設目標を確認し、「主体性を育む保育」の浸透をめざす。
- ② 適切な声の大きさや丁寧な言葉使い、穏やかな関わりなどを保育者が実践し、主体的に行動する。
- ③ 子どもの今興味・関心があることに目を向け、スピード感を持って環境を整える。

(イ) 保育者として基本に立ち返る

- ① 学習会を実施し、定型発達の基本を学び、子どもへの適切な関わりと援助を行う。
- ② 専門性を意識し、保育を理論化して捉え、保育計画を立案していく。
- ③ 保育の基本スキルに加え、保育者としての経験から培われた柔軟性をプラスして保育に取り組む。

(ウ) 保育者研修の充実・人材育成

- ① 園内研修や「あゆみ合同研修」を実施し、子どもを観る目や専門職としての自覚と誇りを育てる。
- ② 保育者の興味にあった外部研修に参加し、学んできた事を職員間で共有する。
- ③ 保育の中での疑問や気づきを掘り下げて研究し、学会などで発表する。
- ④ 保育課程（全体的な計画）の見直しをはかり、保育の全体像を包括的に示す。

2. 保護者との交流

(ア) 保育参観や保育参加・懇談会・個別相談・送迎時の会話・おたより・連絡ノート・ドキュメンテーションボードを通して活動の様子を知らせる。

(イ) 新入園児は親子で慣らし保育を実施。その間に保育士と十分なコミュニケーション

をはかり、子どもと共に保護者との信頼関係も深める。

3. 野上あゆみ保育園・御殿山あゆみ保育園との3園連携

(ア) 合同研修や学会を通して情報交換をし、連携を図ることで共に学び歩いていく。野上あゆみ保育園は3歳児以降の受け入れ先となり、同じクラスになる3歳児や日頃接することのない4,5歳児と交流を図り、子ども達の経験を増やし安心感に繋げる

4. 地域とのつながり

(ア) 地域参加プログラム「すくすく」や、園庭開放、室内開放を通して保護者同士の繋がりを育て、育児支援をしていく。プログラム内容は、子どもの発達に関する内容を提案し、保護者の子育ての悩みに応えていく。

(イ) 一時保育は、年々増える子育てに難しさを抱える保護者の支援も行っていく。受入れ状況は、ホームページを利用して随時知らせていく。

5. 食育

(ア) 栄養士を中心に、保護者に向けて行事やお便りを通して食に関する情報の発信を行う。

(イ) 栽培やクッキング、食べ比べ、給食を通じて旬の食材の名前や役割や味、食べることの楽しさを子ども達に伝えていく。行事食を通じて季節や日本の文化に触れる。

6. 防災訓練

(ア) 毎月の防災訓練に加え、災害時、園舎が使用不可になった場合を想定し、野上あゆみ保育園に避難する訓練を実施する。停電対策の強化につとめる。

7. 働きやすい環境づくりに取り組む

(ア) 働き方改革の一環として、事務作業・休憩の時間確保、業務の省力化を実践する。

8. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域の高齢者との交流の機会を持つ。行事の時だけでなく、遊びを通して交流し、少子化で希薄になりつつある子どもと高齢者との相互の関わりが少しでも深められるよう、定期的に施設等に訪問していく（中州デイサービス・教会デイサービス）。

【数値指標】

利用者数	定員	45名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童 入所率 114.6%	入所数 4/1 現在	9名	14名	13名	13名	-	-	49名
		内、障がい児	0名	0名	0名	1名	-	-	1名
		年間入所延人数	139名	168名	156名	156名	-	-	619名
特別 保育 補助 事業	年間利用延人数	一時保育事業							1,295名
		延長保育推進事業							60名
		子育て支援事業							200名
		障がい児保育（受け入れ）							12名
職員数 (常勤換算)		施設長	保育士	看護師	調理	助手	事務他	計	
	正規職員	1.0名	13.0名	0名	委託	0名	1.0名	15.0名	
	パート職員	0名	6.9名	0名	委託	0.7名	0名	7.6名	
	計	1.0名	19.9名	0名	委託	0.7名	1.0名	22.6名	

御殿山あゆみ保育園

幼児教育・保育の保護者の負担軽減を図る少子化対策として、2019年10月に保育料の無償化がスタートした。また、これには生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育の重要性の観点も含まれている。それ故、子育てをめぐる教育・保育の質の維持・向上は急務であると言われていいる。一方、当園ではコミュニケーションに課題を抱える子どもや保護者が増え、育児に行き詰まったり、何らかの神経発達障害の疑いなどで子どもが近隣の小児科発達外来などを受診したりするケースが急増している。保育士は保育のPDCAサイクルを活用し、また専門的な研修を受けるなど質の向上を目指す。目の前の子どもたちの最善の利益を求める時、最も大切なのは、今後保育士と保護者はもとより社会資源である発達支援センター等とコミュニケーションをしっかりとりながら共に一つのチームとして子どもたちに関わっていく必要があると強く思う。

【施設理念】

「あなたがたも愛によって歩みなさい」 エフェソの信徒への手紙 5:2

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、一人ひとりが大切な存在であることを知る。
2. 一人一人の違いに気付き、お互いに認め合いながら共に過ごす。
3. 豊かな環境の中で自己発揮し、創造性を育てる。

【事業・運営計画】

1. 聖隷の理念や施設理念、保育の基本方針の確認
 - (ア) 施設理念をもとに保育目標の確認をしながら、「一人ひとりを大切に作る保育」を具体的に実践する。
 - (イ) 研修や話し合いを通してお互いの子供観や保育観を発信、共有して保育方針に沿って実践できる手立てや保育環境を共に考える。
2. 子どもたちが安心感をもって園生活を送れるよう、特にかける言葉に意識しながら、一人ひとりの成長発達に応じた丁寧な関わりを心がける。
 - (ア) 乳児期の特定の大人との愛着関係を基盤に、ありのままを受け止め認められる事を繰り返しながら、自己肯定感、自尊心、他者に対する基本的な信頼感を育てる。幼児期においてはそこを土台に、非認知力を育て社会性、学びに向かう力、人間性等を培う。
 - (イ) 異年齢で過ごす時間を自然に持てるよう考え、年齢の枠を超えての関わりを大切に作る。
 - (ウ) 発達に障害等を抱え、生きにくさを抱えた子どもたちの理解を深めるため、専門機関と連携を取りながら定期的にケース会議を行う。また、研修会にも参加しスキルを高める。
3. 食育の推進
 - (ア) 保育士、栄養士、調理師との連携による年間食育計画の作成と実施。
 - (イ) 保護者、子どもに向けての栄養士からの食に関する様々な情報の発信や相互の関わり。
 - (ウ) 苗からの野菜の栽培、収穫の喜びを通して食への関心を持ち、感謝の気持ちを育む。
4. 子育て支援を通して地域のニーズを知り、保育園の役割を遂行する。

(ア) 保育士が出前児童館、保育室解放などを通して、在園児以外の保護者の様々な思いにも寄り添いながら地域における子育て支援のニーズを知り、応えていく。

(イ) 子育て講演会、給食（離乳食・乳児食）の試食会、室内開放、子育て相談を実施する中で地域の社会資源となり、保護者の不安や悩みを受け止める。

5. 職員研修の充実と人材育成。

(ア) 専門性を高めるため、各自の保育の課題に沿った外部研修に、主体的に参加する。

(イ) 行事・保育・保護者対応などで理念に沿った対応ができるよう立ち止まって考える。

(ウ) 園内で講師を招いての助言や研修会により保育や環境をしっかりと考え、話し合い、園全体で一貫した「ひとり一人を大切に保育」を実践する。

(エ) 保育の中での学びや実践を発表し、学びの場として宝塚・浜松地区保育学会に参加する。

(オ) 保育士ラダーの活用、自己評価の実施により、各自の役割を考えて理解し、責任をもって仕事に従事することのできる人材を育成していく。

6. 逆瀬川あゆみ保育園、野上あゆみ保育園との三園の連携。

(ア) 3ヶ園で相互の交流をはかり、共に保育の質の向上に取り組む。合同研修会の実施。

7. 防災対策の強化・充実（地域と共に）

(ア) 防災委員会で様々な観点から課題を出し、職員と共に考えながら防災対策に取り組む。

(イ) 地域との連携を視野に入れ、地域防災訓練にも参加する。

8. 公益事業

(ア) 近隣高齢者デイサービスへ子どもたちと訪問したり、園の行事に遊びに来てもらったりする中で交流を深める。

【数値指標】

利用者数	定員	120名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童入所率	入所数4/1現在	8名	23名	20名	21名	22名	22名	116名
		障がい児				1名	4名	2名	7名
	109%	年間入所延人数	155名	287名	288名	299名	300名	240名	1,569名
	特別保育補助事業	年間利用延人数	一時保育事業						
延長保育促進事業							68名		
子育て支援事業							240名		
障がい児保育							1,680名		
その他							3,050名		
職員数		施設長	保育士	看護師	調理	助手	事務	計	
	正規職員	1名	19名	1名			1名	22名	
	パート・アルバイト		13.2名			0.5名		13.7名	
	計	1名	32.2名	1名		0.5名	1名	35.7名	

御殿山児童館

御殿山児童館は、次世代を担う子どもたちの健全育成の推進を目的とする。地域に信頼される児童館であるために2020年度も『地域子育て支援拠点ひろば型』事業として、子育て親子の交流を促進する場や機会の提供、相談・援助の実施や情報の提供、子育て講習の実施等、乳幼児親子への子育て支援の拡充に努める。また、小学生児童や中高生の余暇の居場所づくりの充実に加え、地域の実情と時代の風潮に合わせた事業展開を、併設の保育園と連携をとりながら図っていく。また、虐待などの情報収集をする中で、それぞれの状況に適した社会資源へ繋げる架け橋としての役割を積極的に担っていききたい。

【施設理念】 地域と関わりながら、ひとりひとりの居場所となる児童館を目指す。

【経営方針】

1. 子どもや子育てに関わる大人からの声を大切にニーズに応えられるような環境づくりや、活動に遊び心を持って取り組む。
2. 個々や集団での関わりを通して、感性を豊かにする活動を実施する。
3. 地域や諸機関との連携を図りながら、コーディネーター的役割を担う。

【事業・運営計画】

1. 児童館施設の利用児童の把握と支援
 - (ア) 日常的な児童館施設の開放と自由に安心して遊べる環境を整え、提供する。
 - (イ) 利用児童の背景を把握することで必要な支援を的確に行う。
2. 乳幼児親子支援
 - (ア) 発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育て」・「親育ち」を支援する。
 - (イ) 保護者の子育てを支援し、保護者対象の講座を実施する。
3. 小学生集団あそび及び支援
 - (ア) 運動遊びや自然体験活動・創作活動や視聴覚活動を通して仲間作りを支援する。
4. 中高生居場所づくり
 - (ア) 自由に集える場の確保と多様な人とふれあう体験を通じて「心の自立」を支援する。
5. 出前児童館
 - (ア) 児童館の事業と機能を地域に出向いて実施し、環境の整備と居場所作り、プログラムなどを提供し支援する。
6. 地域組織活動の育成及び関係機関との連携・社会資源の活用
 - (ア) 地域における子育て支援の拠点として、的確な社会資源の活用、家庭や学校、関係機関との連携・協力を図る。
7. 児童館運営委員会の実施
 - (ア) 適正な運営を展開・維持するため、運営委員会で広く意見を求め運営に活かす。
8. 職員の資質向上
 - (ア) 児童館運営に関する共通の認識を持ち、コミュニケーションを活発に行う。
 - (イ) コーディネーター機能の強化のため、職場内研修を行う。
 - (ウ) 子育て支援に必要な内部研修を行う。(発達、保育、障がい等)

【数値指標】 延利用者予定数 30,000人 出前児童館の予定回数 130回

正職員1名 パート職8名 合計9名

高齢者公益事業部

2017年9月に始まった浜名湖エデンの園の建替工事は、4号館の増築工事を経て、2020年5月に新1・2号館が完成し、多くの入居者をお迎えすることになる。新たな入居者、既存の入居者がともに安心して新しくなった居室・共用スペースでの生活を楽しんでいただけるサービスを提供する。

浜名湖エデンの園の工事後は宝塚エデンの園、松山エデンの園の建物更新を検討していくことになるが、建物更新等に円滑に対応するには、適切な収支を維持していくことが重要である。エデンの園の永続性を確保するためにも、これまで以上に直営施設の収支改善を実行していく必要がある。2019年度は大型の台風により日本各地で大きな被害が相次いだ。防災対策・備蓄の見直しを行い、自然災害に備える体制を強化する。

2020年度は「標準サービス」（当事業部の運営する有料老人ホームが入居者に提供するサービスの基準）により「サービスの質」を明確化し、質・量でサービスの品質管理を具体化する。EOL（End of Life）ケアツールを藤沢エデンの園で試験導入ならびに評価を実施し、サービスの高付加価値化を図りたい。更新した業務基幹システム ETS（EDEN TOTAL SYSTEM）は引き続き高機能化に取り組み、他システムとの連携を検討する。海外研修、関連法人との交流研修は2020年度も継続して実施し、職員のキャリアアップ・定着化を図りたい。

職員の採用・育成・定着に関しては、施設の機能を維持するために適正な人員配置に努めるとともに、多様な職員が安心して働き続けられるよう、介護ロボットやAIの活用を含め運用と設備の両面から改善工夫を行う。

新規施設の開設については、検討を継続するだけでなく、機能性やデザイン性に優れた住まい空間を提案したい。

2019年度の入居者募集活動は件数では予算を達成できたものの、入園金額では予算未達となった。エデンの園を必要とする高齢者に1人でも多くエデンの園のサービスを具体的にお知らせするとともに実際に見ていただく機会を強化し、「ここに入居してよかった」と実感していただけるような募集活動を行いたい。直営7施設の目標数値として、入居契約件数218件、入園金合計65億円を目指す。

【事業部理念】

私たちは、高齢者ひとりひとりを尊重し、自由で快適な生活の実現を支援する。

【経営方針】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
2. 経営の安定と永続性の確保
3. 人材の採用・育成・定着の強化
4. サービスの質・安全・効率の向上
5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
 - (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と実践
 - (イ) 標準サービスの具現化
 - (ウ) 公益活動の推進

2. 経営の安定と永続性の確保
 - (ア) 販売対象居室入居率 95%以上の維持
 - (イ) 直営施設の施設会計の改善
 - (ウ) 環境、耐久性等を考慮した建物・設備更新の計画策定と実施

3. 人材の採用・育成・定着の強化
 - (ア) 人材採用力の向上
 - (イ) 定着への環境づくりによる離職の防止
 - (ウ) 職員のキャリアアップ

4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) 感染症の拡大（集団感染）の防止
 - (イ) リスク対策の強化
 - (ウ) 食事サービスの向上
 - (エ) EQC（事業部内の品質管理システム）の実践
 - (オ) 介護・看護の質を向上させる新たな取り組みの実践
 - (カ) 入居者満足度の継続及び改善案の実施

5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想
 - (ア) 新規施設開設の継続検討
 - (イ) 次世代技術の創造

【数値指標】（新規契約のみ）

2020 年度期末

入居契約 目 標	浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 1 番館	藤沢 2 番館	合計
件 数	100 件	32 件	11 件	30 件	20 件	10 件	11 件	4 件	218 件
入居率	90%	94%	94%	96%	96%	98%	100%	98%	95%

介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

2019年度は1・2号館耐震対策建替工事が順調に進み、1月には定礎式を迎えることができた。工事による騒音や振動等の影響も少なくなり、園内は平穏を取り戻してきた。職員は完成後の運用面の検討が進み、入居者・職員ともに徐々に完成に向けての期待が膨らんでいる。

また「働き方改革」の初年度として有給休暇の取得や超過勤務の削減が注目され、各課が対応に苦慮しながらも、特に食事サービス課は働き方を大きく見直すことに成功した。

2020年度は4月に1・2号館の竣工式、5月の連休明けから建物の本格運用及び新規入居の開始となる予定である。年間100件の新入居を目標に掲げ、入居率も4月の74%から年度末の3月には90%近くまで急上昇させる計画をしている。新入居の第1ピークは5月・6月で64件、第2ピークは8月の16件と想定している。新しい建物の利用開始をスムーズに進めると同時に、短期間に多くの新入居者を迎えても丁寧で手厚い支援を行うことが、園全体の課題である。

サービス・支援体制については、今までのパーソン・センタード・ケア（PCC：その人らしさを尊重した介護やサービス）をそのままに、アドバンス・ケア・プランニング（ACP：人生会議）の推進及び定着を図り、入居時から終末期まで切れ目のないサービスを提供する。そのために、入居者募集センター・生活サービス課・食事サービス課・居室サービス課・ケアサービス課、そして浜名湖エデンの園診療所のすべての部署間・部署内での情報共有が不可欠であり、2019年度導入の新基幹システム（ETS）やインカム（無線）のさらなる活用が必要と認識している。介護サービス・介護予防サービスとは別に、自立入居者や入居検討者にとって魅力ある「健康増進サービス」の実現に向けて、検討を開始する。

高齢者公益事業部の方針でもあるが、新1・2号館完成に伴い、「より災害に強いエデンの園」をめざし、周辺施設及び地元自治会等と連携を強化していく。

最後に、労働人口が減り続け、特に看護介護業界では働き手不足が顕著になる中で、職員の「働き方改革」に対しては、「有休取得」や「超勤削減」にとどまらず、職員一人ひとりが自らの問題として考え「働き続けられる職場づくり」に継続して取り組むこと、そして園は意識改革と環境整備に最大限の支援を行うことが、将来にわたる安定した園の運営につながると認識している。

【施設理念】

「私たちは一人ひとりを尊重し、入居者の快適な生活を実現するために最善を尽くします。」

【経営方針】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる職場づくり
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
5. 入居者と共に取り組む新しい浜名湖エデンの園づくり

【事業・運営計画】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
 - (ア) 入居時から終末期まで連動したパーソン・センタード・ケア（PCC）の考え方に基づくサービスの実践と評価
 - (イ) その人らしく生活することを支えるための仕組みづくり
 - (ウ) アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の推進と定着への取り組み
 - (エ) 標準サービスの検証とサービスの「見える化」
 - (オ) 地域とつながる取り組みの推進
2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる職場づくり
 - (ア) 「聖隷理念」「施設理念」の継承
 - (イ) 自立・自律した人材の育成
 - (ウ) 「働き方改革」のさらなる推進
 - (エ) 働きやすい職場環境の整備
 - (オ) 障害者雇用の促進と定着への取り組み
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
 - (ア) グランドオープン後の入居率の早期向上
 - (イ) 業務の効率化の徹底
 - (ウ) 施設「事業・運営計画」「予算」の全職員の理解と達成への参画
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
 - (ア) コンプライアンス体制の強化
 - (イ) 緊急時の対応訓練の効果的な実施（防災・防犯・感染予防・行方不明者対策など）
 - (ウ) 情報共有のためのコミュニケーション精度の向上
 - (エ) 新たな建物・設備における防災・防犯体制の強化
5. 入居者と共に取り組む新しい浜名湖エデンの園づくり
 - (ア) グランドオープン後、入居者 500 名体制を見据えたサービス提供体制づくり
 - (イ) 元気な自立高齢者に魅力あるサービスの検討
 - (ウ) 「老舗」の有料老人ホームとしての内外環境の整備

【数値指標】

2020 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	336 戸/372 戸		49 戸/57 戸		385 戸/429 戸			
入居者数/定員	410 名/455 名		50 名/64 名		460 名/519 名			
入居率	90.3%		86.0%		89.7%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	20 名	14 名	44 名	16 名	14 名	9 名	6 名	
職員数（常勤換算）	128.3 名							
サービス活動収益	787,650 千円							

ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2019年度は、40周年という節目の年であり様々な企画行事を立案し、入居者サービスに努めた。また、サービスの標準化に伴う生活支援サービスの見直しなど、大きな業務改革を起こした年度でもあった。

2020年度は、2019年度より取り組んだ入居者情報を園全体で共有する仕組み「私の軌跡」を本格稼働させ、また職員の専門性を高める取組みについても組織的に関与する形を構築し、より質の高いトータルケアサービスを提供していく。エデンの特徴でもある介護予防の取組みについては、各種介護予防体操の差別化とともに、新しい介護予防ツールによる更なる仕組みを構築し、より効果的なサービスを提供していく。

募集活動は大々的な集客方法から、実際に足を運んでいただき雰囲気を感じていただくことができる小規模の集客方法に2019年度変更したが、入居検討度の高い方々へのアプローチが可能となったことから、引き続き同様の方法で進めていく。

介護・福祉分野の人材不足は深刻であり働き方改革の取組みも含め、作業環境管理、作業管理、健康管理の取組みをより一層進めていく。また安定したサービス提供を継続する為にも、まずは新 ETS の更なる活用に取り組んでいく。

地域に根差した公益的活動は、近隣市、近隣自治会とのより積極的な連携を進めることとし、WAC 事業も合わせて推進していくこととする。

【施設理念】

安心と生きがいの創造

【経営方針】

1. 私たちは、「隣人愛」の精神に基づき、ご入居者と職員一人一人の尊厳を守ります。
2. 私たちは、ご入居者とともに5つ星の施設づくりに努めます。
3. 私たちは、法令を遵守し、その人らしさを大切にしたいより良いサービスを提供します。
4. 私たちは、地域と協調し、開かれた施設を目指します。
5. 私たちは、品質目標を設定し、その達成度を常に確認して、業務改善を進めます。

【事業・運営計画】

1. 入居者満足度の向上
 - (ア) ニーズの把握と気づきに基づいたサービスの提供
 - (イ) 食事満足度調査の評価向上に向けた取り組み
 - (ウ) その人らしい生活を最期まで支えるトータルケアの実践（「私の軌跡」の活用）
 - (エ) 「見える化」の実践による入居者との協同した園運営の実践

2. 職員満足度の向上

- (ア) 聖隷理念、事業部経営方針及び施設運営方針に基づいた行動計画の策定と実践
- (イ) 職場・職員間の連携強化と各課業務の再構築の取組み
- (ウ) 段階的な人材育成と個別の専門性の強化
- (エ) 働き方改革に伴う業務の効率化
- (オ) 最新介護機器の導入による業務負荷の軽減と安全な介護の実践

3. 健全経営体制の維持

- (ア) 全職員が募集活動のそれぞれの役割を果たし、期末入居率 95%以上の確保
- (イ) 附属診療所部門の経営体制強化
- (ウ) 職業倫理・コンプライアンス経営の実践
- (エ) 費用対効果を考慮した経費管理と省エネの取組み

4. 安全・安心な暮らしの提供

- (ア) 災害や緊急時における事業継続計画の策定と感染予防対策の徹底
- (イ) 災害や感染拡大に対する入居者の自主防衛の支援
- (ウ) リスク、苦情への迅速な対応

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 防災・避難計画に基づいた協力関係の確認と連携強化
- (イ) 障害者の就労機会の創出
- (ウ) WAC 事業の推進

【数値指標】

2020 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数／総戸数	343 戸／358 戸		46 戸／50 戸		389 戸／408 戸			
入居者数／定員	396 名／501 名		50 名／50 名		446 名／551 名			
入居率	95.8%		92.0%		95.3%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
	8 名	9 名	34 名	28 名	22 名	18 名	4 名	
職員数(常勤換算)	136.4 名							
サービス活動収益	959,300 千円							

有料老人ホーム 松山エデンの園

2019年度、松山エデンの園では、園の目標とする施設の将来像である開園50年に向かって各施策を達成する為の施設運営を計画する年であった。新システム導入の運用が開始され、運営の変化はあったが、エデンの園のご入居者が充実した生活を変えることなく送ることができるよう努めた。

2020年度においては、松山エデンの園は創立40周年を迎える。ご入居者と共に園生活での幸せづくりに支援できるよう施設運営に努めていく為に、経営の安定と継続性の確保する為の2019年度に作成した実効性ある収益改善案を具体化していかなければならない。募集活動については、継続した積極的な活動に加えて対象地域の見直しや新規イベントも取り入れながら入居率向上に努める。経営の安定においては、入居率向上を目指したうえで、現在の施設会計の改善につながる改定案を策定していく。

次に質の高いサービス提供ができるよう職員の育成・定着の強化できる施設づくりが必要である。業務改善やリスク強化を継続しながら、職員のキャリアアップを目指し、充実した研修や他施設交流ができる職場環境を整備していきたい。設備環境については、防災体制を見直し、更なる安全と備えあるサービスの維持を実施していく。

隣接する医療法人聖愛会松山ベテル病院とは2020年度も安心できる協力医療機関として継続した連携体制を更に整備していきたい。地域住民の方々には、地域合同防災協定を活かした地域との関わりを持続し、地域に信頼していただく、貢献できる施設運営に努めていく。

【施設理念】 『明るく楽しく共に輝いて生きる』

わたしたちは、ご入居者の喜びや願いを見出し、そのお一人おひとりの幸福(しあわせ)づくりを支援、援助できることに大きな喜びを見出す

【経営方針】

1. 入居募集と経営の安定
2. 人材の確保と育成
3. よりよいサービスの提供
4. 安心安全な施設環境づくり
5. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 入居募集と経営の安定
 - (ア) 新規契約戸数 10戸12名
 - (イ) 充実した園の生活や楽しみを知って頂く募集活動への取り組み
 - (ウ) 入居検討者のニーズに応じた受入れ対応(介護棟への直接入居)
 - (エ) 施設会計の改善に向けた改定案の作成

- (オ) 住替えが必要とされる方への適切な対応
- (カ) 省エネ活動の継続的な取組と適切な設備更新

2. 人材の確保と育成

- (ア) 新システムを活用した職員の連携体制
- (イ) 人材の採用力強化と定着への環境づくり
- (ウ) 目標参画・各種ラダーを活かした職員評価と教育の実践
- (エ) 職員のキャリアアップができる職員育成
- (オ) 聖隷理念・施設理念に基づく職員倫理・接遇意識の向上

3. よりよいサービスの提供

- (ア) ご入居者の幸せづくりに支援できるトータルサービスの提供
- (イ) ご入居者へ質の高いケアの実践
- (ウ) EQC (エデン・クオリティ・コントロール) の実践
- (エ) 食事満足度調査の評価を向上できる取り組み
- (オ) 医療法人聖愛会との医療体制の連携強化

4. 安心安全な施設環境づくり

- (ア) 防災体制の見直しと備えあるサービスの強化
- (イ) 苦情、リスク発見時の迅速かつ連携できる対応
- (ウ) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止
- (エ) 園内設備の計画的な改修とコスト意識をもった設備維持管理

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域での災害を想定した防災体制の強化、環境保全活動への取り組み
- (イ) 地域の医療・介護連携への参画

【数値指標】

2020 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数	99 戸/109 戸		34 戸/35 戸		133 戸/142 戸			
入居者数	115 名/134 名		34 名/35 名		149 名/169 名			
入居率	90.8%		97.1%		93.7%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	17 名	5 名	17 名	4 名	12 名	6 名	4 名	
職員数(常勤換算)	58.3 名							
サービス活動収益	298,570 千円							

介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園

2019年度はメディア再放送効果および部署連携を強めた募集活動が功を奏し、募集予算を達成し、多くの新入居者を迎えることができた。見学会や取材協力など入居者の協力と職員の奮闘に感謝する。また、南共用W棟の空調更新や6・7号館改修等の計画修繕工事を実施した。

さて、2020年度は、エデン標準サービスの具現化を図る年度であり、限られた人員配置を最適化し効率的に活用することにより、いかに質の高いサービス提供ができるかが重要である。そのためにも職員ひとり一人が油壺職員であるという強い誇り（油壺プライド）を持ち、「安心なサービス提供と質向上」「職員育成」「安定した施設運営」を重視した取り組みを行う。「安心なサービス提供と質向上」については、更新した新ETS（エデン総合情報システム）の安定稼働により、業務効率を高めるとともに、蓄積データ活用によりサービス内容の可視化を図る。食事部門においては、メニュー改革やメニューアピールを強め喫食率向上に努める。「職員育成」については、EPA（経済連携協定）による海外研修生を育成していくとともに、他部署との交換研修を充実させ他部署理解を深めて業務に活かす。職員採用については個々のライフスタイルに合わせた働き方など採用過程の見直しを図る。また、女性職員が活躍できる環境づくりと、職員が超過勤務削減や有休休暇取得等、各々の働き方を意識するよう管理者の働きかけを強化する。

「安定した施設運営」については、「空室ゼロ」を目指し入居率を向上させるとともに、さらなる施設会計の改善に取り組む。施設整備では、3・5号館の改修工事を計画的に実施していく。入居者の年齢層や価値観の違いを踏まえ、さらに入居者の個別性（その人らしさ）を尊重した関わりをしていくことが、エデンの園の醍醐味でもあり、皆様が安心、平穏な園生活をお送りいただけるような運営をしていきたい。

【施設理念】

私達は『ひとり一人と ここちよく 共に暮らす』ことを目指します

【経営方針】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
2. 自ら考え課題解決できる職員の育成
3. 安定した施設運営・経営
4. 環境・省エネへの取り組み強化と地域との関わり
5. 災害時の対策、防災教育の徹底

【事業・運営計画】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
 - (ア) 入居から退去までのトータルサービスの提供
 - (イ) エデン標準サービスの具現化とサービス内容の可視化
 - (ウ) 入居者ニーズに沿った行事企画の充実
 - (エ) 「美味しいのは当たり前」と言える食事サービスの質向上
 - (オ) 接遇向上のための知識と技術の習得

(カ) リスク対策の強化（評価の徹底による再発防止）

2. 自ら考え課題解決できる職員の育成

- (ア) やりがいのある職場風土の醸成
- (イ) 人材活用と適正配置による業務効率の向上
- (ウ) 人材採用力の強化
- (エ) 職員個々の質向上のためのスキルアップ
- (オ) 施設内交流研修による部署理解の向上

3. 安定した施設運営・経営

- (ア) 園内設備の計画的改修と実施
- (イ) 全部署が募集活動に参画し、入居率 95%（期末）以上確保
- (ウ) 介護サービスへの適切な移行と介護報酬収益の確保
- (エ) 介護予防活動見直しによる健康維持増進
- (オ) 診療所入院ベッドの適正利用
- (カ) EQC（EDEN QUALITY CONTROL）の活用による生産性の向上

4. 環境・省エネへの取組み強化と地域との関わり

- (ア) コスト意識を持った省エネルギーへの取組み
- (イ) 地域貢献活動（環境保全）への参加
- (ウ) 職場環境整備のための 5S 運動（整理・清掃・整頓・清潔・躰）の継続
- (エ) 障害者の就労機会を増やすための取組み

5. 災害時の対策、防災教育の徹底

- (ア) 災害防災・防犯訓練の質の向上
- (イ) 入居者・職員の防災意識の向上
- (ウ) 地域と連携した災害協力体制の構築

【数値指標】

2020 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	372 戸／379 戸	36 戸／45 戸	408 戸／424 戸
入居者数／定員	467 名／500 名	36 名／50 名	503 名／550 名
入居率	98.2%	80.0%	96.2%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	20.7 名	27.2 名	28.6 名	20.3 名	18.4 名	17.8 名	11.0 名	

職員数(常勤換算)	135.6 名
サービス活動収益	1,022,300 千円

介護付き有料老人ホーム 浦安エデンの園

2019年度は入居者の声を反映した運営を進めるため、ご意見をお伺いする場を増やし、共用部の使い方について入居者と共に考え話し合いを重ね、新ルールによる運用を開始した。また、2018年度から進めてきた「居場所づくり」については、支援を必要とする入居者のためのダイニングが完成し利用をスタートした。

2020年度は、入居者が安心して生活できる施設運営を重点目標とし取り組みを行う。第一に、これまでの想定を超えるような自然災害に備えるため災害対策の強化を図る。さらに防犯防災訓練の実施、感染症対策にも注力し、安心・安全が高められるよう取り組む。また、入居から看取り期までのどの段階においても安心して生活していただける支援体制の充実のため、各課の相談窓口としての機能向上とサービスの質の向上を図っていききたい。そのための職員教育として、聖隷理念の浸透、専門領域の知識技術向上のための支援や、行動指針の作成・周知をすることで職員の意識向上を図るなどの取り組みを行い、職員の質・接遇力を高めていく。一方、生産年齢人口の減少などを背景に人材確保が課題となっており、職員の採用・定着のため、働きがいのある職場風土の醸成の取り組みに加え、IT化やAIの活用も視野に入れた業務改革を検討していく必要がある。入居者の「居場所づくり」については、利用は定着したため、今後は内容の充実を図り、楽しめる時間の提供を行う。経営面では、レストラン利用者の増加を目指し、より満足いただける食事の提供とレストランの環境改善に努めていく。募集活動面では、入居率95%以上を維持することを目指し、浦安市内を中心とした活動を継続することと適正な介護居室への住替えを進めていく。

【施設理念】

ご入居者を真ん中においた生活の創造

【経営方針】

1. 良質なサービスの追求
2. 働きがいのある職場風土の醸成
3. 安心・安全な施設づくり
4. 安定した施設経営の実現
5. 地域における公益的な取り組み

【年度事業目標・年度事業戦略】

1. 良質なサービスの追求
 - (ア) 安心した生活を支えるサービスの質向上への取り組み
 - (イ) 入居者満足度調査結果を踏まえた改善の取り組み
 - (ウ) 入居者参画型の楽縁プロジェクトの推進
 - (エ) 入居者の声を反映した楽しめる食事の提供
 - (オ) 相談窓口の機能向上の取り組み
 - (カ) 看取り介護の質を高める体制づくり

2. 働きがいのある職場風土の醸成
 - (ア) 聖隷理念・事業部経営方針及び施設運営方針の浸透
 - (イ) 各課の役割を理解し、連携強化を図れる職員の育成
 - (ウ) 専門領域の学習を支援し職員の質の向上を図る
 - (エ) 接遇力を高め、切磋琢磨しあえる職場風土の醸成
 - (オ) メンタルヘルス向上への取り組み

3. 安心・安全な施設づくり
 - (ア) 災害対策の強化
 - (イ) 感染症発生時の早期対応と感染拡大ゼロへの取り組み
 - (ウ) リスク回避と発生時の迅速な対応
 - (エ) 防犯・防災の実践的な訓練の実施

4. 安定した施設経営の実現
 - (ア) 各課参画した募集活動の推進～入居率 95%の維持
 - (イ) 環境・省エネへの取り組み

5. 地域における公益的取り組み
 - (ア) 地域開放型イベントの継続
 - (イ) 地域防災活動の実践
 - (ウ) 地域清掃活動への参加

【数値指標】

2020 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	192 戸/195 戸	24 戸/29 戸	216 戸/224 戸
入居者数	227 名/294 名	24 名/30 名	251 名/324 名
入居率	98.5%	82.8%	96.4%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	12 名	7 名	18 名	8 名	8 名	6 名	7 名	

職員数（常勤換算）	68.3 名
サービス活動収益	440,500 千円

介護付き有料老人ホーム 横浜エデンの園

2020年度に横浜エデンの園は開設10周年を迎える。10年という節目の年を迎えるにあたり、ケア実績の集大成として、「認知症ケアの実践」「エンド・オブ・ライフケア」を中心とした「お一人おひとりに寄り添えるケア」の在り方をまとめる。経営目標は入居率98%を目指す。サービス提供の基となる職員の「働き方改革」への継続した取り組み、職場環境の改善、人財定着の強化を図る。職員のキャリアアップ支援を継続し、安定したケアサービスを提供できる職員層の厚い組織を構築する。

2019年度に、各地に大きな被害をもたらした台風15号・19号による当施設の被害は極僅かであったが、公共交通機関の計画運休等、都市型施設である当施設の運営上の課題も浮き彫りとなった。それらを踏まえ「地域防災連携」の強化と災害時を想定しての実践訓練に取り組む。災害対策の他、安全・安心・良質なサービス提供の為、施設運営に関してはバランス良い施設づくりを目標に「かながわベスト介護セレクト20」「かながわ認証」取得を目指す。又、介護テクノロジー領域も視野に入れ、近未来に向けた取り組みを開始する。

【施設理念】

「ひとりひとりの笑顔のために」

私たちは、横浜エデンの園で出会えたすべての方々が、生き生きとした笑顔で自分らしく暮らし、いつまでも自分らしく輝けることを目指して、精一杯の笑顔とまごころを込めてサービスを提供いたします。

【経営方針】

1. 安全・安心・良質なサービス提供
2. 人財の育成、定着の強化
3. 経営基盤の安定と永続性の確保
4. 地域社会との連携と協働
5. 環境・省エネに対する意識強化

【事業・運営計画】

1. 安全・安心・良質なサービスの提供
 - (ア) 現状に即した情報交換・共有とチームケアの充実
 - (イ) リスク対策の強化（事故発生後の迅速な検討会議開催とPDCA：感染・苦情相談を含む）
 - (ウ) パーソン・センタード・ケア理念に即した認知症チームケアの定着
 - (エ) 入居者に適したエンド・オブ・ライフケアに向けて聖隷横浜病院と医療連携の維持
 - (オ) 入居者満足度調査の結果の評価・分析による改善への取り組みの継続

2. 人財の育成

(ア) 人財確保

(イ) 職員同士で感謝等を言語化することによるモチベーション向上活動の継続

(ウ) 「働き方改革」の維持推進

(エ) 職員のキャリアアップ支援（認知症専門研修・認知症ケアマッピング研修・キャリア段位認定資格取得支援等）

3. 経営基盤の安定と持続性の確保

(ア) 平均入居率 98%の維持（平均要介護度 3.0 以上）

(イ) 職員全員のコスト意識の強化

(ウ) 施設運営費の変更

(エ) 経年劣化を見込んだ計画的な修繕・修理の実践

(オ) 介護テクノロジーの活用による経営改善

4. 地域社会との連携と協働

(ア) 地域防災連携の構築（近隣高齢者福祉施設等周辺状況の調査、災害支援ナースの設置）

(イ) 地域貢献への活動の継続（市や区主催のイベントへの協賛、ふれあい食堂の継続）

5. 環境・省エネ活動への取り組みの強化

(ア) 入居者と協働したエコ活動

(イ) 省エネ・エコ活動の啓蒙の継続

(ウ) 事業ゴミの削減による環境保全

【数値指標】

2020 年度期末

	2020 年 3 月末	2020 年 4 月 ～2021 年 3 月	計（退去 8 戸除く）
契約戸数	49 戸/50 戸	49 戸/50 戸	49 戸/50 戸
入居率	98.0%	98.0%	98.0%

※退去戸数を 8 戸で計上

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	1 名	4 名	6 名	11 名	10 名	9 名	9 名	50 名

職員数(常勤換算)	49.9 名
サービス活動収益	271,780 千円

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

2019年度は、様々な課題・改善点を、自ら主体的に解決・改善するという視点で事業計画に沿って運営に取り組むことにより一定の成果が得られた。2020年度もPDCAサイクルの継続と新たな取り組みによって、タウン全体のサービスの向上を目指すべく、以下事業計画を取り纏めた。

2020年度も、エデンの園をはじめタウン内の各事業所に求められるニーズの変化を早期に察知するために、行政・地域との情報交換を積極的に行うことにより、地域の環境や社会資源の状況を適時把握し、緊密なタウン内連携と地域連携を推進することによって、利用者に更なるタイムリーで最適なサービスの提供を目指す。それらのサービスの提供においては、だれが何をすべきかを明確にし、多職種がチームとして活動できる連携・協力体制を構築していく。さらに、働き方改革を意識した多様な働き方の実践や、介護現場におけるロボットやICTの活用により、これからの将来を見据えた努力と様々な工夫をおこなう。

藤沢エデンの園では、企業との連携により「軽度認知症状の発見と認知症高齢者の見守り施策事業」をおこなう他、介護ロボットの導入検討も積極的におこない、現在タウンや地域に抱えている課題の解決と、将来を見据えた環境・体制づくりに取り組んでいく。

また、藤沢市内における有料老人ホーム、老人福祉施設、さらには訪問・通所の介護サービス事業は過密状況にあり、10年目を迎える当タウンも、他の事業所と比較され一層厳しい評価を受ける時期に直面している。タウン内各事業所は、これまで研鑽を重ねてきたプロフェッショナルとしての基本的な介護技術に加え、「認知症ケア」「看取りケア」「End of Life Care」「ACP」等の知識と技術を礎に、人材確保と育成にも十分に注力し、利用者一人ひとりに最適なサービスを提供していくことで、地域No.1の評価を目指す。

その他、近年各地で発生している自然災害への対応・対策についても、これまでも防災体制の再確認や改善を目標に掲げてきたが、不足している課題については継続的に取り組むことにより「安心・安全」の充実を図る。

2020年度も、利用者が「聖隷藤沢ウェルフェアタウンで生活することの幸せ」と、職員が「聖隷藤沢ウェルフェアタウンで働くことの幸せ」を感じられるよう、運営をおこなっていく。

【施設理念】

『私たちの目指すもの ～笑顔あふれる幸せの街づくり～』

良質のサービスは「笑顔」、福祉の心は「幸せ」、地域への貢献は「街づくり」とそれぞれの言葉に我々の思いが込められている。

【経営方針】

1. 安全・安心の施設づくり
2. 効率的な運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 地域における公益的な取組への注力（地域・社会とのつながりの推進）

【年度事業目標・年度重点施策】

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

1. 最善を追求したサービスの提供
2. 多様・多職種の人材確保と育成の強化
3. 更なる安心・安全を目指した、災害対策・対応
4. 地域共生社会における社会福祉法人として役割の具現化と実践

藤沢エデンの園（一番館・二番館）

一番館、二番館、さらにはタウン内外の福祉施設、医療機関、企業との連携、また多職種連携により、これまで以上に「安心・安全」を目指した体制を整備する。

【藤沢エデンの園 一番館】

1. サービスの質の向上
2. 接遇力の強化
3. 二番館他、各事業所との連携強化

(数値目標)

2020 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	209 戸／209 戸	—	209 戸／209 戸
入居者数	264 名	—	264 名
入居率	100.0%	—	100.0%

職員数(常勤換算)	52.1 名
サービス活動収益	386,570 千円

【藤沢エデンの園 二番館】

1. 安全で安心できるサービスの提供
2. 人材の育成の強化
3. 職場の環境改善

(数値目標)

2020 年度期末

	2020 年 3 月末	2020 年 4 月 ～2021 年 3 月	計
契約戸数／総戸数	43 戸／50 戸	46 戸／50 戸	49 戸／50 戸
入居率	86.0%	92.0%	98.0%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	1 名	2 名	4 名	11 名	17 名	8 名	6 名	

職員数(常勤換算)	38.6 名
サービス活動収益	194,660 千円

藤沢愛光園

2020年度は、開設から10年目の節目の年となる。入居者・利用者への安全と安心のサービス提供を礎に、開設時の初心・基本に立ち返り、入居者に寄り添った「認知症ケア」「看取りケア」に取り組んでいく。また、気配り心配りを意識し親しみのある接遇ができるように取り組む。経営面では、地域事業所との連携を強化し待機登録者や新規利用者を確保し安定した入居率の維持を目指す。人材確保では、介護負担の軽減や計画的な研修参加などをすすめ、職員がやりがいを持ち長く働ける職場づくりに努める。

【藤沢愛光園】

1. サービスの質の向上
2. 経営の安定化
3. コミュニケーション力と接遇力の向上

(数値目標)

	特養入所	短期入所
利用者定員	100床	20床
利用者延べ人数	35,770人	6,680人
営業日数	365日	365日
一日平均利用者数	98.0人	18.3人
稼働率	98.0%	91.5%
単価(1人1日あたり)	14,930円	14,436円
サービス活動収益	534,420千円	96,430千円
職員数(常勤換算)	66.0人	15.8人
職員数(常勤換算)	81.8人	

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

利用者が自身で機能維持・向上の機能訓練に取り組めるような仕組み作りを行い、且つ安全に利用できるようリスク管理にも取り組む。又、そのための人材育成を行い、利用者が長く自宅に住み続けられるような支援ができるデイサービスを目指す。

(数値目標)

	介護給付			総合事業		単価		サービス活動収益
	平均利用者数	月利用者数	年間利用者数	月利用者数	年間利用者数	介護給付(回)	総合事業(月)	
一日	26.7件	688.0件	8,256.5件	15.0件	180件	10,500円	40,300円	97,230千円
半日	2.5件	44.8件	538.0件	—	—	6,100円	—	

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

地域のニーズに対応できるようケアマネジメント力を向上させる。地域および聖隷藤沢ウェルフェアタウンの利用者を支えるチームケアを構築する。

(数値目標)

年間請求件数		単価		訪問調査		サービス活動収益
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
1,368 件	504 件	16,860 円	4,992 円	108 件	5,000 円	26,120 千円

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

わたしたちのサービスを必要とする利用者が、安心して自宅で生活ができるよう、サービスの質の向上に努める。(特に認知症の利用者に対して、臨機応変な対応ができる)

人材の確保、育成、活用により、ひいては利用者増に繋げることで安定運営を目指す。

(数値目標)

介護給付			総合事業		障害者		
平均利用者数	月訪問数	年間訪問数	月利用者数	年間利用者数	平均利用者数	月訪問数	年間訪問数
35.5 名	472.0 件	5,664 件	31.5 件	378 件	27 件	324 件	3,084 件

単価			サービス活動収益
介護給付 (回)	総合事業 (月)	障害者 (回)	
3,745 円	18,900 円	4,400 円	44,950 千円

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

利用者・家族が QOL の高い状態で、自分らしく暮らせることを目的とし、安全・安心な在宅ケアを提供するために、人材育成に取り組む。特に増加してきているがん末期を含めた看取り、精神疾患利用者への質の高い看護を提供するため、事業所内外の研修等で研鑽する。多職種連携にも努め、引き続き地域で選ばれる事業所を目指す。

藤沢ウェルフェアタウン内の各事業所との連携強化に努める。

(数値目標)

平均利用者数	月訪問数	年間訪問件数	単価 (円)	サービス活動収益
104.0 名	661.5 件	7,938 件	9,667 円	76,740 千円

ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2019年度、有料老人ホームの一般居室は引き続き高い入居率を確保し、新規契約戸数も予算を上回ることができた。食堂中庭の整備と開園30周年にむけた段階的な大規模植栽整備を実施予定である。入居者の皆様には、園が掲げるスローガンである「最期までその人らしく健康に生活する健幸生活」を推進するにあたり「エデン版地域包括ケアシステム」の中心的な役割を担う「いきいき生活室」より情報発信、各種相談受付、健幸チェック、ボランティアグループ「虹のわ」の活動などを進めることができた。また、介護予防、認知症予防や住替えが必要とされる方への円滑な対応を行う事ができた。ニッセイ聖隷クリニックは有料老人ホームの附属診療所として役割を果たし、診療報酬等の制度改定に伴う迅速な対応を行うことができた。奈良ベテルホームは「在宅強化型老健」としての運営を継続し、稼働率も予算数値に近い実績をあげることができた。在宅部門は河合町や近隣事業所との連携を更に強化し、引き続き地域支援への取り組みに努めた。4月から国の施策として「働き方改革」法案が施行され、職員が健康でいきがいを持って働ける環境づくりにも尽力した。安心・安全面では地震・火災・防犯訓練を引き続き実施した。

2020年度も新規契約戸数の予算達成に注力し、好調な高い入居率を継続する。施設全体の取り組みである「エデン版地域包括ケアシステム」の継続と、3年目に入った「いきいき生活室」のボランティアグループ「虹のわ」の活性化及び地域を含めた世代間交流やボランティア等の活動も強化していきいたいと考えている。また、安心・安全面の取り組みとして、引き続き災害対策に力を入れることが重要であり、訓練の効果的な実施と、河合町にある施設として近隣との協力体制も必要である。サービス提供については職員一人ひとりの知識、技術の向上は勿論であるが、考えて行動できる職員の育成にも取り組んでいく。WAC 第一号施設として継続してきた事業が、2022年度に開園30周年を迎えるにあたり、後世に残るしっかりとした基礎を作る年としたい。

【施設理念】

私たちは、ひとりひとりを尊重し、「健康」・「生きがい」・「安心」を支援し続けます

【行動方針】

1. 私たちは、ひとりひとりのいのちと尊厳を守ります
2. 私たちは、最高のサービスを提供するために最善をつくします
3. 私たちは、地域との絆を育み、地域社会に貢献します

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践
 - (ア) 聖隷理念の浸透と実践
 - (イ) その人らしさを最期まで支えるケアの推進
 - (ウ) エデン版・地域包括ケアシステムの充実
 - (エ) 食べる楽しみの追及と安定した食堂運用
 - (オ) 開園30周年記念に向けた企画立案

2. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 複合施設の連携を活かした入居者・利用者・患者ニーズの把握と確保
- (イ) 職員一人一人の経営意識向上
- (ウ) 施設設備の計画的更新と園周辺環境の美化・整備
- (エ) 省エネルギー資源活動への取り組みの継続

3. 人財の育成・活用・定着の強化

- (ア) 働き方改革への取り組みの継続
- (イ) 採用力強化と定着への取り組み
- (ウ) 社会的責任を満了するための多様性に対応した就労環境の提供と雇用の確保
- (エ) 各種ツールを活用した職員教育の実践
- (オ) 気づきと行動力のある職員の育成
- (カ) 交換研修・専門研修等への計画的参加と資格の取得支援
- (キ) 活気ある明るい職場づくりと職員の心身の健康管理への取り組み

4. サービスの質・安全・効率の向上

- (ア) 身体拘束、虐待防止への取り組みの継続
- (イ) 感染症予防対策の徹底と集団感染の防止
- (ウ) リスク分析力向上と効果測定による再発事故防止
- (エ) 接遇マナーの向上と職員間で指摘しあえる風土づくり
- (オ) 防災・防犯対策・教育と訓練の強化
- (カ) EQC（エデンカレイドコントロール）の定着・実践と新 ETS（業務基幹システム）の定着化
- (キ) 満足度調査実施と結果の分析、課題解決への取り組み

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) WAC 施設としての地域貢献・交流
- (イ) 地域との災害時の協力体制強化
- (ウ) 地域支援事業への積極的な参画と「学び」の拠点となるための活動

◆有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

2019年12月1日現在において、入居契約件数403戸（一般居室358戸、介護居室45戸）入居率は97.8%（一般居室98.9%、介護居室90.0%）、入居者の平均年齢は全体で82.0歳である。

2020年度は新ETSの更新による業務の効率化をケアの充実へにつなげ、より安全で安定したサービスの提供を目指す。また、職場間の連携を充実させ、“安心”を提供できる適切な住替えを進めていく。エデン版地域包括ケアシステムにおいては、いきいき生活室を中心とし、各職場でもコンセプトの理解を深め、入居者の生きがいつくりへにつなげていく。

開園30周年にむけては、段階的な大規模植栽整備を継続し、記念プロジェクトにより入居者に喜んでいただけるような行事等の企画をすすめる。

また、働き方改革や労働人口の減少などの社会情勢をふまえ、ICT化、AIやロボット導入など“多様な働き方”に対応した労働環境の整備など具体的な対応がさらに求められる。

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践

- (ア) マイメモリーシートの活用方法を見直し、その人らしさを終末期まで支えるケアの推進

- (イ) 施設内連携の実践によるエデン版地域包括ケアシステムの浸透
 - (ウ) 認知症になっても安心して生活できるエデンづくり
 - (エ) “エデン食堂”として身近に感じていただくための企画・運営と満足度向上
 - (オ) 開園 30 周年記念に向けた企画立案
2. 安定した経営基盤の確立
- (ア) 身体状況に応じた適切な住み替えとサービスの提供
 - (イ) 入居募集活動への協力と連携
 - (ウ) 施設設備の計画的更新と園周辺環境の美化・整備
 - (エ) 省エネルギー資源活動への継続的な取り組み
3. 人財の育成・活用・定着の強化
- (ア) 働き方改革への取り組み
 - (イ) 多様な働き方への対応した採用力強化への取り組み
 - (ウ) 障がい者雇用に向けた各職場間の連携
 - (エ) 目標参画・各職種のラダーを活用し自ら考え行動できる職員の育成
 - (オ) 他施設・他部署との計画的な交換研修の推進と職場の活性化
 - (カ) 活気とやりがいを感じる職場環境整備と風土づくり
4. サービスの質・安全・効率の向上
- (ア) 身体拘束、虐待防止への取り組み
 - (イ) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止
 - (ウ) リスク分析能力向上と対策評価の徹底による再発事故防止
 - (エ) EQC の定着と実践の継続と新 ETS の活用
 - (オ) 接遇向上を目指し職員間で指摘しあえる風土づくり
 - (カ) 防災・防犯対策教育と訓練の実施・強化
 - (キ) 満足度調査の結果をふまえたサービスの質の向上
5. 地域における公益的な取り組み
- (ア) WAC 施設としての地域貢献・交流
 - (イ) 地域との災害時の協力協定の締結と防災の協力
 - (ウ) 地域支援事業への積極的な参画と「学び」の拠点となるための活動

【数値指標】

2020 年度期末

	一般居室			介護居室			計	
契約戸数	357 戸			43 戸			400 戸	
入居者数	470 名			44 名			514 名	
入居率	98.6%			86.0%			97.1%	
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	24.0 名	31.0 名	32.8 名	19.1 名	18.2 名	13.3 名	6.6 名	145 名
職員数(常勤換算)	101.24 名						※有料老人ホーム部分	

◆ 高齢者総合福祉センター

2019年度は、計画していた新規講座を開催し、新たなニーズへの対応を図ることができた。中止となった、まほろばホールでの開催を予定していたコンサート分を除き2018年度を上回る受講・参加者数となることが見込まれる。

2020年度においては、継続及び内容の充実を最優先に取り組み、拡大は行わず安定的な事業運営を目指す。

◆ ニッセイ聖隷クリニック

2019年度は改修した個室5床の稼働率が上がったことにより室料差額が予算を上回った。外来については入院協力医療機関と関係づくりを行い、『もの忘れ外来』を6月より開始した。健診では精度管理を目的として、すべての眼底写真について専門医の読影を開始した。

2020年度は高齢化する河合町住民のために送迎サービスを行い、集患対策及び介護保険による通所リハビリを開始する。入院は積極的な外部入院患者の受入を行う。健診については各種キャンペーンを継続することにより、受診者数増につなげる。

◆ 介護老人保健施設「奈良ベテルホーム」

2019年度は「在宅強化型老健」としての運営を継続した。入所に関しては在宅復帰を支援しながら在宅強化型のポイントを維持し、稼働率も予算数値に近い数字で運営することができた。通所リハビリテーションに関しては上半期利用者数が上がらなかったため、利用者数を予算数値まで引き上げることに注力した。渉外活動の強化や様々な取り組みを行ったことにより、結果、9月には予算通りの数字を達成することができた。

2020年度は「在宅強化型老健」として在宅復帰、在宅療養支援に取り組みながら稼働率も維持していく。通所リハビリテーションに関してもしっかりと予算利用者数を維持することにより、安定した運営を確立させる。設備面も整い、経営面も安定した施設の中で最高のサービスを提供し続ける施設を目指す。

◆ ニッセイせいでい在宅介護サービスセンターベル・西大和店

2019年度は、総合事業の訪問介護は予算達成できたが、それ以外は、入院・施設入所が相次ぎ、新規ケースのケア回数・時間等が、減少分を補うことが出来ず、予算未達であった。

2020年度は、ヘルパーの募集方法見直しと離職防止により人材確保を図ると共に、重度者に対応できる体制作りに取り組む。居宅支援事業所等との連携強化を図り、新規利用者獲得を目指す。

◆ 訪問看護ステーション西大和

2019年度は、長期利用者の逝去による利用終了で介護保険、医療保険共に訪問件数の減少となり予算未達となった。訪問依頼には積極的に応じ、退院前カンファレンスやサービス担当者会議への参加で情報の共有と連携に努め、利用者のニーズに応じる事ができた。

2020年度は近隣事業所・医療機関との連携をさらに密に取り、新規利用者獲得による収益増加に加え、ICTの導入による業務改善を行い、事業の安定運営を目指す。

◆ ニッセイせいでいケアプランセンター西大和

2019年度は、地域ケア会議やケアマネネットワーク会議への参加や研修等参加・協力、「西和地域7町における入退院連携マニュアル」の活用継続などにより、医療・介護・地域との連携を強化していく中で予算達成でき、また経年課題の災害対策に着手し始めることができた。

2020年度は、在宅サービス室全体で地域防災強化に向けて取り組むとともに更なる連携強化を図り、ケアマネジメントの質の向上の推進、選ばれる居宅介護支援事業所運営を目指す。

ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

開園から24年目を迎えることとなる2020年度も、引き続き全職員が一体となった入居者募集活動を展開し、入居率は、契約手続き中も含めて実質100%の状況の維持を目指す。その一方で、ここ近年の状況を鑑みると、ご入居者の高齢化及びそれに伴うご逝去者の増加が今後も予測されるが、それに対応するために各職場がしっかりと情報共有を図り、看取り体制の充実や介護居室への円滑な住み替えも合わせて実施していきたい。また、2020年度は介護居室6室増築を柱とする新4号館（仮称）の建築工事が始まる。これを長年の課題であった介護居室不足解消、および入居者増加に伴う施設会計の黒字化につなげ、さらなる施設発展への好機となるようしっかりと準備を進めていきたい。

災害対策という点においては、2019年度は日本列島に大型台風が立て続けに上陸し、千葉県にも大きな被害をもたらした。幸いにも当園に大きな被害はなかったものの、災害対策強化の必要性を強く感じた年でもあった。近年の異常気象も考慮し、従来の地震・火災対策に加え、園の設備の基幹である電気室の浸水防止など、水害に備えた対策もしっかりと講じていきたい。

職員採用については、介護士をはじめとした専門職種の人材不足が懸念されるが、今後さらに厳しさが増すであろう人材確保に対し、外国人労働者の活躍の場の拡大なども図り、数年先まで見据えた採用活動ならびに人材育成に取り組みたい。

以上のことを視野に入れながら、施設理念でもある“ご入居者にここを選んで良かったと思っただけのような施設づくり”を目指し、次のような重点目標を掲げ、2020年度の施設運営に臨んでいく。

【施設理念】

私たちは一人ひとりを尊重し、“ここを選んで良かった”と思っただけのような施設づくりを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 人材の育成
3. 経営基盤の安定
4. リスク管理体制の強化
5. メンタルヘルスへの取り組み強化
6. 地域社会と連携した事業展開
7. 環境・省エネへの取り組み強化

【事業・運営計画】

◆有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

1. 各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上
(ア) 入居検討時から最期までその人らしいライフスタイルを尊重したシームレスなサービス体制の提供

- (イ) 部門間情報共有の強化と各システムの情報統合への取り組み
- (ウ) 入居者参画型の企画・行事の継続
- (エ) 関わりの少ないご入居者へのアプローチ（セカンド含む）

2. 人材育成と連携

- (ア) 聖隷理念（隣人愛精神）の継承
- (イ) 気づきと行動力のある専門職の育成
- (ウ) 不適切なケアの防止、接遇の知識・技術の向上と強化
- (エ) 職員に対する園全体でのサポート体制の構築
- (オ) 他課との連携を意識した業務整理と介護業務一元化の検討
- (カ) お互いを認め合い、やりがいのある職場風土の醸成

3. 経営基盤の安定

- (ア) 全職員による新入居者募集への参画（園に関する知識の向上）
- (イ) 人材の確保・定着の強化
- (ウ) 選ばれる食堂に向けた新たなサービスの創造（喫食率の向上）
- (エ) 雇用制度多様化への対応と有効活用
- (オ) サービスの適正化による費用見直し

4. リスク管理体制の強化

- (ア) 感染予防対策の強化及び拡大防止への取り組み
- (イ) 入居者・職員の命を守るための防災体制への取り組み
- (ウ) セキュリティ及び防犯の強化
- (エ) IAの活用による事故の再発防止（対策立案能力の向上）
- (オ) コンプライアンス遵守の徹底
- (カ) メンタルヘルス活動の推進

5. 社会・地域への貢献と連携

- (ア) 地域に開かれたWAC施設としての取り組み
- (イ) エデンの園のノウハウの還元（地域における公益的取組）
- (ウ) 社会的責任への取り組みの充実

【数値指標】

2020年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	312戸/315戸	34戸/37戸	346戸/352戸
入居者数	384名/419名	35名/37名	419名/456名
入居率	99.0%	91.9%	98.3%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	28名	20名	26名	28名	12名	12名	9名	

職員数(常勤換算)	117.50名	※有料老人ホーム部分
-----------	---------	------------

◆診療所「松戸ニッセイ聖隷クリニック」

園のご入居者の平均年齢は 85 歳前後となり高齢化がさらに進んできている。それに伴い、より幅広い疾病への対応が求められ、今まで以上に各職種の専門性が必要となってきた。そのため、チーム医療だけでなく、個人のスキルアップが求められる。同時に、患者が望む医療を受けていただくためには、外部医療機関との連携を更に充実させなければならない。経営面においては、入院外来ともにここ数年は患者数が横ばいとなっており、収益全体でも微増にとどまっている。今後は外部患者への予防接種枠を設置し収益増を図っていくことも安定した経営のためにも必要であると考えている。

また、2020 年度も安定した医療サービスの提供を行うために、組織内の連携を大切に、リスクの軽減を図りながら、ご入居者・ご利用者へ安心と信頼を提供していきたい。そのために、以下の重点目標を掲げ目標達成に向けて取り組んでいく。

1. 医療・看護サービスの充実

- (ア) 各課との連携を強化し、各職種の特性を活かしたチーム医療の実践
- (イ) 入居者の定期健康診断の受診率向上
- (ウ) 看取り看護の充実
- (エ) 地域への貢献、地域医療連携の充実

2. 人材育成と連携

- (ア) 専門職としてのスキルアップと情報発信
- (イ) 園内研修受講率の向上と外部研修への積極的参加
- (ウ) 離職防止に向けたフォロー体制の構築

3. 経営基盤の安定

- (ア) 病床稼働率 90%の維持
- (イ) 外部患者の予防接種枠の設立
- (ウ) 次期診療報酬改定への対策検討
- (エ) 電子カルテシステムを活用した業務効率化の実践

4. リスク管理体制の強化

- (ア) IA 事例の共有と再発防止策の遵守
- (イ) 感染拡大防止策の徹底
- (ウ) 働き方改革に対応した労務管理
- (エ) 患者・職員の命を守るための防災体制への取り組み

2020 年度数値指標

【診療部門】

	一日平均患者数	単価	診療実日数
外来部門	55.0名	4,750円	243日
入院部門	17.0名	11,800円	365日

【検診部門】

	定期検診延べ受診者数	簡易検診延べ受診者数
入居者検診	760名	840名
職員検診	202名	

◆高齢者福祉総合センター「ニッセイ松戸アカデミー」

ニッセイ松戸アカデミーでは、ご入居者と近隣にお住いの方が、趣味活動などを通じて、生きがいと仲間づくりをしていただくことを目的としている。2020年度も多くの入居者及び近隣にお住まいの方が参加できる季節のイベントや各種教室、大ホール・エントランスロビーでのコンサートを引き続き開催していく。また、「エデンの園のノウハウを地域にお住いの方にも還元できる活動」についても2019年度に引き続き実施していきたい。

1. 専門職によるエデンの園のノウハウ還元のための取り組み拡充
2. 入居者募集と地域交流につながる魅力ある企画の立案
3. 地域の方と共に楽しめるイベントの充実

◆ニッセイエデン・ヘルパーステーション

2020年度事業計画

2019年度で顕著であったのは、入所・入院によるサービス終了数が新規利用者数を上回ったことである。また新規利用者のうち、要支援者が2018年度は全体の8%であったが、2019年度は30%であることが特徴的である。2020年も引き続き介護支援専門員との連携を密にし、信頼を得て、何より利用者のよりよい在宅生活に寄り添っていききたい。そのためにも職員のスキルアップが必要と考える。

また、地域とのつながりのある在宅という特徴を、エデンの園、クリニックのために活用できないかを模索していく。

【事業計画】

1. 地域の求める要望を情報収集し、対応できる事業展開を実施する
2. 入居者へのサービスを継続
3. 障害福祉サービス、多様化する介護保険サービスに対応できるよう、介護員のスキルアップ及び積極的な研修参加
4. メンタルヘルス対策を意識した園との交流の構築
5. 在宅利用者におけるクリニック利用の推進

2020年度数値指標

【介護保険】

	利用者数	単価
介護給付・障害者支援（日平均）	24.0名	4,650円
予防給付（月利用者数）	15.0名	18,000円
有償（入居者）サービス（月利用者数）	12.0名	9,000円

営業日数＝310日（月平均26日）

ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

2019年の厚生労働省からの発表では、平均寿命が男性81.25歳、女性87.32歳、総務省からの報告では日本の高齢化率が28.4%といずれも昨年 of 過去最高を更新した。今後もまだまだ高齢者数が増加していく中で、働く人口の減少、医療・介護の問題など、明日見らいふ南大沢においても様々な課題に直面していくと思われるが、2020年度も健全な施設運営に努めていく。

さて、明日見らいふ南大沢を見てみると、入居者の平均年齢は、昨年同時期と比較し0.5歳高くなり86.1歳(2019年11月末)となった。平均年齢の向上に伴い、何らかの支援を必要としている入居者も更に増えることも予想されるので今後も人材確保、職員の質の向上に努め、入居者が安心して暮らせる支援体制の充実に取り組んでいく。

2020年度は、2019年度の方針を踏襲しつつ更にもう一步前進していきたい。まず入居者サービス部門では、2018年度から「健康長寿」に繋がるプログラムとして取り組んできたスクエアステップエクササイズ・スクウェア9に加えて、このプログラムには体力的理由で参加が難しい方々を対象とした新たなプログラムを検討し、実施に向けて取り組んでいく。人材育成においては役職者のマネジメント能力の向上とともに、次世代の役職者育成に注力する。

最後に、2020年は夏季オリンピック・パラリンピック大会が56年ぶりに東京で開催される。開催地“東京”にある施設として観戦ツアーやパブリックビューイングなどオリンピック関連行事を企画しながらご入居者の皆さまにとって、楽しく思い出に残る1年にしていきたい。

【施設理念】

私たちは、ご入居者が終の棲家として、お互いがふれあい、孤独ではなく安心して生活できる施設創りを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 安心・信頼できる施設運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 東京都住宅供給公社と聖隷福祉事業団が連携した施設運営

【事業・運営計画】

1. 入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供
 - (ア) 「健康長寿」に繋がるプログラムの定着と新しいプログラムの開発
 - (イ) 生活利便サービスの充実に向けた取り組み
 - (ウ) 要介護未認定入居者やサービスにつながりにくいケースに対する支援の実践
 - (エ) 入居時からシームレスな情報共有の仕組みづくり
 - (オ) 介護が必要になった時に向けてのご入居者の意志を聞き取る体制づくり
 - (カ) 認知症早期発見に向けての取り組み
 - (キ) ケア充実のための新しい福祉用具・IT機器導入の検討

2. 人材の育成

- (ア) 役職者のマネジメント能力の向上
- (イ) 次世代の役職者の育成
- (ウ) 自信につながる専門領域の習得
- (エ) 各課の役割を理解し、連携強化を図れる職員の育成
- (オ) 権利擁護・リスクマネジメント能力の向上

3. 地域との交流・協力関係づくり

- (ア) 納涼祭・介護セミナー等を通じて開かれた施設づくり
- (イ) 高齢者あんしんセンターとの繋がりによる専門職としての活動の機会づくり
- (ウ) ご入居者の経験や知識を活かした地域貢献活動の場所づくり
- (エ) 地域活動への参加

4. 環境・エコ活動への取り組み

- (ア) ご入居者と共同・協働による環境活動の実施
- (イ) 省エネへの取り組みの継続
- (ウ) 防災対策・ハードの見直し

5. 入居者募集

- (ア) 募集業務の理解を深める
- (イ) 新規入居者のスムーズな受入れ

6. その他

☆オリンピック開催地として、ご入居者と共に記念に残るイベントの実施

【数値指標】

2020 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	294/317 戸		46 戸/53 戸		340 戸/370 戸			
入居者数/定員	332 名/482 名		46 名/53 名		378 名/535 名			
入居率	92.7%		86.8%		91.9%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	16.7 名	10.5 名	20.1 名	19.2 名	16.0 名	13.5 名	12.0 名	108.0 名
職員数（常勤換算）	107.52 名							
サービス活動収益 ※	116,600 千円							

※クリニック南大沢施設診療所のみ

法人本部

2020年度は聖隷福祉事業団創立90周年を迎える年であり、現中期事業計画の最終年度でもある。近年、大規模投資が集中したため、一層のBS、CFを意識した経営が求められるところであるが、この節目の年を将来に向けて新たなチャレンジする契機とし、充実した本部機能を発揮できるよう整備を進める。高齢者人口の増加と現役世代人口の減少により医療福祉の働き手の確保は極めて重大な継続的課題である。多様な人材の確保・育成に引き続き務めると共に、長時間労働の是正や医師等の専門職の働き方の検討を推進し、両立支援や健康管理などより働きやすい職場づくりに取り組む。働き方改革と同時にICTの導入や財務新システムの導入などに取り組み、事業団全体の生産性向上を目指していく。

地域公益的活動の推進など社会福祉法人に対する期待は高まっており、ガバナンスやコンプライアンスの強化、戦略的なICTの投資や広報展開など社会福祉法人としてより高い経営力が発揮できる体制整備に努めていく。

法人本部では次の項目を2020年度重点目標として掲げる。

1. 多様な人材確保・育成と柔軟な働き方への対応
2. 社会福祉法人の使命の追求と地域共生社会の実現
3. 先駆的な取り組みと最高のサービスの提供
4. 経営の安定化と将来を見据えた組織改革

各部署は、次の年度事業目標（重点施策）を策定する。

[総務部]

1. 育児・介護・病気に関する両立支援制度のニーズに即した拡充・改定
2. 働き方改革（長時間労働の是正・非正規職員の処遇検討・多様な働き方）の推進
3. 医師等専門職の働き方及び処遇の検討
4. 地域における公益的な取組等の適切かつ積極的な情報開示
5. 事業団全体の生産性向上への取組推進
6. ICT等の活用による業務の省力化の検討
7. 災害対応体制の整備
8. 健康管理業務体制整備の検討
9. 新しいガバナンス体制検討

[人事企画部]

1. 多様な人材・必要な人材を採用する
2. 離職防止に対する取組みや長く働くための制度構築を実施する
3. 多様な人材が活躍することができる人材育成体制を構築する
4. 外部研修事業の研修稼働率を前年比プラスとする

[財務部]

1. B S 経営、C F 経営の推進による事業団経営管理機能強化
2. 財務部門における生産性・効率性向上に向けた取り組み
3. 経理職員の育成
4. 災害対策への取り組み

[総合企画室]

1. 将来を見据えた事業計画・組織改革を実施する
2. 効果的な病院経営支援の実践と人材育成
3. 全国の社会福祉法人の模範となる広報活動の強化と推進する

[総合情報システム部]

1. 情報部門に必要とされる人材の育成と働き方の見直し
2. 地域共生社会の実現に寄与する事業部への支援と災害対策
3. I C T を活用した情報基盤の確立と先駆的な取り組み
4. 経営の安定化に寄与する環境整備と将来の情報部門の在り方検討

[監査室]

1. 内部監査の精度向上
2. 内部通報制度の充実
3. コンプライアンス経営に資する教育活動